

Endeavor MR6500/6500E



ユーザーズマニュアル

Windows Vista

ご使用の前に

- コンピューターをご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。



電子の情報もご覧ください

PCお役立ちナビ  p.4

コンピューターの操作方法や、トラブル時の対処方法など、本機に関する情報を簡単検索できるサポートツールです。デスクトップ上のアイコンから起動します。

情報マップ (知りたい情報はどこにある?)

本機に関する情報は、次の場所で見ることができます。

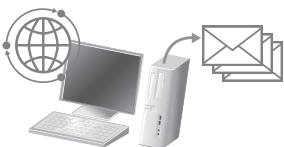

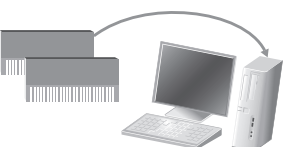


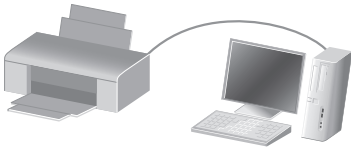
購入時

使いはじめ
→
使いこなしたいとき

困ったとき

故障
したとき

やりたいこと

- 本機の添付品を知りたい
- Windowsをセットアップしたい
- コンピューターを設置したい
- Windowsの操作方法を知りたい
- 用語を調べたい
- ソフトウェアの操作方法を知りたい
- 周辺機器(プリンター、デジタルカメラなど)を使いたい
- オプション製品(キーボード、マウス、USB FDD、ソフトウェアなど)を使いたい
- インターネット/メールをしたい **p.77**

- CD/DVDを使いたい **p.54**

- 装置を増設したい **p.95**

- サウンドの設定をしたい **p.69**

- セキュリティー設定をしたい **p.80**

- USB機器を接続したい **p.65**

- データをバックアップしたい **p.197**
- BIOSの設定を変更したい **p.129**
- HDD領域を分けたい **p.200**
- 再インストール(リカバリー)をしたい **p.156**
- 省電力で使いたい **p.88**
- 本機の仕様を知りたい **p.215**

- トラブルを解決したい

- サポート・サービス情報を知りたい
- 修理を依頼したい



紙マニュアル

紙で添付されている情報です。



PC お役立ちナビ

コンピューターの画面で見る電子の情報です。

情報の場所



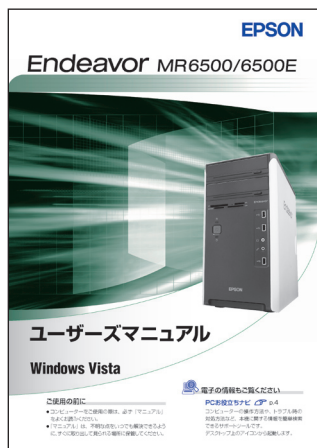
スタートアップガイド



オプション製品のマニュアル

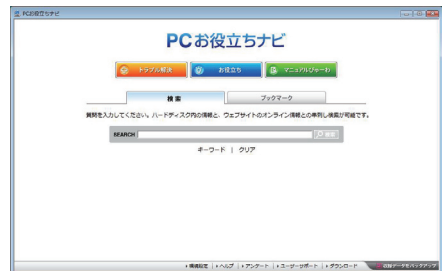


ユーザーズマニュアル(本書)



PCお役立ちナビ p.4

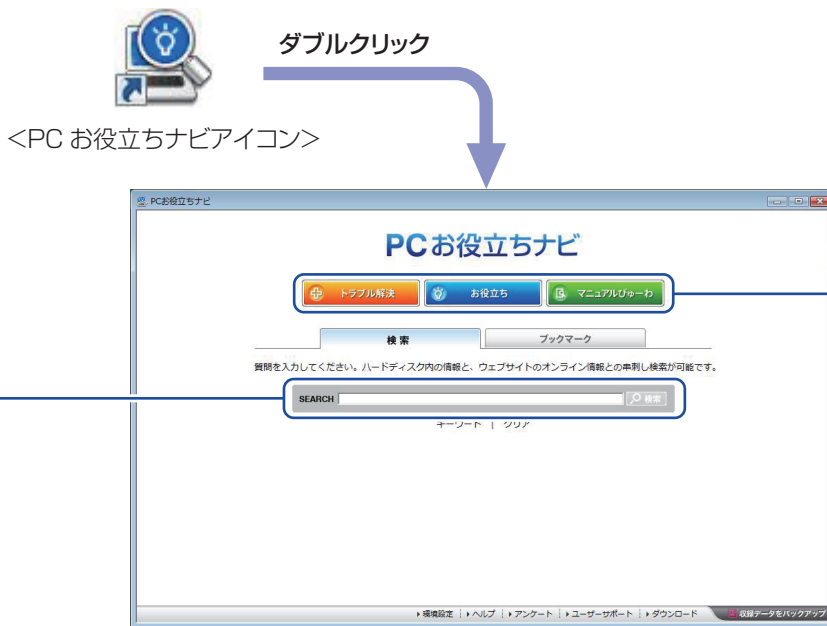
「PC お役立ちナビ」の詳細は、次ページをご覧ください。



サポート・サービスのご案内

知りたい情報はこれで検索！ PC お役立ちナビ

本機には、知りたい情報を簡単に検索できるサポートツール「PC お役立ちナビ」が搭載されています。困ったときや、役立つ情報を知りたいときなどにお使いください。

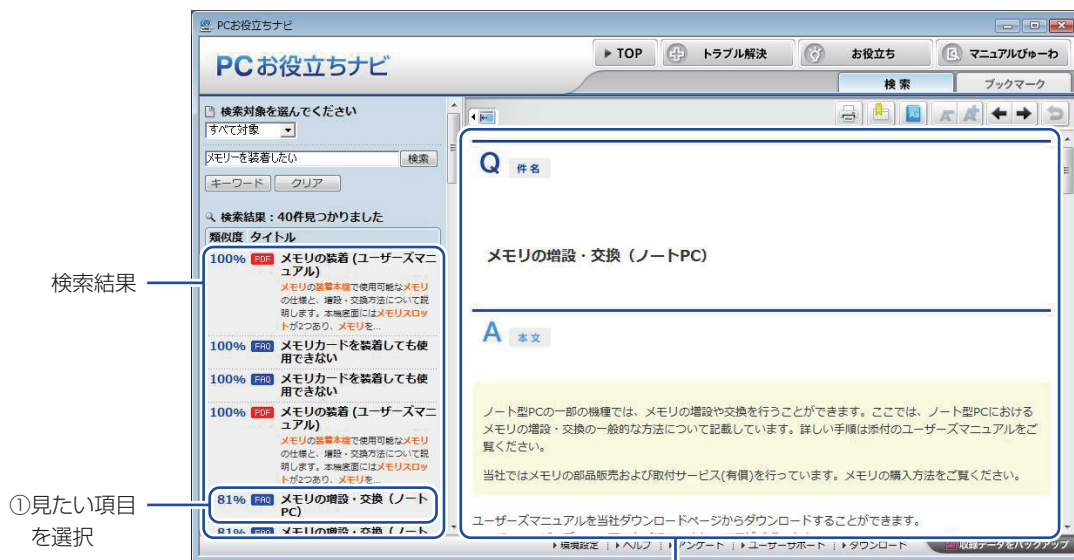


① 検索をする

TOPページから
検索実行

本機に収録されている情報+ユーザーサポート
ページのオンライン情報を一度に検索

※本機に収録されている情報 = サポートコンテンツ・マニュアル (PDF)・ヘルプなど
※インターネットに接続していない場合は、本機に収録されている情報のみを検索します。



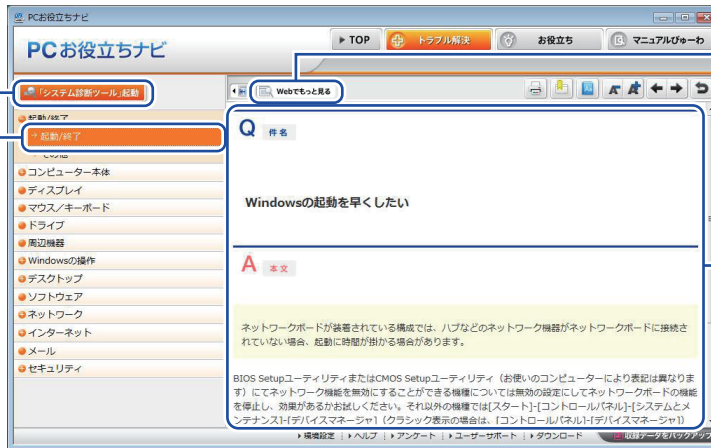
② 内容が表示される

② おすすめコンテンツ・マニュアルを見る

トラブル解決 トラブルを解決するのに役立つ情報を収録しています。

システム診断
を実行

①トラブルの種類
を選択



もっと情報がほしい
とき→Webへ

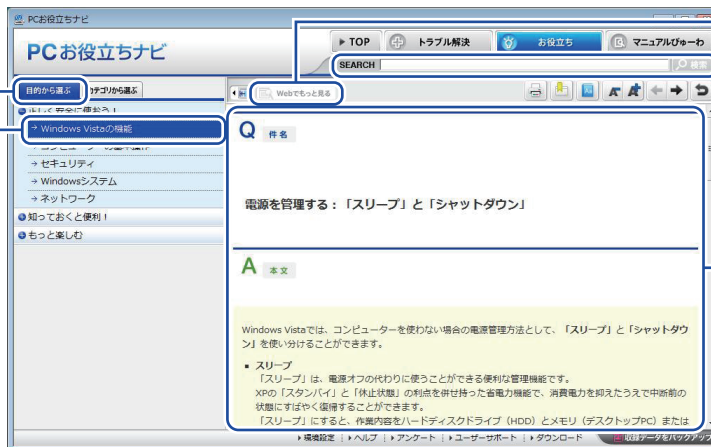
②内容が表示される

お役立ち

コンピュータの便利な使い方や、役立つ情報を収録しています。

①情報の分類を
選択

②見たい項目を
選択



もっと情報がほしい
とき→Webへ

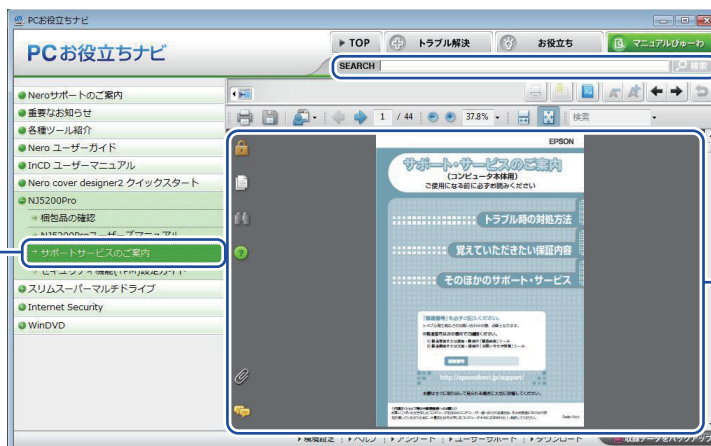
「お役立ち」内の
情報を検索

③内容が表示される

マニュアルびゅーわ

本機に添付されているマニュアルのPDFデータを収録しています。

①見たいマニュアル
を選択



「マニュアルびゅーわ」
内の情報を検索

②マニュアル(PDF)
が表示される

<画面はイメージです>

目次

ご使用の前に

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項や、取り扱い上の注意などを説明します。

安全にお使いいただくために	10
製品保護上の注意.....	15
マニュアルの読み方.....	18
各部の名称	23
添付されているソフトウェア	25

1 コンピューターの基本操作

コンピューターの電源の入れ方や切り方、キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について説明します。

電源を入れる・切る.....	28
Windows 操作のヒント.....	32
キーボードを使う.....	36
マウスを使う	42
HDD を使う.....	43
RAID 機能.....	46
光ディスクドライブを使う	54
マルチカードリーダーを使う	60
USB 機器を使う	65
画面表示機能を使う.....	67
サウンド機能を使う.....	69
ネットワーク機能を使う	73
インターネットに接続する	77
インターネットを使用する際のセキュリティ対策	80
省電力機能	88
そのほかの機能.....	92

2 システムの拡張

装置の増設・交換方法について説明します。

拡張できる装置.....	96
作業時の注意	97
拡張時の準備作業.....	98
メモリーの装着.....	104
拡張ボードの装着.....	110
ドライブ装置とコネクタの接続.....	116
5.25 型ドライブの装着.....	118
HDD の装着.....	122

3

BIOS の設定

コンピューターの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOS の設定を始める前に.....	130
BIOS Setup ユーティリティの操作.....	131
BIOS Setup ユーティリティの設定項目.....	144

4

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

ソフトウェアの再インストール.....	156
---------------------	-----

5

困ったときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら.....	176
起動・画面表示できないときは.....	177
トラブル時に効果的な対処方法.....	184

付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

お手入れ.....	196
データのバックアップ.....	197
セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化... ..	199
HDD 領域 (ドライブ) の分割・変更・作成.....	200
リチウム電池の交換.....	209
コンピューター内部のケーブル接続.....	212
コンピューターを廃棄するときは.....	213
機能仕様一覧.....	215



ご使用前に



本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項や、取り扱い上の注意などを説明します。

安全にお使いいただくために	10
製品保護上の注意.....	15
マニュアルの読み方.....	18
各部の名称	23
添付されているソフトウェア	25


安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。




その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- 障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。
---	-------------------------------------

- 障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。
	アース端子を接地（アース）することを示しています。

⚠ 警告



交流 100V 以外の電源は、使用しないでください。
交流 100V 以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。
感電の原因となります。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。
取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。
- ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。

電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。
発熱し、火災の原因となります。
家庭用電源コンセント（交流 100V）から電源を直接取ってください。



破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。
電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・電源コードを加工しない。
- ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・電源コードの上に重いものを載せない。
- ・発熱器具の近くに配線しない。

電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、[別冊](#)『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。



本機から異臭や異音がする、発煙するなど、異常状態のまま使用しないでください。
感電・火災のおそれがあります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、[別冊](#)『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。
お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。




通風孔など開口部から、本機内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。

警告



水などの液体や異物が本機内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『別冊』『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。



光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。

飛び散って、けがをする危険があります。



本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。

けが・感電・火災の原因となります。



装置の増設・交換などをするときには、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜かないで作業すると、感電や火傷の原因となります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。

飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



アルコール、シンナー、ガソリンなど揮発性可燃物質または可燃性ガスのある場所では使用しないでください。

また、本機の内部や周囲で可燃性ガス含有のスプレーを使用しないでください。

火災の原因となります。



電源プラグのアース端子を接地（アース）してください。

接地しないで使用すると、感電の危険性があります。

アースは必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。また、アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。



アース端子は、絶対にガス管に接続しないでください。

火災の原因となります。



アース端子は、コンセントに挿入または接触させないでください。

感電の危険があります。

⚠ 注意



小さなお子様の手の届く所に設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。



本機の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は、次の点を守ってください。

- ・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。
- ・じゅうたんや布団の上などに設置しない。
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。



装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。
本機の電源を切って 10 分以上待ち、内部が十分冷めてから作業を行ってください。



マウス底面にある光学式センサーの光を直接見つめないでください。
強い光により、視覚障害の原因となります。



ヘッドフォンやスピーカーは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。



光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れ、挟まれないようにしてください。
けがの原因となります。



長時間または不自然な姿勢でのコンピューター操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。



本機を移動する場合は、電源を切り、本機からすべての配線を取り外してください。

注意



連休や旅行などで本機を長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

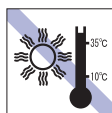


本機を廃棄する場合は、法律に従って正しく処理してください。

製品保護上の注意

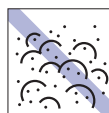
使用・保管時の注意

コンピューター（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。

故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は 10℃～35℃です。



ホコリの多い所には置かないでください。

故障、誤動作の原因となります。



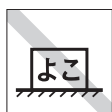
直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。

故障、誤動作の原因となります。

また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



コンピューター本体を横置きにしないでください。

故障、誤動作の原因となります。

本機は縦置き専用に設計されています。



電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。

電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリー上から消えてしまいます。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。

変色や変形の可能性があります。

柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



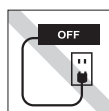
本機の上には重い物を載せないでください。

重圧により、故障や誤動作の原因となります。



本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。

衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。

電源を切っても、本機内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



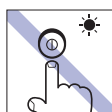
輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。

配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。

内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。

記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

記録メディアの種類は、次のように表示します。

FD FD **CD** 光ディスクメディア **MC** メモリーカード

記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。



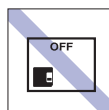
直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



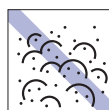
上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。



クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD 専用クリーナーを使ってください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。

CD



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングする CD は使わないでください。

CD



シールを貼らないでください。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

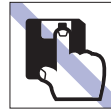
CD



何度も読み書きした FD は使わないでください。

摩耗した FD を使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD



アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

FD MC



磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。

シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。

FD MC



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD MC

マウス

マウスは精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



レンズ部分に触れないでください。



持ち運びの際はマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因となります。

マニュアルの読み方

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリー容量・光ディスクドライブなど、選択された仕様に合わせて、お客様オリジナルのコンピューターとして組み立て、納品されています。

本書で記載しているコンピューターの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバーのインストール方法などは、購入時に選択された各装置に添付のマニュアルを参照してください。

メモリー	: 1枚
HDD	: 1台
マルチカードリーダー	: 1台
光ディスクドライブ	: 1台
ディスプレイ機能	: ビデオボードの機能を使用
ネットワーク機能	: マザーボードの機能を使用
サウンド機能	: マザーボードの機能を使用
キーボード	: 106 PS/2 コンパクトキーボード (ホットキー付)
マウス	: ホイール付 USB オプティカルマウス

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、「ユーザーズマニュアル」(本書)とは別に添付されている場合があります。



お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されていますので、ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに収録されている電子マニュアル (PDF ファイルなど)
- コンピューターに収録されている電子マニュアル (「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」から閲覧)

マニュアル中の表記










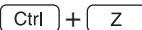


安全に関する記号

本書では次のような記号を使用しています。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。




一般情報に関する記号

本書では、次のような一般情報に関する記号を使用しています。

	制限事項です。 機能または操作上の制限事項を記載しています。
	参考事項です。 覚えておくと便利なことを記載しています。
	操作手順です。 ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
	手順が次ページに続くことを示します。
	 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。  は Enter キーを表します。また、  は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
	+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。 この例では、  を押したまま  を押します。

参照先に関する記号

本書では、次のような参照先に関する記号を使用しています。

	本書内の参照ページを示します。
	別冊子を示します。
「 」	別冊子の名称を示します。 例) 『サポート・サービスのご案内』
	サポートツール「PC お役立ちナビ」を示します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CD メディア、DVD メディア、Blu-ray Disc メディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリーカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SD メモリーカード、スマートメディア、コンパクトフラッシュの総称

オペレーティングシステム (OS) に関する表記

本書では、オペレーティングシステム (OS) の名称を次のように略して表記します。

Windows Vista	Windows Vista [®] Ultimate Windows Vista [®] Business Windows Vista [®] Home Premium Windows Vista [®] Home Basic
---------------	--

HDD 容量の記載

本書では、HDD 容量を 1GB (ギガバイト) = 1000MB として記載しています。

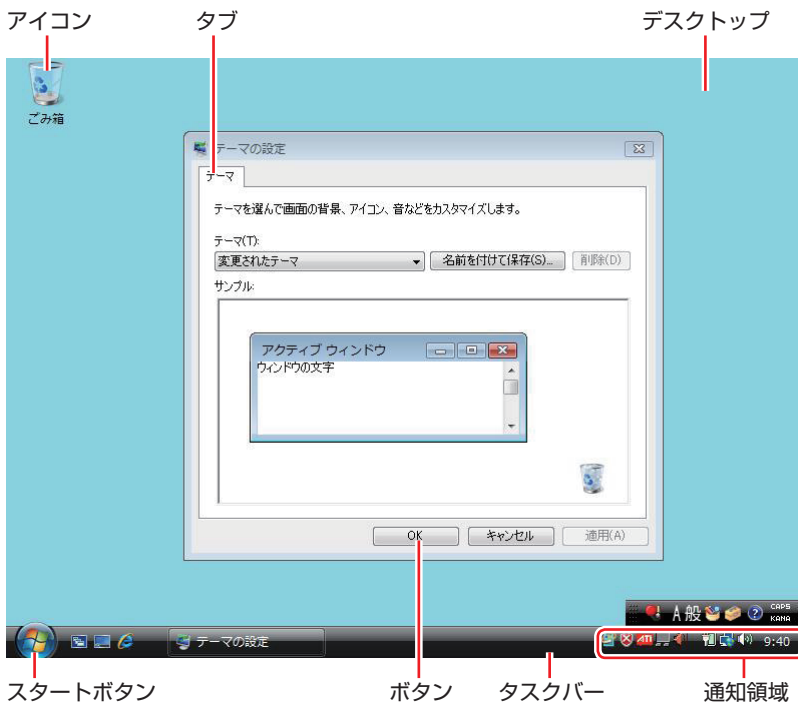
メモリー容量の記載

本書では、メモリー容量を 1GB (ギガバイト) = 1024MB として記載しています。

Windows Vista の画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windows Vista の画面に表示される各箇所の名称を次のように記載しています。



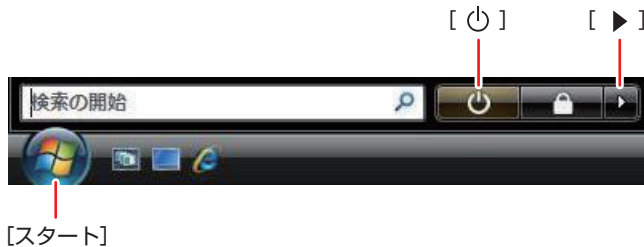
ボタン

ボタンは [] で囲んで記載しています。

例)  : [OK]

スタートメニュー

[スタート] を押すと表示されるスタートメニューのボタン類は、次のように記載しています。



画面操作

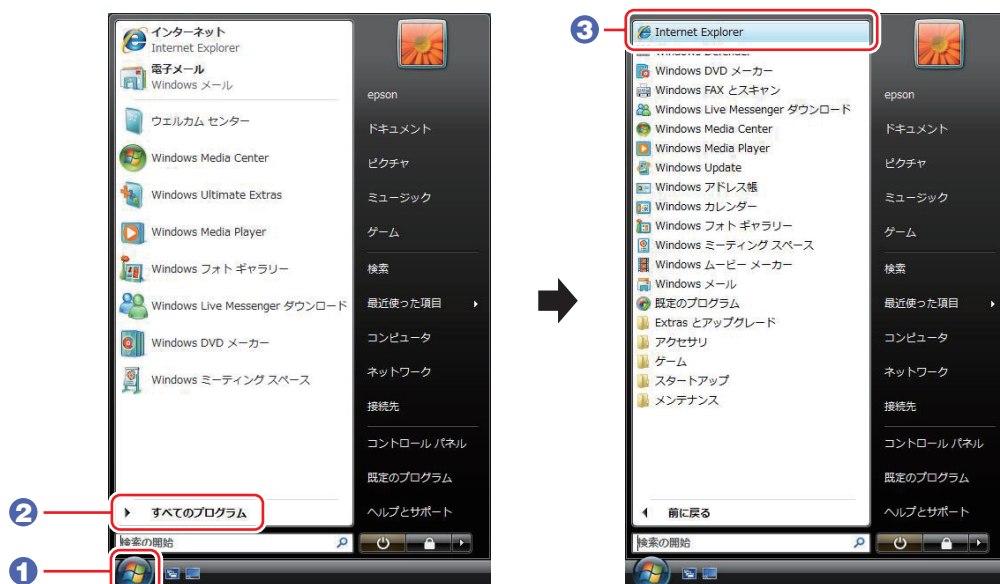
本書では、Windows Vista の画面上で行う操作手順を次のように記載しています。

●記載例

[スタート] – 「すべてのプログラム」 – 「Internet Explorer」 をクリックします。

●実際の操作

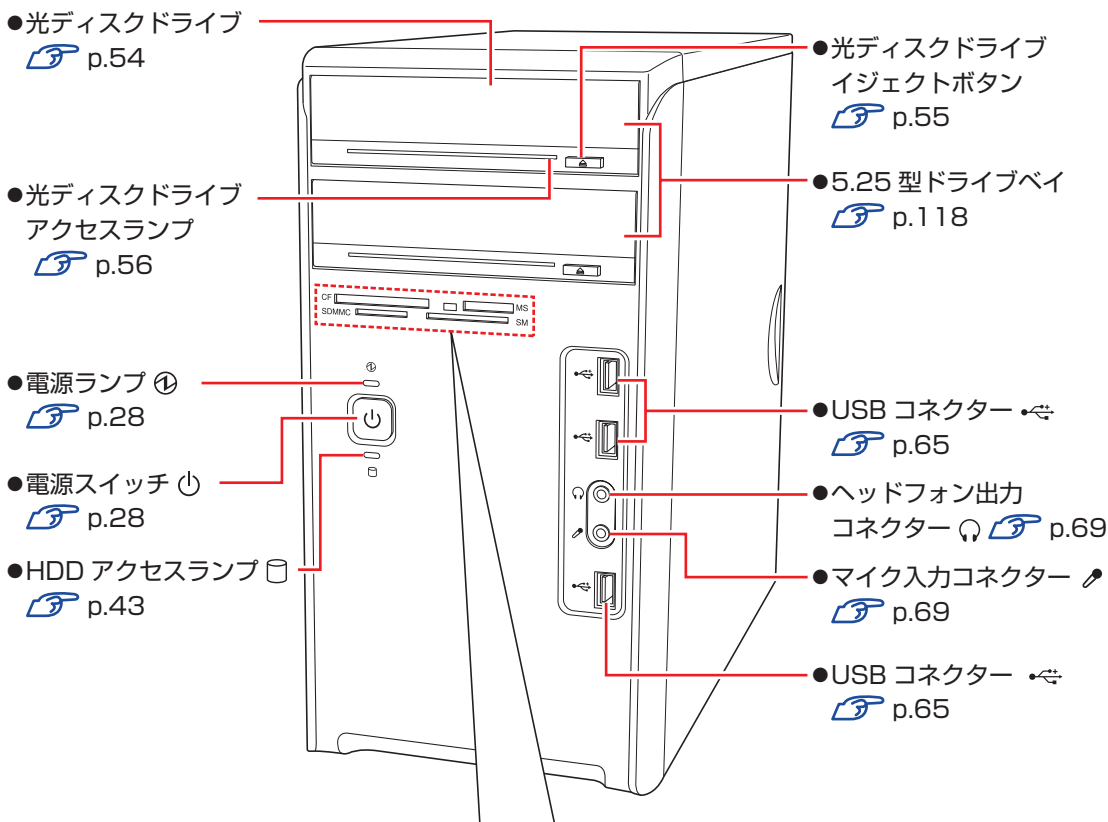
- 1 [スタート] をクリックします。
- 2 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
- 3 表示されたメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



※表示される項目は、システム構成によって異なります。

各部の名称

本体前面



マルチカードリーダー p.60

●コンパクトフラッシュ
スロット CF

●SD カードスロット
SDMMC



●マルチカードリーダー
アクセスランプ

●メモリースティック
スロット MS

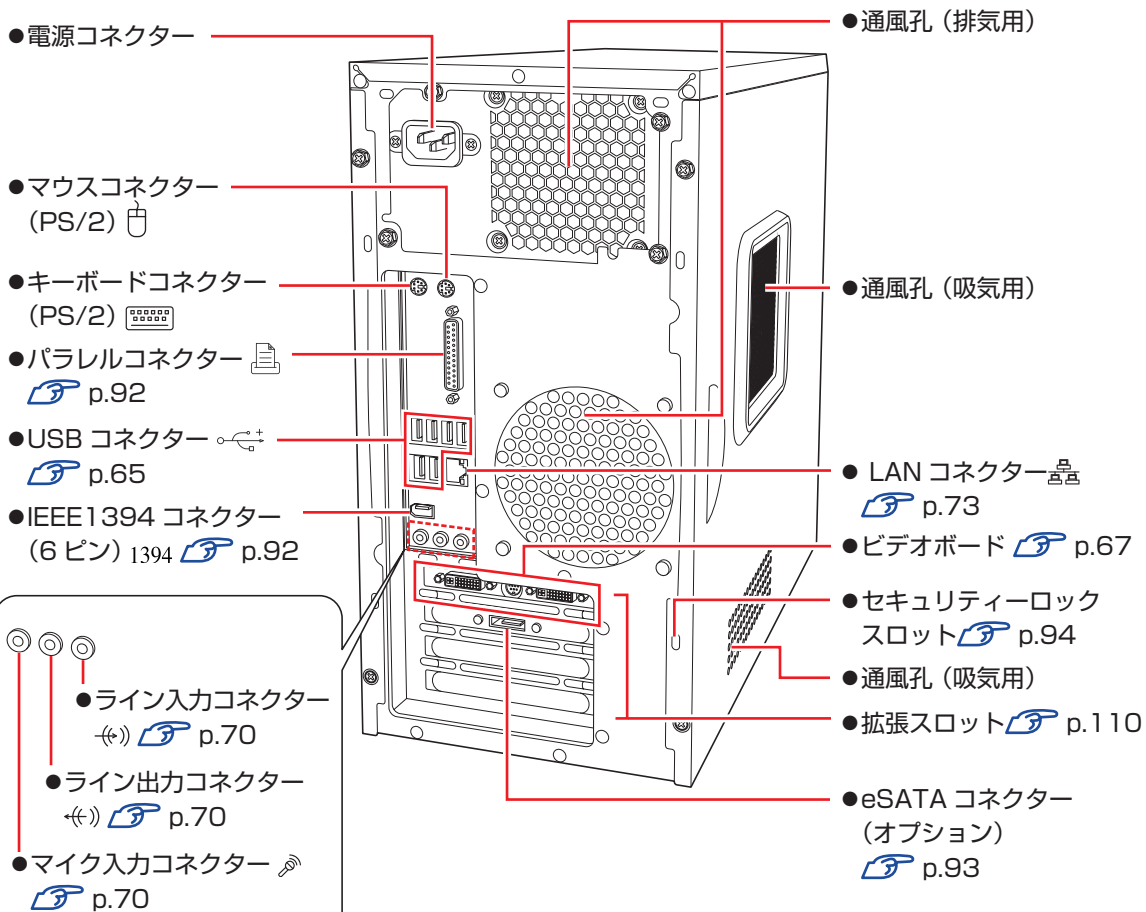
●スマートメディア
スロット SM



制限

アクセスランプが点灯・点滅しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

本体背面









添付されているソフトウェア

本機に添付されているソフトウェアについて説明します。


本機にインストールされているソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none">● Windows Vista 本機のオペレーティングシステム (OS) です。	 Windows Vista リカバリ DVD
<ul style="list-style-type: none">● 本体ドライバー<ul style="list-style-type: none">• チップセットドライバー マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバーです。• Intel Matrix Storage Manager Windows 上で HDD の状態を確認するためのユーティリティです。• サウンドドライバー マザーボード上のサウンド機能を使用するためのドライバーです。• ネットワークドライバー マザーボード上のネットワーク機能を使用するためのドライバーです。• Java2 Runtime Environment Java アプリケーションを実行するためのソフトウェアです。• PC お役立ちナビ コンピューターの情報を簡単に検索できるサポートツールです。 システム診断ツールも含まれています。	 ドライバー CD
<ul style="list-style-type: none">● Adobe Reader PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
<ul style="list-style-type: none">● ビデオドライバー 本機に装着されているビデオボードを使用するためのドライバーです。	 ビデオドライバー CD
<ul style="list-style-type: none">● WinDVD DVD VIDEO を再生するためのソフトウェアです。 DVD-ROM ドライブ (再生ソフトなし) の場合は添付されていません。	 WinDVD CD-ROM
<ul style="list-style-type: none">● Nero 8 Essentials (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ) 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。	 Nero 8 Essentials CD-ROM
<ul style="list-style-type: none">● 106 PS/2 コンパクトキーボードユーティリティ (選択時のみ) 106 PS/2 コンパクトキーボードのホットキーを使用するためのユーティリティです。	 106 PS/2 コンパクト キーボードユーティリティ CD


必要に応じてインストールするソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

必要に応じてインストールするソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none">●Norton Internet Security 90 日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺対策機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。	 ドライバー CD
<ul style="list-style-type: none">●i-フィルター 5 30 日版 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを制限する Web フィルタリングソフトウェアです。	
<ul style="list-style-type: none">●マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版 Web サイトの安全性評価を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐ Web セーフティーツールです。	
<ul style="list-style-type: none">●JWord Plugin Internet Explorer のアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。	
<ul style="list-style-type: none">●goo スティック Internet Explorer のツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。	
<ul style="list-style-type: none">●セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップ (TPM) の設定を行うためのユーティリティです。	

そのほかのソフトウェア

次のソフトウェアは、CD から起動して実行します。インストールは必要ありません。

そのほかのソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none">●システム診断ツール 本機の調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD 内のデータを消去することもできます。	 ドライバー CD

1

コンピューターの基本操作

コンピューターの電源の入れ方や切り方、キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について説明します。

電源を入れる・切る.....	28
Windows 操作のヒント.....	32
キーボードを使う.....	36
マウスを使う.....	42
HDD を使う.....	43
RAID 機能.....	46
光ディスクドライブを使う.....	54
マルチカードリーダーを使う.....	60
USB 機器を使う.....	65
画面表示機能を使う.....	67
サウンド機能を使う.....	69
ネットワーク機能を使う.....	73
インターネットに接続する.....	77
インターネットを使用する際のセキュリティ対策...	80
省電力機能.....	88
そのほかの機能.....	92

電源を入れる・切る

電源の入れ方や切り方、再起動や強制終了の方法を説明します。

電源を入れる

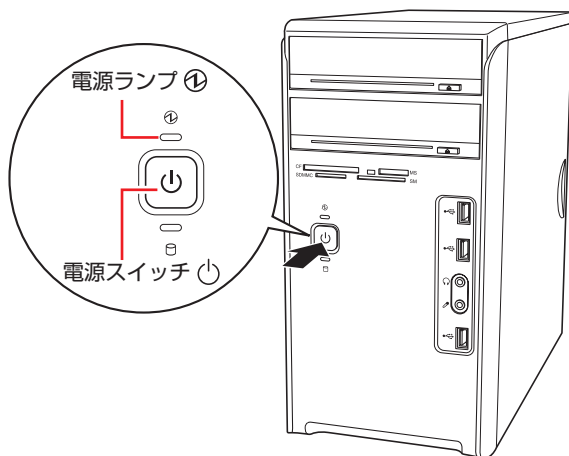
！ 制限

- 周辺機器の電源をいつ入れるかは、周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。
電源を入れるタイミングがコンピューターより先か後かは、周辺機器により決まっています。
- USB フラッシュメモリーや USB HDDなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置の接続やFDのセットは、Windows起動後に行ってください。
USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
[👉 p.141 「起動 \(Boot\) デバイスの順番を変更する」](#)
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。
電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

シャットダウン状態から本機の電源を入れる方法は、次のとおりです。

1 ディスプレーやスピーカーなどの電源を入れます。


2 電源スイッチ (⏻) を押します。
電源ランプ (①) が緑色に点灯します。



画面に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

キーボードで電源を入れる

PS/2 キーボードをお使いの場合、キーボードを操作して本機の電源を入れることもできます。
※事前に BIOS での設定が必要です。

 p.40 「キーボードからの起動」


1 **Ctrl** + **Esc** または **Power** キー () を押します。

本機の電源が入り、Windows が起動します。



参考

電源が入らないときは

電源が入らないときは、 p.177 「起動・画面表示できないときは」をご覧ください。


電源を切る



制限

- 電源を切って、もう一度電源を入れる場合は、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDD などの動作を安定させるために、20 秒程度の間隔を空けてください。
- HDD などのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。


本機の電源を切る（シャットダウンする）方法は、次のとおりです。

1 **[スタート]** () - **[▶]** - 「シャットダウン」をクリックします。

Windows が終了し、自動的に電源が切れます。

2 ディスプレーなど、接続している周辺機器の電源を切ります。

キーボードで電源を切る

106 PS/2 コンパクトキーボードをお使いの場合、キーボードの Power キー () で、Windows を終了させることもできます。

1 キーボードの **Power** キー () を押します。

Windows が終了し、自動的に本機の電源が切れます。

2 ディスプレーなど、接続している周辺機器の電源を切ります。



参考

シャットダウン時の注意

Windows を複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、**[いいえ]** をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてからシャットダウンしてください。

スリープにする

本機をスリープにして終了すると、本機は低電力の状態になります。スリープからは、数秒で通常の状態に復帰することができます。

スリープについての詳しい説明は、 p.88 「省電力機能」をご覧ください。

終了方法

本機をスリープにして終了する方法は、次のとおりです。

1 [スタート] - [⏻] をクリックします。

本機がスリープになります。画面表示が消え、電源ランプ (Ⓛ) がオレンジ色に点灯します。



参考

ほかの方法でスリープにする

次の方法でも、本機をスリープにすることができます。

- [スタート] - [▶] - 「スリープ」をクリックする
- キーボードの Sleep キー (⌘) を押す

復帰方法



制限

復帰の際、周辺機器はスリープに入る前と同じ状態にしてください。

スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

本機をスリープから復帰させる方法は、次のとおりです。

1 電源スイッチ (⏻) を押します。

本機が通常状態に復帰します。

そのほかの復帰方法については、 p.91 「省電力状態からの復帰方法」をご覧ください。

再起動する

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」と言います。次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windows の動作が不安定になった場合

本機の再起動方法は、次のとおりです。

- 1** [スタート] - [▶] - 「再起動」をクリックします。

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてください。

ハングアップしたときは

ソフトウェアや Windows がキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。

ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

- 1** **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押します。
- 2** 表示された項目から「タスクマネージャの起動」をクリックします。
「Windows タスクマネージャ」が起動します。
- 3** 「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して「タスクの終了」をクリックします。
- 4** 「プログラムの終了」画面が表示されたら、「すぐに終了」をクリックします。

強制的に電源を切る

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

- 1** 電源スイッチ (⏻) を 5 秒以上押し続けます。
本機の電源が切れます。

Windows 操作のヒント

Windows 操作についてのヒントを記載します。

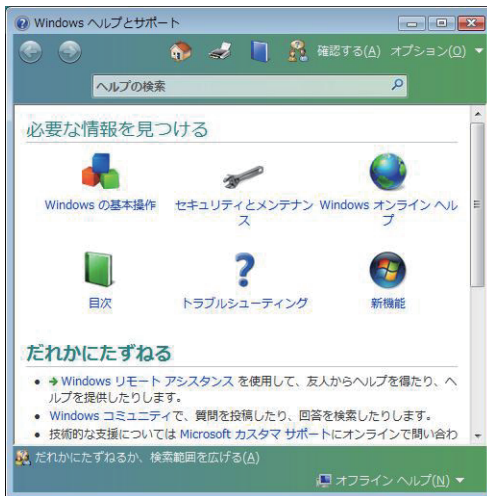
Windows Vistaの使用方法

Windows Vista の使用法は、次をご覧ください。


●ヘルプとサポート

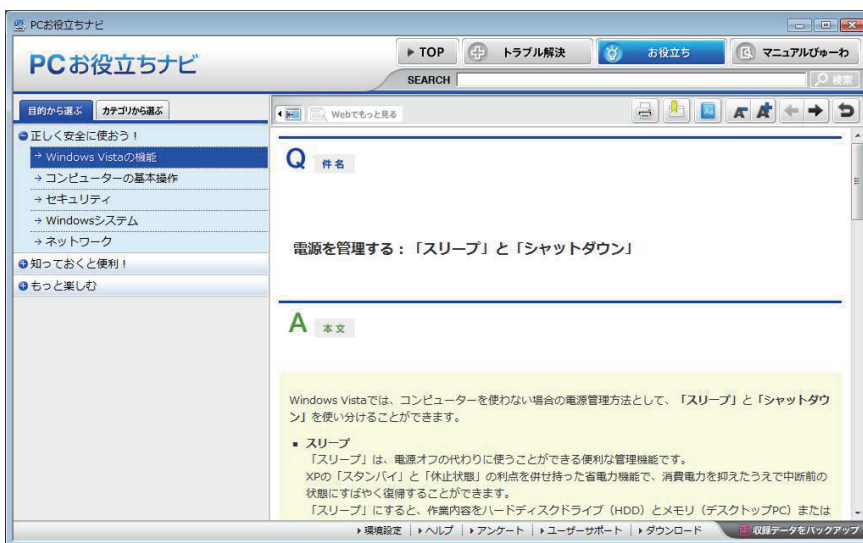
「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート] - 「ヘルプとサポート」



●「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」

 p.4 「知りたい情報はこれで検索！ PC お役立ちナビ」



復元ポイントを作成する

Windows の「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておく、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた復元ポイントまでシステムの状態に戻すことができます。

通常、復元ポイントはソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

 p.186 「復元ポイントを手動で作成する」

コントロールパネルの表示

コントロールパネルの表示には、次の 2 種類があります。

- カテゴリーの表示（コントロールパネルホーム）
項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定）。
- クラシック表示
項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示」、「コントロールパネルホーム」をクリックして行います。

本書では、「カテゴリーの表示」形式を前提に記載しています。

<クラシック表示>

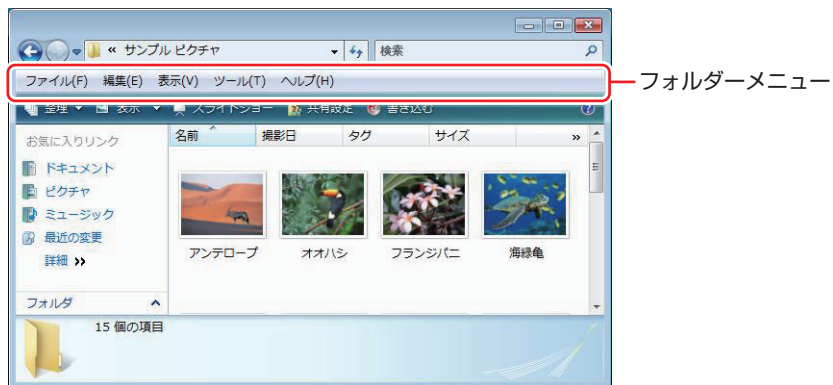


<カテゴリーの表示>

フォルダーメニューの表示

Windows Vista では、「ファイル」や「ツール」などのフォルダーメニューが標準では表示されません。

フォルダーメニューを表示したい場合は、**[Alt]** を押します。もう一度 **[Alt]** を押すと、フォルダーメニューは表示されなくなります。



常にフォルダーメニューを表示する

常にフォルダーメニューを表示したい場合は、次の設定を行います。

- 1 **[スタート]** - **[コントロールパネル]** - **[デスクトップのカスタマイズ]** - **[フォルダオプション]** - **[表示]** タブ - **[常にメニューを表示する]** にチェックを付けます。

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成すると便利です。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windows をユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

- [スタート]** - **[コントロールパネル]** - **[ユーザーアカウント(と家族のための安全設定)]** - **[ユーザーアカウント]** - **[別のアカウントの管理]** - **[新しいアカウントの作成]**

作成時、ユーザーアカウントの種類（権限）は、ユーザーに応じて設定してください。ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の 2 つがあります。

●管理者


すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバー、ソフトウェアのインストールをすることができます。

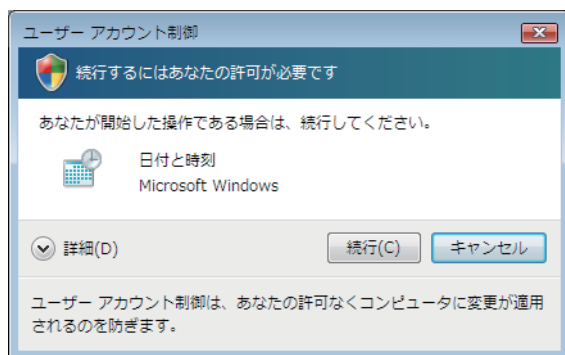
購入時やリカバリー時の Windows のセットアップで入力したユーザー名(アカウント)は、「管理者」になります。

●標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバー、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで  が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバーやソフトウェアのインストールをしようとする時、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。



表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントで Windows にログオンした状態を前提に記載しています。

キーボードを使う

ここでは、12個のホットキーを搭載した日本語対応106 PS/2コンパクトキーボードについて説明します。

購入時にこのほかのキーボードを選択し、キーボードのマニュアルが添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

キーの種類と役割

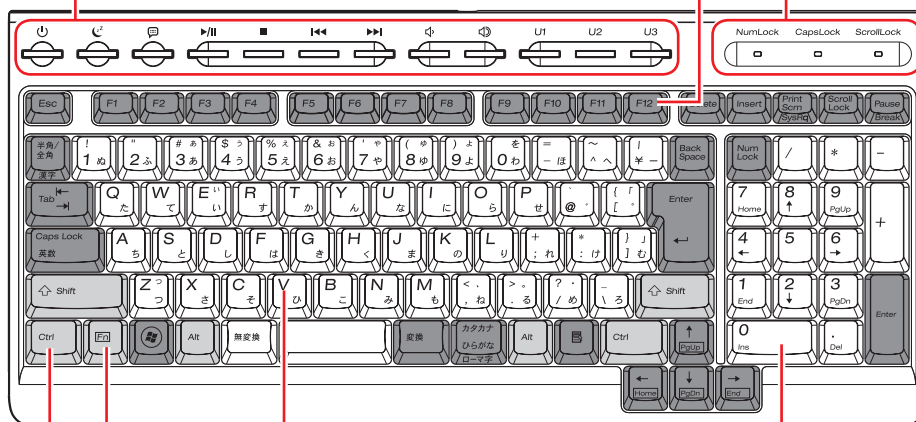
各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

●ホットキー p.39

●機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

●キーロック表示ランプ p.38



●文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

●数値キー

数字、演算子などを入力します。Num Lockの状態によりキーの機能が変わります。

●Fnキー p.38

●制御キー


文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え


 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IME の使い方

MS-IME パネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。




- **入力モード**
入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。
- **ヘルプ**
MS-IME の詳しい説明を見ることができます。
- **かなキーロック**
日本語入力モードの切り替えを行います。

ボタンが押されていない状態	ローマ字入力
ボタンが押されている状態	かな入力


MS-IME 以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。













キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字 / 小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

Fnキーと組み合わせて使うキー

次のキーは、 と組み合わせると、次のように使用することができます。














 + 	 (Page Up) の役割をします。
 + 	 (ページの先頭へ移動) の役割をします。
 + 	 (Page Down) の役割をします。
 + 	 (ページの最後へ移動) の役割をします。

ホットキーを使用する

各ホットキーには、Windows の終了、PC お役立ちナビの起動などの機能が割り当てられており、ホットキーを押すだけで、割り当てられた機能を実行することができます。

ホットキーの機能

各ホットキーに割り当てられた機能は、次のとおりです。

ホットキー	機能
Power キー 	Windows を起動 / 終了します。起動には、BIOS での設定が必要です。  p.40 「キーボードからの起動」
Sleep キー 	本機をスリープにします。  p.90 「省電力状態に移行する方法」
Information キー 	PC お役立ちナビを起動します。  p.4 「知りたい情報はこれで検索！ PC お役立ちナビ」
Play/Pause キー 	光ディスクの停止中に押すと再生、再生中に押すと再生を一時的に停止します。
Stop キー 	光ディスクの再生中に押すと、再生を停止します。
Previous Track キー 	前のトラックへ戻ります。
Next Track キー 	次のトラックへ進みます。
Volume Down キー 	音量を小さくします。
Volume Up キー 	音量を大きくします。
U1 キー	設定したソフトウェアを起動します。  p.39 「ホットキー (U1、U2、U3) の設定」
U2 キー	
U3 キー	

ホットキー (U1、U2、U3) の設定

ホットキーの U1、U2、U3 キーには、Internet Explorer や Windows メールなど、好きなソフトウェアを割り当てることができます。

ここでは、Internet Explorer を例にして、ソフトウェアの設定方法を説明します。

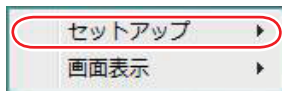
- 1** 通知領域の「キーボードユーティリティ」アイコンを右クリックします。



<キーボードユーティリティアイコン>



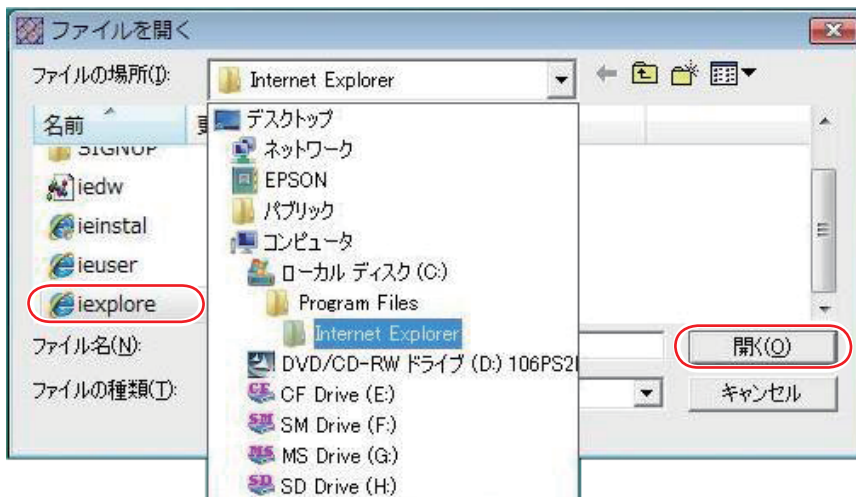
- 2** 画面中央に表示されたメニューから「セットアップ」を選択します。



- 3** 「セットアップ」のサブメニューから、設定するホットキーを選択し、「アプリケーション」をクリックします。



- 4** 「ファイルを開く」画面が表示されたら、「ファイルの場所」で「C ドライブ」－「Program Files」－「Internet Explorer」フォルダー内の「iexplore」を選択し、「開く」をクリックします。



これで、Internet Explorer を割り当てる設定は完了です。設定したホットキーを押すと、Internet Explorer が起動します。
そのほかのソフトウェアの場合も同様に設定することができます。

キーボードからの起動

PS/2 キーボードでは、BIOS の設定後、設定したキーを押すと、次のようなことができます。

- 本機の電源を入れる
- 本機を省電力状態から復帰させる

 p.91 「省電力状態からの復帰方法」

制限

- この機能は、USB 接続のキーボードでは使用できません。
- 電源切断時に、正常にシャットダウンした状態でのみ使用可能です。

BIOS の設定

PS/2 キーボードのキーで起動するには、BIOS の設定が必要です。
「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Power On By PS/2 Keyboard」：Enabled（有効）

 p.132 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.148 「Power メニュー画面」

「Power On By PS/2 Keyboard」を「Enabled」に設定したら、次の項目で起動に使用するキーを選択します。

「Wake up Key Select」：Ctrl + ESC または Power Key

マウスを使う

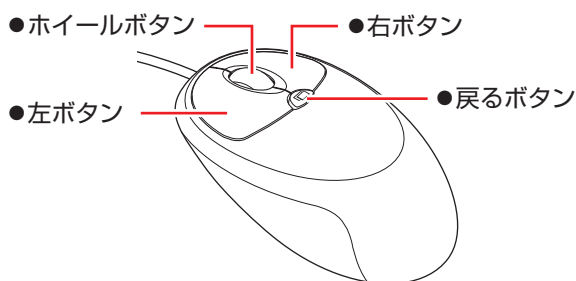
ここでは、ホイール付 USB オプティカルマウスについて説明します。

購入時にこのほかのマウスを選択し、マウスにマニュアルが添付されている場合は、マウスに添付のマニュアルで使用方法をご確認ください。

マウスの操作

！ 制限

- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピューターに伝わりません。
- アプリケーションソフトによっては、ホイールボタン、戻るボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを1回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。
戻る	戻るボタンを押すと、Internet Explorer やエクスプローラなどで「戻る」の操作を行うことができます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

【スタート】－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「マウス」

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

HDD を使う


本機にはシリアル ATA300MB/s 対応の HDD (ハードディスクドライブ) が搭載されています。HDD は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

！ 制限

- HDD のアクセスランプ点灯・点滅中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯・点滅中は、コンピューターが HDD に対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD 内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えると HDD が故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- HDD が故障した場合、HDD のデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDD に記録されている重要なデータは、CD メディアや外付け HDD などにバックアップしておくことをおすすめします。万一 HDD の故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、 p.197 「データのバックアップ」をご覧ください。

購入時のHDD領域

購入時の HDD は、お客様の選択により次のように設定されています。

通常

HDD の台数		ドライブ (領域)	容量
1 台または RAID モデル		消去禁止領域	約 700MB
		BitLocker : D ドライブ (Windows Vista Ultimate のみ)	約 1.5GB
		C ドライブ	残り
複数台	1 台目	消去禁止領域	約 700MB
		BitLocker : D ドライブ (Windows Vista Ultimate のみ)	約 1.5GB
		C ドライブ	残り
	2 台目以降	D または E ~*	1 台につき 1 台すべて

* ドライブ名は Windows の種類により異なります。

すべてのドライブは NTFS ファイルシステムでフォーマットされています。

HDD 設定変更サービスを選択された場合

HDD の台数		ドライブ (領域)	容量
1 台または RAID モデル		消去禁止領域	約 700MB
		BitLocker : D ドライブ (Windows Vista Ultimate のみ)	約 1.5GB
		C ドライブ	購入時に選択された容量
		D または E *	残り
複数台	1 台目	消去禁止領域	約 700MB
		BitLocker : D ドライブ (Windows Vista Ultimate のみ)	約 1.5GB
		C ドライブ	購入時に選択された容量
		D または E *	残り
	2 台目以降	E または F ~ *	1 台につき 1 台すべて

* ドライブ名は Windows の種類により異なります。

すべてのドライブは NTFS ファイルシステムでフォーマットされています。




参考

HDD 設定変更サービス

HDD 設定変更サービスとは、1 台目の HDD の領域を C ドライブ、D ドライブに分割した状態でコンピューターをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、「Windows 回復環境 (Windows RE)」が設定されています。Windows RE についての詳細は、次をご覧ください。

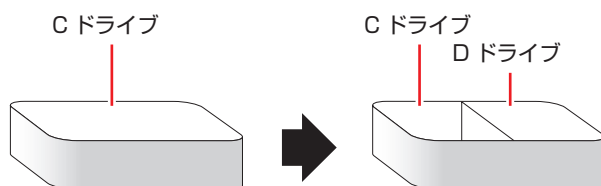
 p.190 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」


HDDを分割して使用する

1 台の HDD をいくつかの領域に分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。


1 台の HDD を分割する

例：1 つの HDD 領域 (C ドライブ) を 2 つの HDD 領域 (C ドライブと D ドライブ) に分割することができます。



C ドライブを分割する場合は Windows の再インストールが必要です。詳しくは、 p.201 「C ドライブを分割・変更する」をご覧ください。

HDDを増設・交換したら

HDD を増設・交換した場合は、 p.204 「C ドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください、ドライブの作成を行ってください。

RAID を構成する場合は、増設・交換した HDD にドライブを作成する必要はありません。

制限

すでにデータが登録されている HDD にドライブを作成すると、その HDD に登録されていたすべてのデータが消失します。ドライブを作成する前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

HDDの暗号化

Windows Vista Ultimate 使用時

Windows Vista Ultimate では、HDD 暗号化機能「BitLocker」を使用することができます。BitLocker の使用方法は、当社ユーザーサポートページのサポート情報をご覧ください。

<http://www.epsondirect.co.jp/support/redirect.htm?content=BitLocker>

参考

BitLocker とは

BitLocker は、HDD 内のドライブを暗号化するツールです。ドライブを暗号化することで、第三者が Windows を不正に起動したり、HDD 内のデータが漏洩したりすることを抑止することができます。

RAID 機能

RAID とは、同一容量の HDD を複数台組み合わせて使用するシステムのことです。ここでは、RAID の種類や RAID の構成・削除方法などについて説明します。
本機では、次の場合に RAID 機能を使用することができます。

- 購入時、RAID モデルを選択された場合
RAID モデルの場合、搭載の HDD であらかじめ RAID が構成されています。
- 同一容量の HDD を 2 台以上装着している場合
HDD 2 台または 3 台で RAID を構成して使用することができます。

RAID の種類



本機で使用できる RAID は、RAID0、RAID1 の 2 種類です。

種類	別名	HDD 必要台数	特徴
RAID0	ストライピング	2 台または 3 台	複数の HDD を 1 つに結合して使用。大容量のデータを高速に書き込むことができる。
RAID1	ミラーリング	2 台	2 台の HDD に同時に同じデータを書き込む。一方の HDD が破損しても、もう一方の HDD からデータを復旧することができる。

RAID の構成・削除・修復

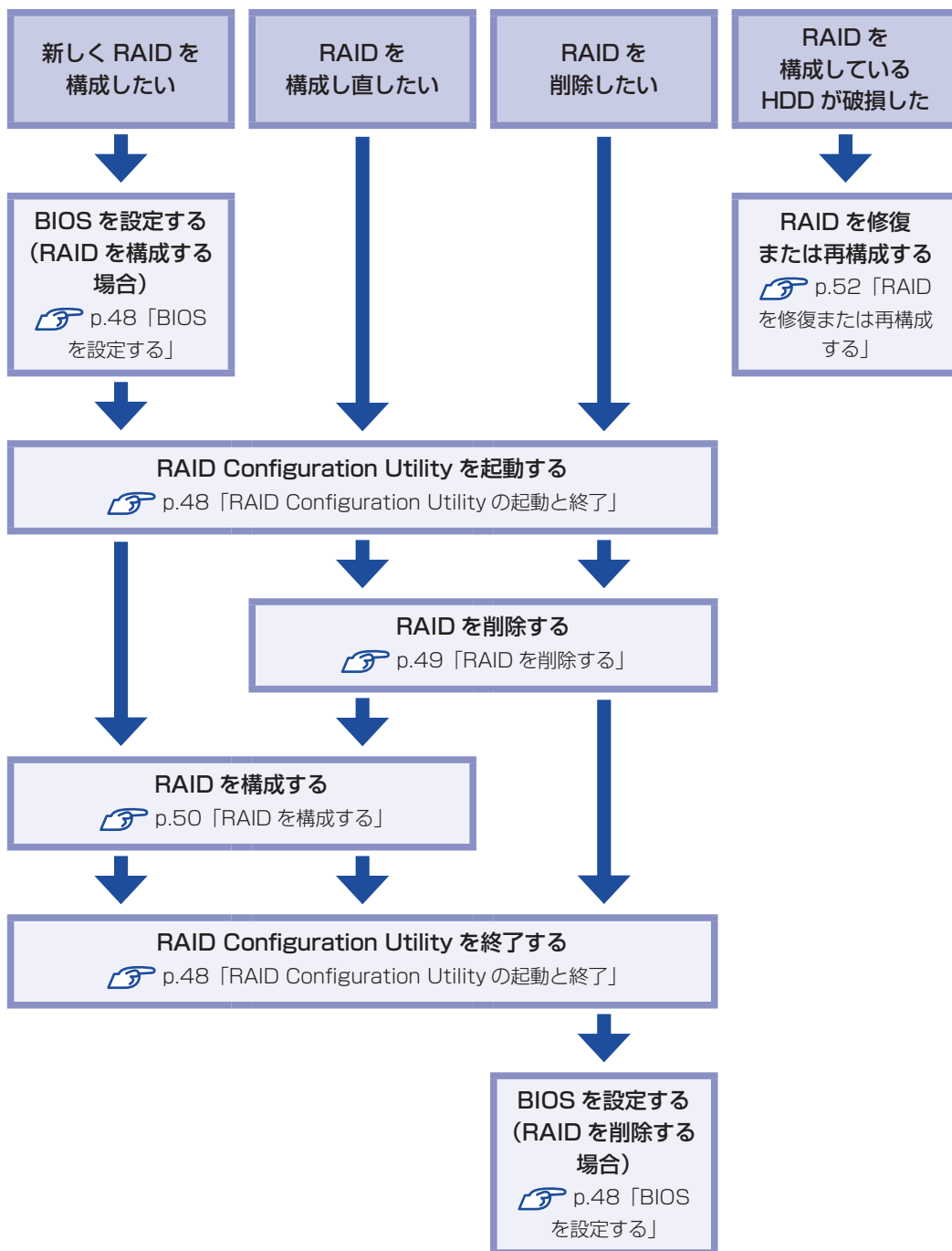
RAID の構成・削除・修復方法を説明します。

！ 制限

- RAID の構成・削除をすると、HDD に収録されているデータはすべて消失します。RAID の構成・削除をする前に、重要なデータをバックアップしてください。
- RAID を構成・削除すると、HDD 内の「Windows RE」は使用できなくなります。この場合は、「Windows Vista リカバリ DVD」に収録されている Windows RE を使用してください。
 p.190 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」
- RAID 構成時、HDD アクセス制限は使用できません。
 p.140 「HDD アクセス制限」

RAID の構成・削除・修復の流れ

次の流れに従って、RAID の構成・削除・修復を行ってください。



BIOS を設定する

RAID を構成・削除する場合は、BIOS の設定が必要です。

RAID を構成する場合

RAID を構成する場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定値を次のように変更してください。RAID モデルの場合は、あらかじめ「RAID」に設定されています。

「Main」メニュー画面－「IDE Configuration」

Configure SATA as : RAID

 p.132 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.144 「Main メニュー画面」

RAID を削除する場合

RAID を削除した後、RAID 機能を使用しない場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定値を次のように変更します。

「Main」メニュー画面－「IDE Configuration」

Configure SATA as : AHCI

 p.132 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.144 「Main メニュー画面」

RAID Configuration Utility の起動と終了

RAID Configuration Utility の起動、終了方法は次のとおりです。

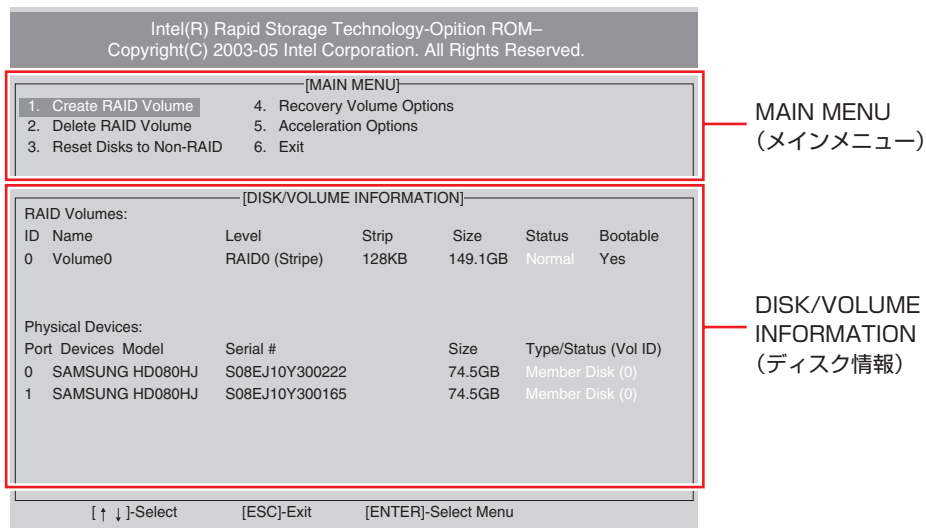
起動

- 1** キーボードの **Ctrl** と **I** の位置を確認します。
3 では、「Press < CTRL-I > to…」のメッセージが表示されている間に、すばやく **Ctrl** + **I** を押す必要があります。
- 2** 本機の電源を入れます。
すでに電源が入っている場合は、再起動します。

- 3** 画面に「EPSON」と表示された直後に「Press < CTRL-I > to enter Configuration…」と表示されたら、すぐに **[Ctrl] + [I]** を押します。

RAID Configuration Utility が起動します。

Windows が起動してしまった場合は、再起動してやりなおしてください。



< 画面はイメージです >

終了

- 1** 「[MAIN MENU]」項目で「6.Exit」を選択し、**[↵]** を押します。

項目の移動は **[↑]** **[↓]** で行います。

- 2** 次の確認メッセージが表示されたら、**[Y]** を押します。

Are you sure you want to exit ? (Y/N)

RAID Configuration Utility が終了します。

RAID を削除する

RAID を構成しなおすすめ場合や、RAID 機能を使用しない場合は、RAID を削除します。

RAID を削除する手順は、次のとおりです。

- 1** RAID Configuration Utility を起動します。

 p.48 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

- 2** 「[MAIN MENU]」画面で「2.Delete RAID Volume」を選択し、**[↵]** を押します。

- 3** 「[DELETE VOLUME MENU]」画面で、削除したいRAIDを選択し、**[Delete]** を押します。



4 次の確認メッセージが表示されたら、 を押します。

Are you sure you want to delete "XXX" ? (Y/N)

RAID が削除され、「MAIN MENU」画面が表示されます。「DISK/VOLUME INFORMATION」の「RAID Volumes:」で RAID が削除されたことを確認します。

5 RAID Configuration Utility を終了します。

 p.48 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

これで、RAID の削除は完了です。

RAID 機能を使用しない場合は、BIOS の設定値を変更してください。

 p.48 「BIOS を設定する」

RAID を構成する

本機で構成できる RAID は、RAID0、RAID1 です。

RAID を構成する手順は、次のとおりです。



制限

RAID を構成すると、HDD に収録されているデータはすべて消失します。

RAID を構成する前に、重要なデータをバックアップしてください。

1 RAID Configuration Utility を起動します。

 p.48 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

2 「MAIN MENU」画面で「1.Create RAID Volume」を選択し、 を押します。

3 「CREATE VOLUME MENU」画面が表示されたら、[Name] に任意の名前を入力し、 を押します。

RAID の名前を変更しない場合は、そのまま を押します。

4 「RAID Level」で「RAID0 (Stripe)」、 「RAID1 (Mirror)」のどちらかを選択し、 を押します。

5 RAID を作成する HDD を選択します。

RAID の種類や HDD の台数によっては、この手順はありません。





1 「Disks」で を押します。

2 「SELECT DISKS」画面が表示されたら、 (スペースキー) で 1 台目の HDD を選択します。

3 **2** と同様に 2 台目の HDD を選択します。

必ず **2** で選択した HDD と同容量の HDD を選択してください。RAID0 で 3 台目を選択する場合は、同様に HDD を選択します。

4 を押して HDD を確定します。

- 6** 「Strip Size」で  を押します。
RAID の種類によっては、この手順はありません。
- 7** 「Capacity」で  を押します。
- 8** 「Create Volume」が選択されている状態で  を押します。
- 9** 次の確認メッセージが表示されたら、 を押します。
Are you sure you want to create this volume ? (Y/N)

RAID が構成され、「MAIN MENU」画面が表示されます。構成した RAID の情報を「DISK/VOLUME INFORMATION」で確認することができます。


- 10** RAID Configuration Utility を終了します。
 p.48 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

- 11** 「BIOS Setup ユーティリティ」が表示されたら、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で、「Boot Device」が「RAID: Intel XXXX*」になっていることを確認します。

* XXXX は、**3** で設定した名前です。

「BIOS Setup ユーティリティ」が表示されない場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」を起動してから確認してください。

 p.131 「BIOS Setup ユーティリティの起動」

- 12**  を押し、「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」で [OK] を選択し、「BIOS Setup ユーティリティ」を終了します。

これで RAID の構成は完了です。

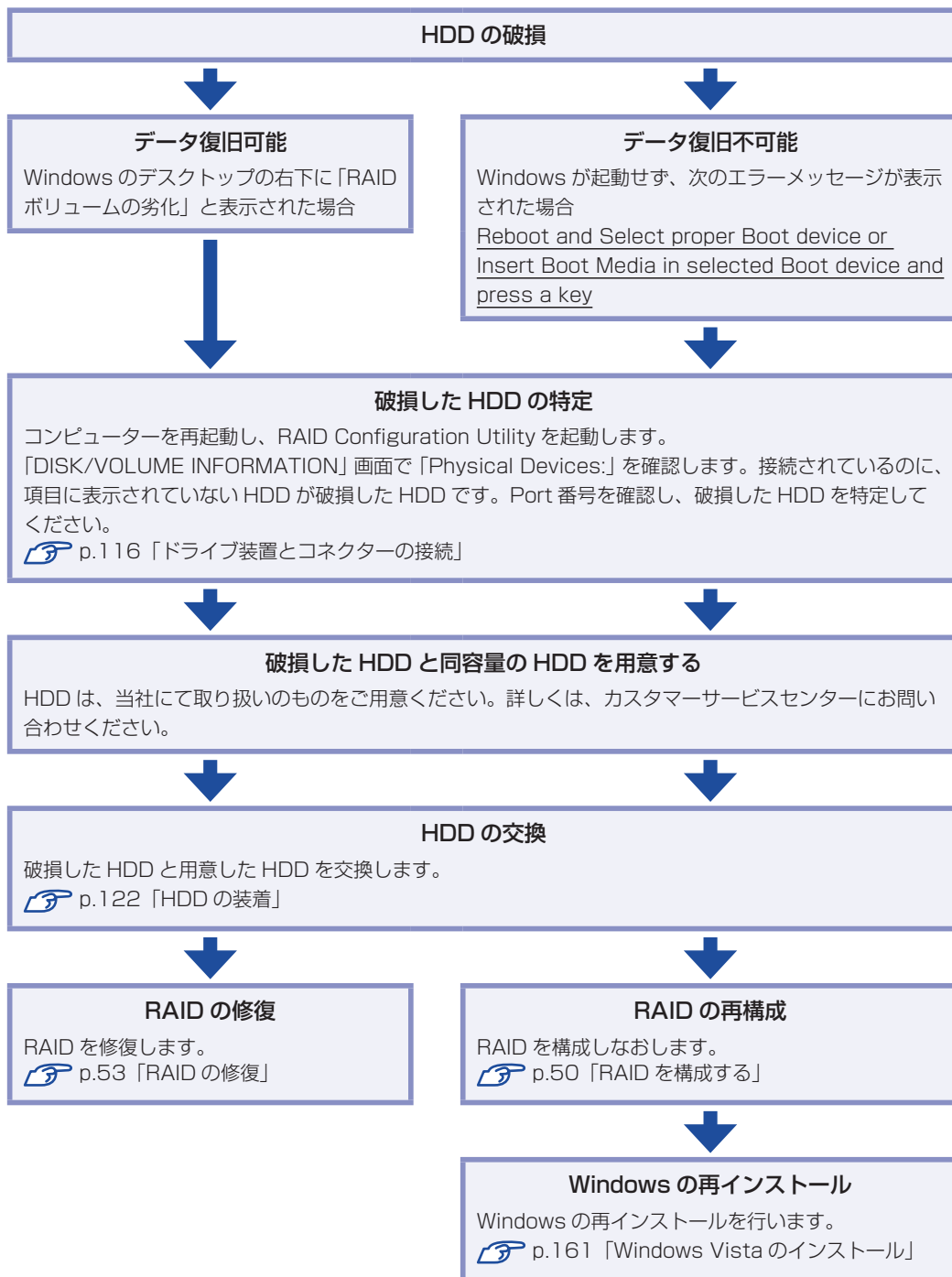
続いて Windows のインストールを行います。

 p.161 「Windows Vista のインストール」

RAID を修復または再構成する




RAID 構成時に HDD が破損した場合は、データの状況によって RAID の修復または再構成が必要です。

次の流れに従って、RAID を修復または再構成してください。



RAID の修復

RAID の修復は、RAID Configuration Utility で行います。
RAID の修復方法は、次のとおりです。

- 1** RAID Configuration Utility を起動します。
 p.48 「RAID Configuration Utility の起動と終了」
- 2** 「DEGRADED VOLUME DETECTED」画面が表示されたら、新しく接続した HDD を選択し、 を押します。
- 3** 「DISK/VOLUME INFORMATION」項目で、「RAID Volumes :」の「Status」項目が「Rebuild」になっていることを確認します。
- 4** RAID Configuration Utility を終了します。
 p.48 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

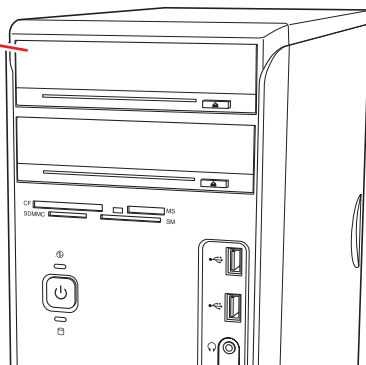
これで、RAID の修復は完了です。

Windows が起動すると、画面右下に「RAID ボリュームの復元」と表示されます。

光ディスクドライブを使う

本機には、購入時に選択されたシリアル ATA 仕様の光ディスクドライブが搭載されています。光ディスクドライブは、CD-ROM などの光ディスクメディアを使用するための機器です。ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。

光ディスクドライブ



光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。飛び散って、けがをする危険があります。



光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れないでください。はさまれると、けがの原因になります。



本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みや DVD の再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－「マニュアルびゅうわ」－「光ディスクドライブ取扱説明書」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－「お役立ち」

光ディスクメディアのセットと取り出し

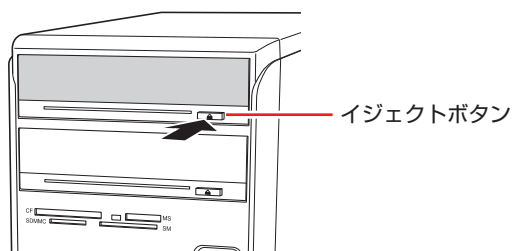
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

！ 制限

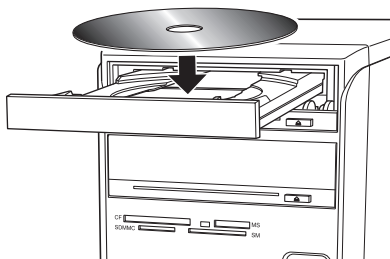
- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

セット方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



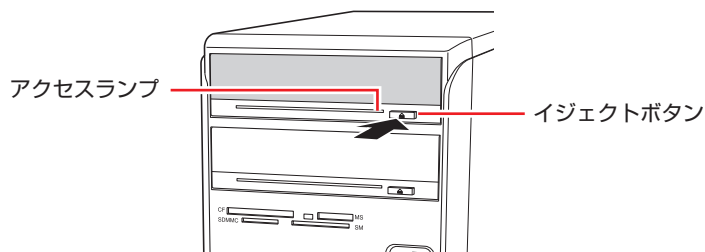
- 2 印刷面を上にして、光ディスクメディアをディスクトレイのくぼみにセットします。



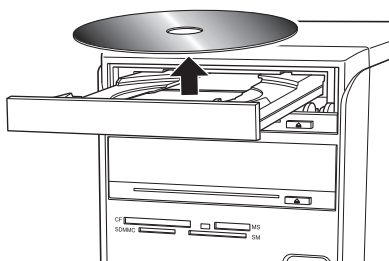
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1 アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2 光ディスクメディアをディスクトレイから取り出します。



- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合
ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データ CD を読み込めるほかに、音楽 CD やビデオ CD、フォト CD などの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

DVDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データが収録された DVD メディアを読み込めるほかに、DVD VIDEO などの再生ができます。DVD VIDEO の再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO 再生ソフト

DVD VIDEO の再生には、「WinDVD」を使用します。



制限

DVD-ROM ドライブ（再生ソフトなし）を選択された場合、WinDVD は添付されていません。

WinDVD は、次の場所から起動します。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「Inter Video WinDVD」 - 「Inter Video WinDVD for EPSON」

WinDVD の詳しい使用方法は、WinDVD のヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO 再生時の不具合

WinDVD で DVD VIDEO の再生をすると、次のような不具合が発生する場合があります。

- 解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEO の再生ができないことがあります。

DVD VIDEO の再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

 p.68 「表示装置に関する設定」

 p.68 「リフレッシュレートの設定」

- ディスプレーを 2 台接続して、クローンモードで表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEO の再生が中断されます。このような場合は、クローンモードでの表示を無効にしてください。

光ディスクメディアへの書き込み

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。書き込み可能なメディアについては、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅーわ」 - 「光ディスクドライブ取扱説明書」



作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 8 Essentials」が添付されています。

 p.59 「Nero 8 Essentials の使い方」


書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

●省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windows が省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.90 「時間経過で移行させない」

省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

●速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅーわ」 - 「光ディスクドライブ取扱説明書」

Nero 8 Essentialsの使い方

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

ライティングソフト「Nero 8 Essentials」を使用すると、CD メディアや DVD メディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。



「Nero 8 Essentials」と Windows Vista 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

Nero 8 Essentials を起動するには、デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。



< Nero アイコン >

Nero 8 Essentials の詳しい使用方法は、次をご覧ください。

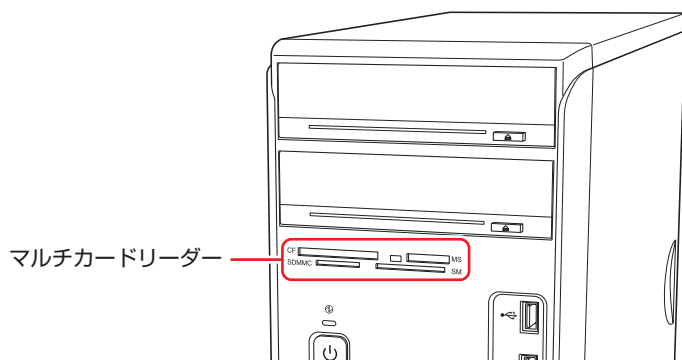
「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「Nero 8」 - 「Nero Manuals」



「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」

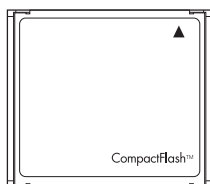
マルチカードリーダーを使う

本機前面には、マルチカードリーダーが装備されています。本機のマルチカードリーダーでは、5種類のメモリーカードを使用することができます。

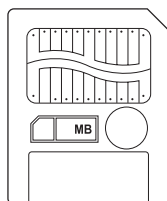


使用可能なメモリーカード

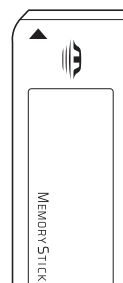
本機で使用できるメモリーカードは次の5種類です。イラストは各メモリーカード表面のイメージです。



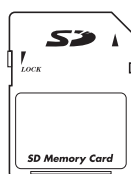
<コンパクトフラッシュ>



<スマートメディア>



<メモリースティック>



<SD (SDHC) メモリーカード>



<マルチメディアカード>

制限

- 著作権保護機能には対応していません。
- I/O カードは使用できません。
- スマートメディアの 5V タイプのカードは使用できません。3.3V タイプ (3V と表示されているものも可) のみサポートしています。
- メモリースティック PRO には対応していません。

マルチカードリーダー使用時の注意

マルチカードリーダーは、次の点に注意して正しく使用してください。

- マルチカードリーダーアクセスランプ点滅中にメモリーカードを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。メモリーカード内のデータが破損する恐れがあります。
本機の電源を切る場合や再起動する場合は、必ずメモリーカードを取り出してから行ってください。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- データの書き込み途中に、本機が省電力状態に移行するなどして電源の供給が停止すると、メモリーカードに不具合が発生する可能性があります。メモリーカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.90 「時間経過で移行させない」

メモリーカードのフォーマット

メモリーカードのフォーマットは、必ずメモリーカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリーカードが認識されなくなる場合があります。

フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

メモリーカードのセットと取り出し

メモリーカードのセットと取り出し方法、割り当てられるドライブについて説明します。

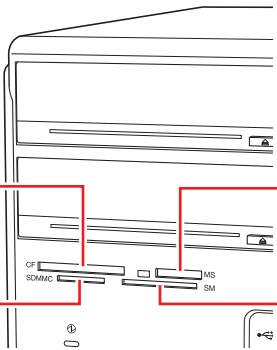
セット方法

メモリーカードのセット方法は次のとおりです。




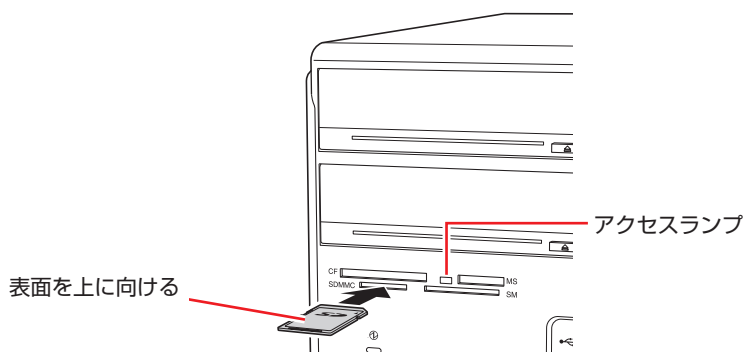
本機にメモリーカードをセットした状態で電源を入れたり、再起動したりすると、Windows が起動しないことがあります。メモリーカードは Windows 起動後にセットしてください。

1 使用するメモリーカードのスロット位置を確認します。

- 
- コンパクトフラッシュスロット CF
 - メモリースティックスロット MS
 - SDカードスロット SDMMC
SDメモリーカードとマルチメディアカード用スロットです。
 - スマートメディアスロット SM

2 メモリーカードの表面を上に向け、対応するスロットにカードを押し込みます。

メモリーカードの表面は、 p.60 「使用可能なメモリーカード」で確認してください。正しくセットされるとアクセスランプが点灯します。



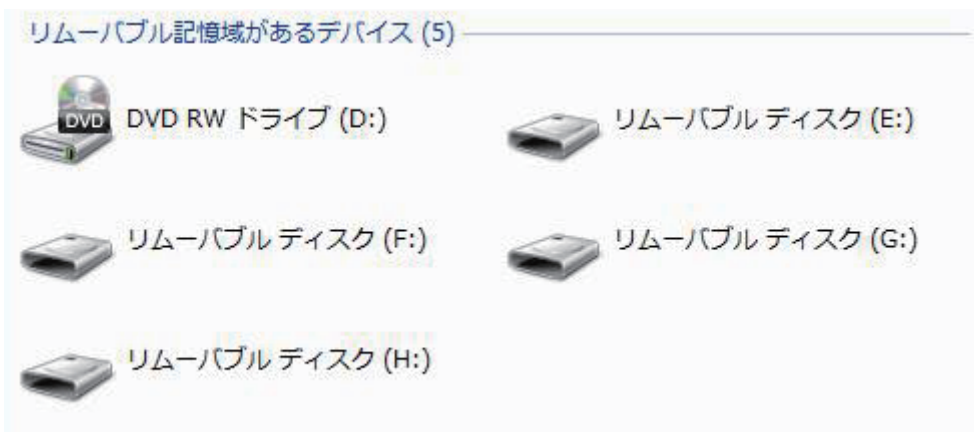
メモリーカードによっては、正しくセットされていてもスロットから数 cm 出たままのものもあります。

各メモリーカードのドライブ名

各メモリーカードは、E～Hのドライブに割り当てられます。(光ディスクドライブがDドライブの場合)

メモリーカード	ドライブ名
コンパクトフラッシュ	E
スマートメディア	F
メモリースティック	G
・SDメモリーカード ・マルチメディアカード	H

[スタート] - 「コンピュータ」には、次のように表示されます。



メモリーカードによっては、「リムーバブルディスク」ではなく、カードの名称が表示されます。

取り出し方法

メモリーカードの取り出し方法は、次のとおりです。

- 1 **【スタート】-【コンピュータ】-【リムーバブルディスク】を右クリックし、「取り出し」をクリックします。**

マルチカードリーダーのアクセスランプが点滅していないことを確認し、メモリーカードを取り出します。



- 2 **メモリーカードを引き抜きます。**

取り出したメモリーカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。



制限

Windows が起動した状態でのメモリーカードの取り出しは、「コンピュータ」画面から行ってください。通知領域の「取り外し」アイコンから停止処理を行うと、Windows を再起動するまでマルチカードリーダーが認識されなくなります。


USB 機器を使う

本機には USB2.0 に対応した USB コネクタが、前面に 3 個、背面に 6 個、合計 9 個搭載されています。

USB コネクタには USB 対応の機器を接続します。9 個の USB コネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。

！ 制限

USB フラッシュメモリーや USB HDD などの USB 記憶装置を接続していたり、USB FDD に FD がセットされている状態で本機の電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。USB 記憶装置は、Windows 起動後に接続してください。USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動したい場合は、「BIOS Setup コーティリティー」で起動するデバイスの順番を変更してください。

 p.141 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

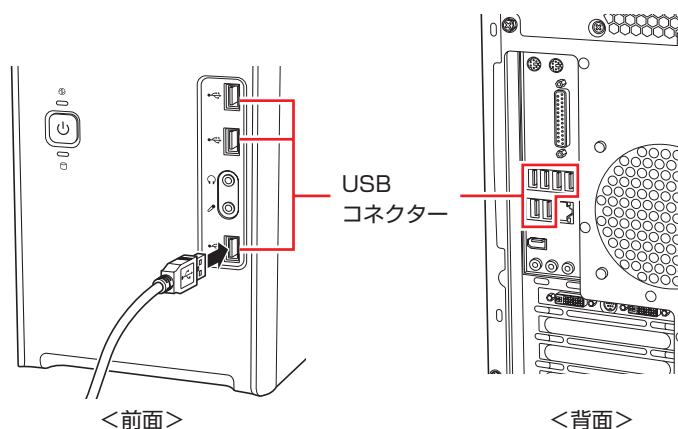
USB機器の接続と取り外し

USB 機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

接続

USB 機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1 USB 機器の USB コネクタを、本機の USB コネクタ () に接続します。



接続する USB 機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくは USB 機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB 機器の取り外し

USB 機器を取り外す場合は、通知領域の「取り外し」アイコンから、終了処理を行います。

※「取り外し」アイコンに機器名が表示されていない場合や、本機の電源を切った場合は、そのまま取り外せます。

USB 機器の終了処理の方法は次のとおりです。

1 開いているファイルを閉じます。

ファイルを閉じないと、終了処理ができません。

2 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。



<取り外しアイコン>

3 表示されたメニューから「(取り外したい USB 機器) - ……を安全に取り外します」を選択します。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

USB 機器
を選択

マルチカード
リーダー

USB 大容量記憶装置 - ドライブ (I:) を安全に取り外します

USB 大容量記憶装置 - ドライブ (E:, F:, G:, H:) を安全に取り外します

誤ってマルチカードリーダーを停止させないよう注意してください。マルチカードリーダーを停止させた場合、本機を再起動しないとマルチカードリーダーは使用できません。

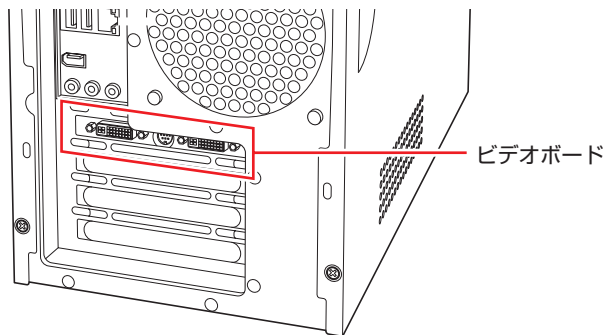
4 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックし、USB 機器を本機から取り外します。

画面表示機能を使う

ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

画面表示機能

本機のマザーボード上には、画面表示機能は搭載されていません。本機では、オプション選択されたビデオボードの画面表示機能を使用します。

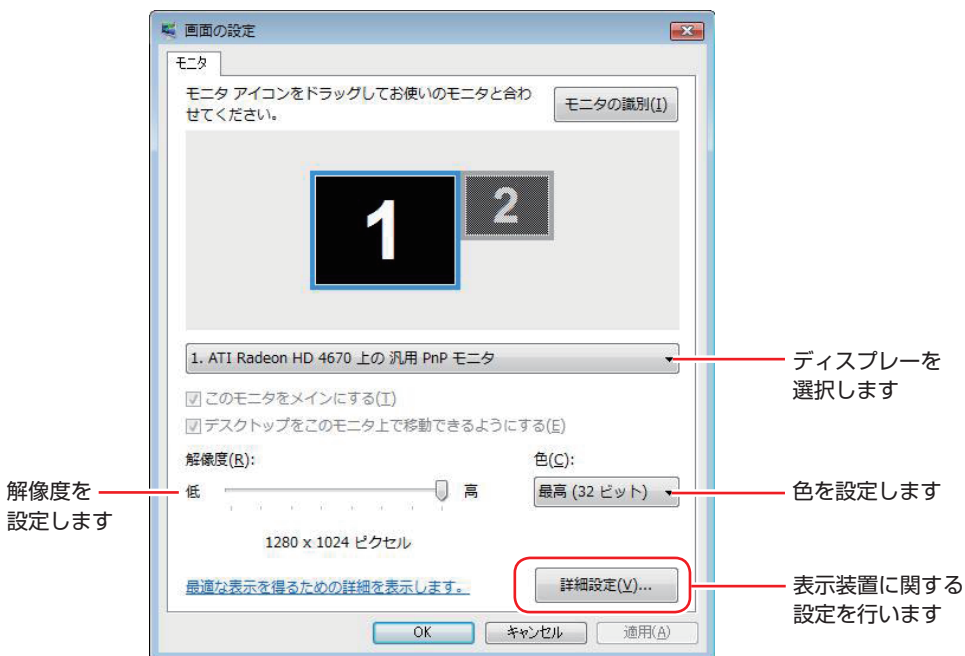


設定画面や解像度、表示色数などは、お使いになるビデオボードやディスプレイにより異なります。詳細は、ビデオボードおよびディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

表示に関する各種設定

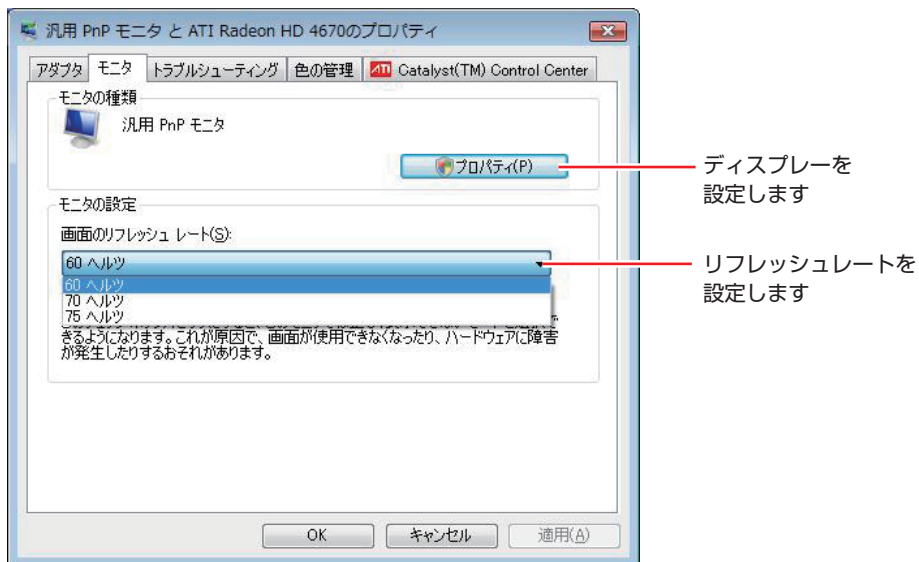
画面表示に関する設定は「画面の設定」の「モニタ」タブで行います。「画面の設定」は次の場所にあります。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップのカスタマイズ」 - 「個人設定」
- 「画面の設定」



表示装置に関する設定

画面の設定の「詳細設定」－「モニタ」タブでは次の設定を行うことができます。



ディスプレイの設定

通常、接続しているディスプレイは自動的に検出されて設定されますが、接続しているディスプレイによっては正しく設定されない場合があります。その場合は「プロパティ」をクリックして設定を行ってください。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

リフレッシュレートの設定

画面がちらつく、文字がにじむといった現象が起こるときは、リフレッシュレートを変更すると問題が解決することがあります。

ディスプレイによっては、リフレッシュレートの変更ができない場合もあります。

サウンド機能を使う

本機のマザーボード上には、サウンド機能が搭載されています。

本機にスピーカーは内蔵されていません。音声を出力するには、スピーカーを接続する必要があります。

オーディオ機器の接続

本機の前面と背面には、オーディオ機器を接続するためのコネクタが搭載されています。各コネクタの位置は、次のとおりです。

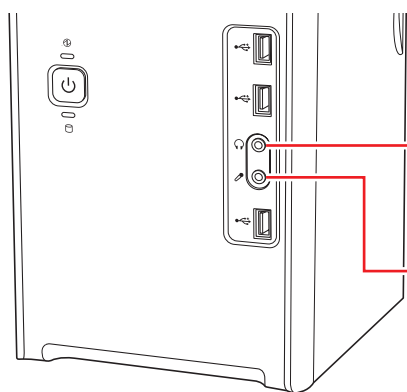



注意


ヘッドフォンや外部スピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

前面側



●ヘッドフォン出力コネクタ 
スピーカーやヘッドフォンを接続して音声を出力します。

●マイク入力コネクタ 
マイクを接続して音声を入力します。



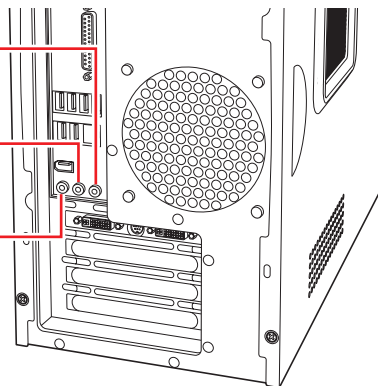
参考

使用できるマイク

マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、プラグインパワー対応のコンデンサーマイクです。

背面側

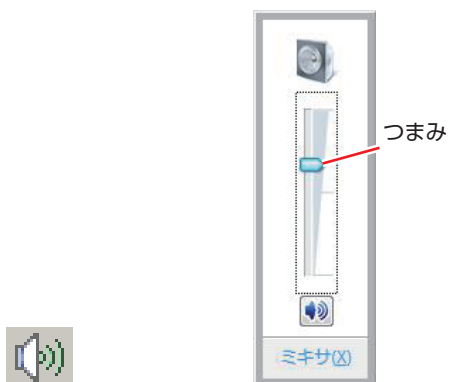
- **ライン入力コネクタ** (≡)
オーディオ機器を接続して音声を入力します。
- **ライン出力コネクタ** (≡)
スピーカーやヘッドフォンを接続して音声を出力します。
- **マイク入力コネクタ** (🎤)
マイクを接続して音声を入力します。



音量の調節

Windows 起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカー」アイコン(白色)をクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



<スピーカーアイコン>

<ボリュームコントロール>

音声の再生・録音

Windows 標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は、「Windows Media Player」を使用します。「Windows Media Player」は、次の場所から実行します。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【Windows Media Player】

音声の録音

音声の録音は、「サウンドレコーダー」を使用します。サウンドレコーダーは、次の場所から実行します。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【アクセサリ】 - 【サウンドレコーダー】

録音ボリュームの変更は、サウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。

 p.72 「マイク使用時の音量調節」

サウンドユーティリティを使う

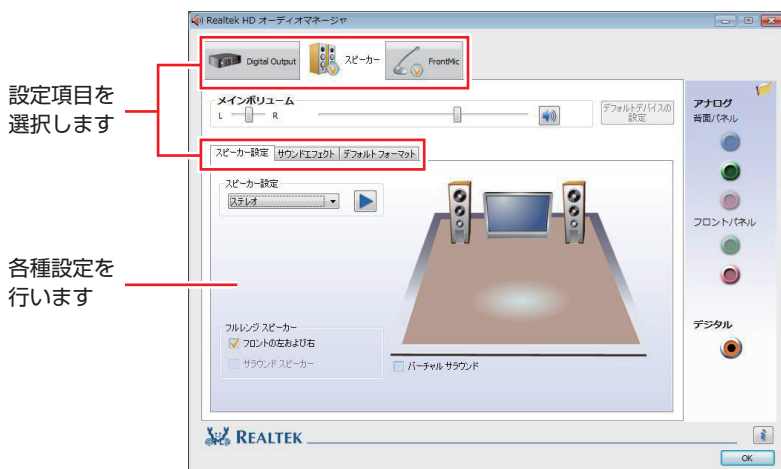
サウンドユーティリティを使用すると、スピーカーの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。

サウンドユーティリティを起動するには、通知領域の「Realtek HD オーディオマネージャ」アイコン（赤色）をダブルクリックします。



< Realtek HD オーディオマネージャアイコン >

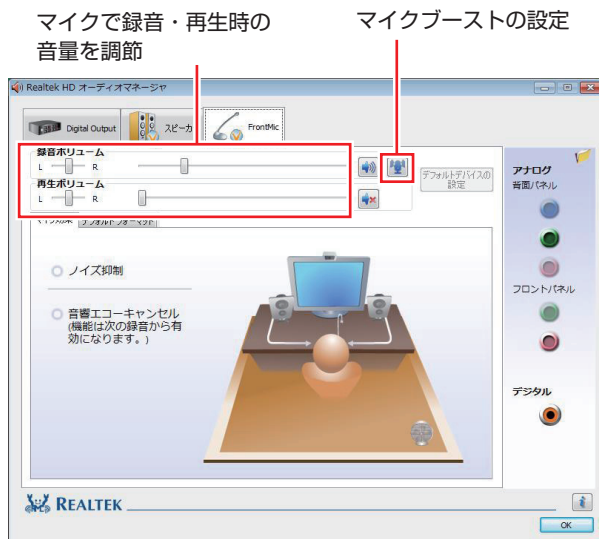
次の画面が表示されます。



※ 「スピーカー」、「マイク」タブは、機器接続時のみ表示されます。

マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。




※「マイク」タブは、マイク接続時のみ表示されます。

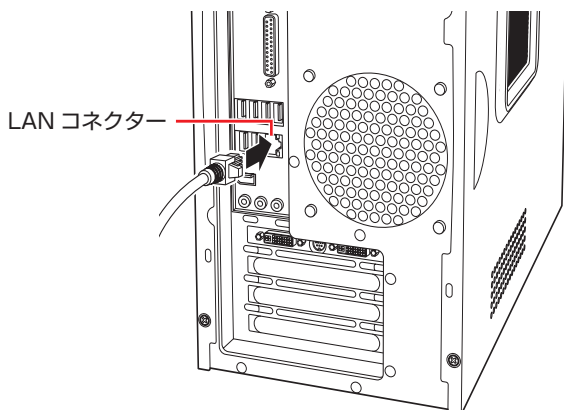
録音時に音量を調節しても音が小さいときは、 をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせ、音量を上げてください。

ネットワーク機能を使う

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN 機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面の LAN コネクター（) に市販の LAN ケーブルを接続します。




ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LAN ケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows 上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

！ 制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - 再起動する
 - 省電力状態に移行しないように設定する
 p.90 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピーター・ハブを使用できません。

インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、 p.77 「インターネットに接続する」をご覧ください。

そのほかの機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次のような機能を使用できます。

Wakeup On LAN

本機では、Wakeup On LAN 機能を使用することができます。Wakeup On LAN とは、ネットワークからの信号により本機を起動させる機能です。

シャットダウン状態から起動させる



制限

シャットダウン状態からの起動は、Windows を正常に終了した状態でないと行えません。

シャットダウン状態から Wakeup On LAN を行う場合は、次の設定が必要です。

- BIOS の設定変更
- ネットワークアダプターの設定変更

BIOS の設定変更

「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Power On By PCIE Devices」: Enabled (有効)

 p.131 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.148 「Power メニュー画面」

ネットワークアダプターの設定変更

ネットワークアダプターの設定を変更する方法は、次のとおりです。

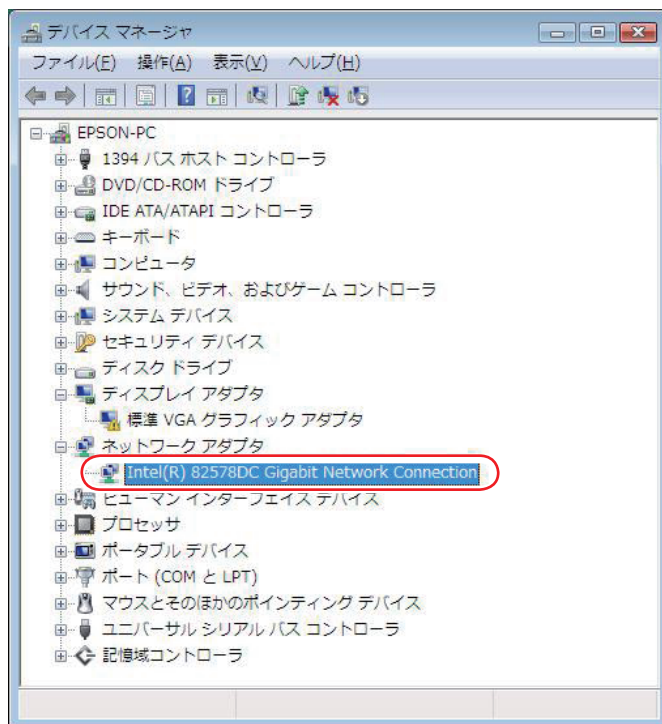
1

【スタート】－【コントロールパネル】－【システムとメンテナンス】－【デバイスマネージャ】をクリックします。

2

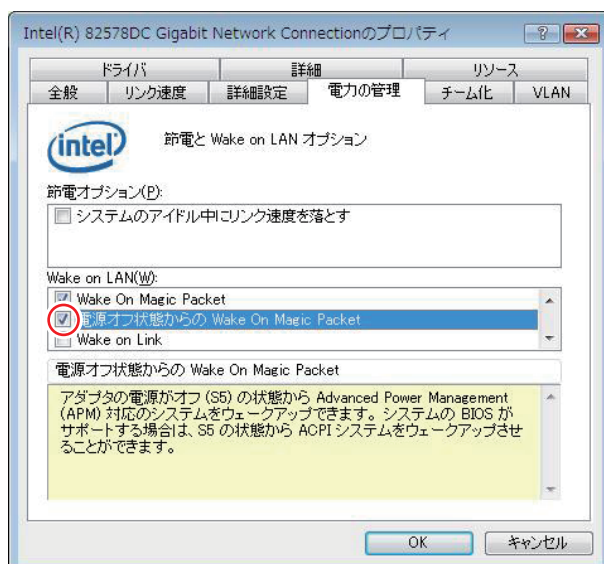
【ユーザーアカウント制御】画面が表示されたら、【続行】をクリックします。

- 3** 表示された「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、「Intel (R) 82578DC・・・」をダブルクリックします。



- 4** 表示された「Intel (R) 82578DC・・・」画面の「電力の管理」タブをクリックします。

- 5** 「電源オフ状態からの Wake On Magic Packet」にチェックを入れて [OK] をクリックします。



6 をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。

これで、設定は完了です。



参考

WakeUp On LAN を設定している場合

BIOS の設定で、WakeUp On LAN (Power On By PCIE Devices) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピューターが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上から Windows をインストールすることができます。

インターネットに接続する

インターネットを利用するには、プロバイダーとの契約が必要です。プロバイダーと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダーより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。



参考

再インストール後のインターネット接続

Windows を再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダーからの説明書はなくさないように大切に保管してください。

インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラー）
- 電子メールの利用：Windows メール

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－「お役立ち」



参考

Office をインストールしているときは

Office をインストールしている場合は、電子メールソフト Outlook を使用することもできます。Outlook の使用方法は、Outlook のヘルプをご覧ください。

Windows メールの初期設定

Windows メールをはじめて起動する場合は、初期設定を行います。初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダーから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

- 1** 「スタート」－「すべてのプログラム」－「Windows メール」をクリックします。
- 2** 「名前」と表示されたら、名前を入力して「次へ」をクリックします。
- 3** 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダーから取得したメールアドレスを入力して「次へ」をクリックします。



- 4 「電子メールサーバーのセットアップ」と表示されたら、プロバイダーから指定されている受信メールサーバーと送信メールサーバーを入力して [次へ] をクリックします。
- 5 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダーから指定されているユーザー名とパスワードを入力して [次へ] をクリックします。
- 6 「設定完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。



参考

設定を変更する

一度行った設定は、「Windows メール」画面の次の場所から変更することができます。

「ツール」メニュー - 「アカウント」 - 「追加」 - 「電子メールアカウント」

Internet Explorer で情報バーが表示されたら

Internet Explorer は、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer 使用時、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



<画面はイメージです>

Internet Explorer の便利な追加機能

本機には Internet Explorer の便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。必要に応じてインストールしてください。

- JWord

「JWord」を使うと、Internet Explorer のアドレスバーを利用して、日本語で簡単にインターネットを検索できます。

- goo スティック

「goo スティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。インストールすると、Internet Explorer のツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されます。

- マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版

Internet Explorer のツールバーに、「McAfee SiteAdvisor」ボタンが設定され、Web サイトの安全性評価を確認できます。マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版の詳しい使い方は、ボタンから「ヘルプ」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティー対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティー機能が備えられています。

ここでは、このセキュリティー機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティー対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機の Windows の状態を確認し、Windows の更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。

Windows を最新の状態にするため、Windows Update を行ってください。

自動更新の設定

本機を使用する際は、自動で Windows Update が行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

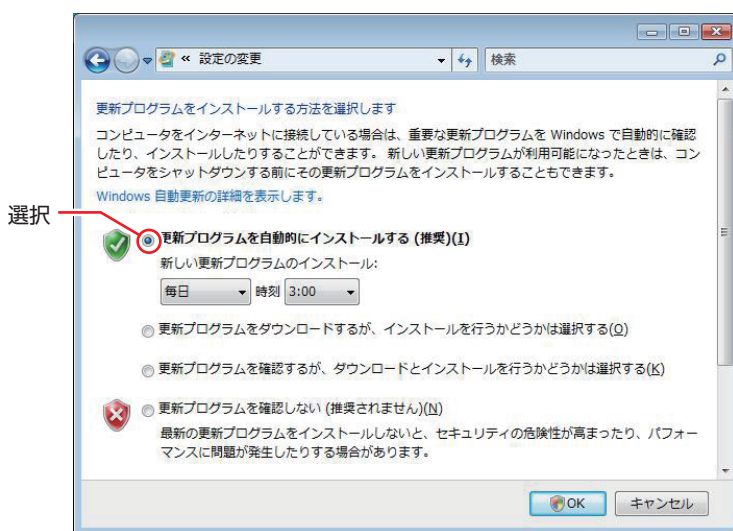
自動更新の設定がされていると、次の作業が自動で行われます。

- 重要な更新プログラムのダウンロード（インターネット接続時）
- 重要な更新プログラムのインストール（設定した時刻または設定した時刻より前にシャットダウンする際）

Windows Vista のセットアップ中に「Windows を自動的に保護するよう設定してください」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

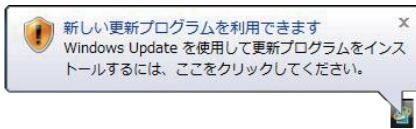
自動更新の設定は、次の場所で行います。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【Windows Update】 - 【設定の変更】



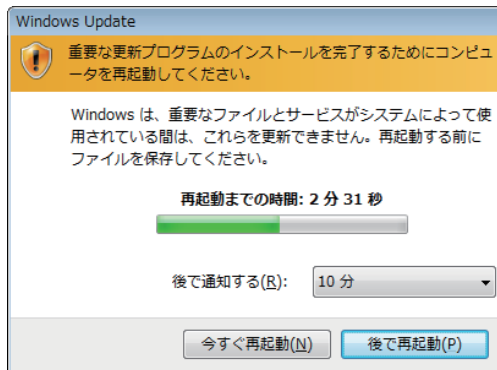
「新しい更新プログラムを利用できます」と表示されたら

重要な更新プログラムがダウンロードされると、画面右下に「新しい更新プログラムを利用できます」と表示されます。すぐに重要な更新プログラムをインストールしたい場合は、通知アイコンをクリックし、インストールをしてください。



再起動を促す画面が表示されたら

重要な更新プログラムのインストールが行われると、再起動を促す画面が表示されることがあります。作業中の場合はデータを保存してください。本機が再起動したら、インストールは完了です。



セキュリティソフトウェア

コンピューターウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。

コンピューターウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。

ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90 日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺検出機能を備えた「Norton Internet Security 90 日版」が添付されています。必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、[別冊](#)『セキュリティソフトウェアをご使用前に』をご覧ください。



更新サービスの有効期限

本機に添付の Norton Internet Security 90 日版は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後 90 日間です。90 日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1 年間使用可能です。更新サービスの詳細は、[別冊](#)『セキュリティソフトウェアをご使用前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競争を防ぐため、Norton Internet Security 90 日版はインストールしないでください。

インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、[別冊](#)『セキュリティソフトウェアをご使用前に』をご覧ください。

ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。
不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90 日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90 日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。Norton Internet Security 90 日版をインストールすると、自動的にファイアウォール機能が有効になりますので、そのままお使いください。

Windows ファイアウォールの設定

本機には、Windows のファイアウォール機能が備えられています。
本機の状態によって、Windows ファイアウォールを次のように設定してください。

ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合

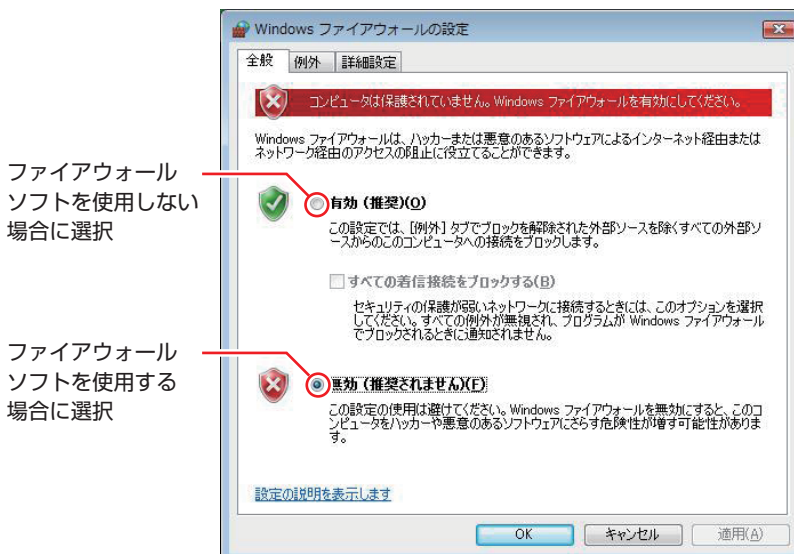
ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windows ファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windows ファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合

Windows ファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windows ファイアウォールの有効 / 無効の設定は、次の場所から行います。

【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【セキュリティ】 - 【Windows ファイアウォール】 - 【設定の変更】



ファイアウォールソフトを使用しない場合に選択

ファイアウォールソフトを使用する場合に選択

Windows Defender

Windows Vista には、スパイウェアやそのほかのマルウェア（悪意のあるソフトウェア）を検出したり、駆除したりするツール「Windows Defender」が備えられています。

「Norton Internet Security 90 日版」などのスパイウェア対策機能を持つソフトウェアを使用している場合は、機能が重複するため、Windows Defender が自動で「無効」に設定される場合があります。この場合は、そのまま使用してください。

スパイウェア対策機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Windows Defender を使用してください。

Windows Defender は次の場所から起動します。

【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【セキュリティ】 - 【Windows Defender】

フィッシング詐欺検出機能

フィッシング詐欺とは、金融機関などのメールやホームページを装い、ユーザーに暗証番号やクレジットカード番号を入力させて、個人情報を盗み取る犯罪のことです。

本機には、「フィッシング詐欺検出機能」が搭載されています。セキュリティを守るため、機能を使用してください。

Norton Internet Security 90 日版のフィッシング詐欺検出機能

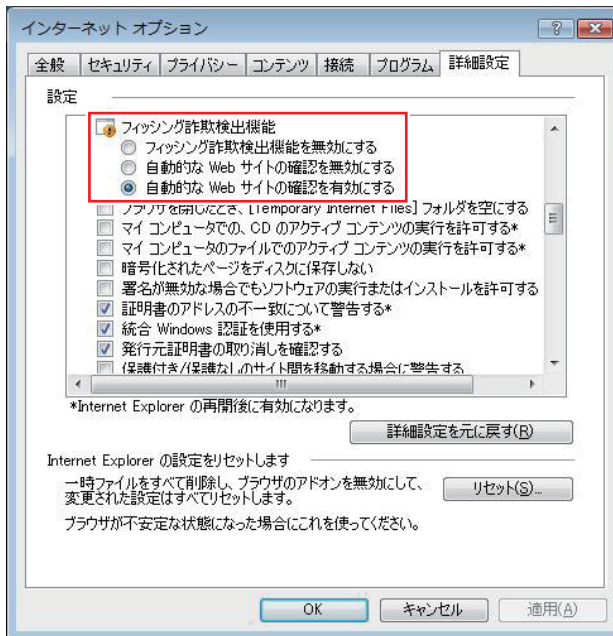
本機に添付のセキュリティソフト「Norton Internet Security 90 日版」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。Norton Internet Security 90 日版をインストールすると、自動的にフィッシング詐欺検出機能が有効になります。そのままお使いください。

Internet Explorer のフィッシング詐欺検出機能

ホームページ閲覧ソフト「Internet Explorer」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。フィッシング詐欺検出機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Internet Explorer の機能を「有効」で使用してください。

Internet Explorer のフィッシング詐欺検出機能の有効 / 無効の設定は、次の場所で行います。

Internet Explorer の「ツール」－「フィッシング詐欺検出機能」－「フィッシング詐欺検出機能の設定」－「詳細設定」タブ－「フィッシング詐欺検出機能」




Webフィルタリングソフトウェア

Web フィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを表示しないようにするための技術です。Web フィルタリングを行うと、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i-フィルター 30 日版を使う

本機には、Web フィルタリング機能を持つ「i-フィルター 30 日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへアクセスするのを制限したいときなどは、i-フィルター 30 日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30 日版のインストール

インストール方法は、 p.168 「i-フィルター 30 日版のインストール」をご覧ください。市販の Web フィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30 日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30 日版の使用方法

i-フィルター 30 日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとする時、自動的にブロックされます。

初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は、使用者別に設定できます。

必要に応じて、「フィルタリング設定」画面で設定を変更してください。

「フィルタリング設定」画面の表示方法は、次のとおりです。

1 ディスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。



< i-フィルターアイコン >

「i-フィルター・・・」画面が表示された場合は、ユーザー登録が完了していません。ユーザー登録を行ってください。

p.169 「i-フィルター 30 日版のユーザー登録」

2 「管理パスワードの入力」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して [OK] をクリックします。

3 i-フィルターのトップページが表示されたら、「フィルタリング設定」をクリックします。

「フィルタリング設定」画面が表示されます。

i-フィルター 30 日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。



参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30 日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。

この場合は、「i-フィルター 30 日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30 日版の利用期限

i-フィルター 30 日版の利用期限は、ユーザー登録後 30 日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

継続して利用する場合

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。



本機に添付のi-フィルター 30 日版は、「i-フィルター更新パック」で継続利用
手続きを行うことはできません。

継続して利用しない場合

i-フィルター 30 日版のアンインストールを行ってください。

i-フィルター 30 日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

i-フィルター 30 日版のサポート

i-フィルター 30 日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。

よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。

なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。



<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

省電力機能

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような注意事項があります。移行する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・周辺機器を接続している
 - ・ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.90 「時間経過で移行させない」
 - ・光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・メモリーカードや外部接続記憶装置（USB FDD など）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・FAX モデムやネットワーク機能を使っての通信時：通信が切断される可能性
 - ・動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・省電力状態で周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ・ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
 - ・再起動する
 - ・省電力状態に移行しないように設定する
 p.90 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- ディスプレイの電源を切る
省電力の効果はスリープより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。
- スリープ
作業中の内容を一時的に保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプがオレンジ色に点灯します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

スリープには次の2つがあり、作業中の内容の保存方法が異なります。

- ハイブリッドスリープ（初期値）
スリープと休止状態を合わせた状態です。
作業中の内容はメモリーとHDDの両方に保存されます。
- スリープ
作業中の内容はメモリーのみに保存されます。

●休止状態

作業内容をHDDに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。


休止状態を有効にする

本機では、休止状態が無効に設定されています。休止状態を有効にするには設定を行ってください。



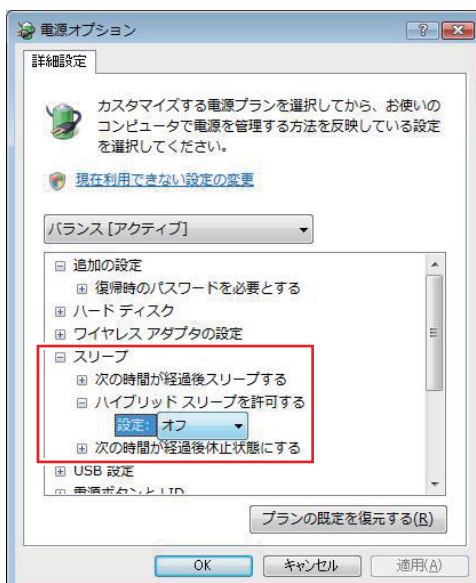
制限

休止状態を有効にすると、スリープの状態がハイブリッドスリープからスリープに変わります。

 p.88 「省電力状態の種類」

休止状態を有効にする方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「システムとメンテナンス」 – 「電源オプション」で「プラン設定の変更」をクリックし、「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 2** 「スリープ」 – 「ハイブリッドスリープを許可する」を「オフ」に設定します。
- 3** [OK] をクリックします。



省電力状態に移行する方法

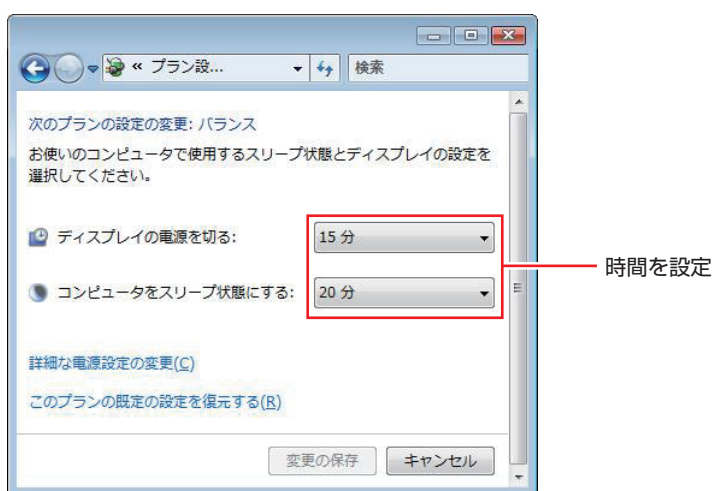
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピューターを操作しない状態で時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピューターがスリープになります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピューターをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

【スタート】－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」



時間経過で移行させない

光ディスクメディアに書き込む場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
【スタート】－[⏻] をクリックする	スリープ（初期値）
キーボードの Sleep キー（⌊）を押す	スリープ
【スタート】－[▶] から項目を選択する	スリープ、休止状態*、シャットダウン

*購入時は表示されません。





電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ（）で確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常	点灯（緑色）
ディスプレイの電源切	点灯（緑色）
スリープ	点灯（オレンジ色）
休止状態	消灯
シャットダウン（電源切）	消灯


省電力状態からの復帰方法

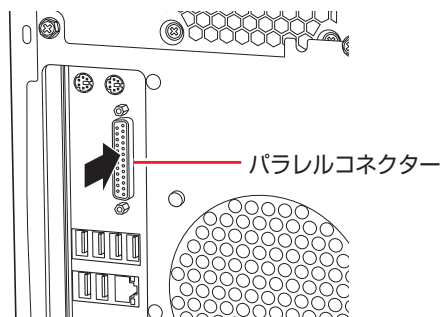
本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源切	点灯（緑色）	マウスやキーボードを操作する
スリープ	点灯（オレンジ色）	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● USB キーボードを操作する● USB マウスでクリックする● PS/2 キーボードの Ctrl + Esc または Power キー（）を押す (BIOS の設定が必要です  p.148)
休止状態	消灯	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● PS/2 キーボードの Ctrl + Esc または Power キー（）を押す (BIOS の設定が必要です  p.148)

その他の機能

パラレルコネクタ

本機背面にはパラレルコネクタ（）が1個搭載されています。パラレルコネクタには、パラレルコネクタに対応した機器（プリンターやスキャナーなど）を接続します。




本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を変更してください。

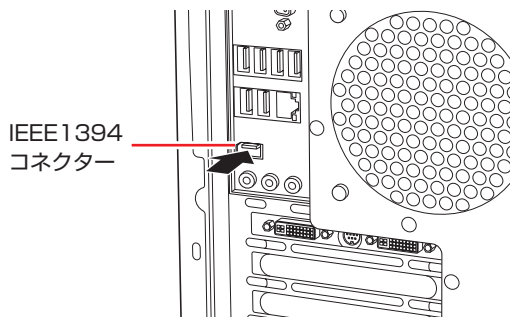
「Advanced」メニュー画面 - 「Onboard Devices Configuration」 - 「Parallel Port Address」

 p.132 「BIOS Setup ユーティリティ」の操作

 p.146 「Advanced メニュー画面」

IEEE1394コネクタ

本機背面にはIEEE1394 コネクタ（6ピン）（）が1個搭載されています。IEEE1394 コネクタには、IEEE1394 対応の機器を接続します。



接続と取り外し

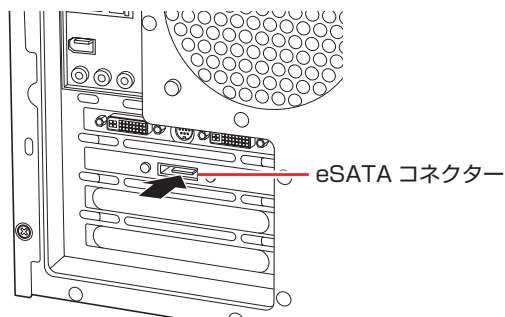
IEEE1394 機器の接続、取り外しは、電源が入った状態で行うことができます。取り外しは、通知領域の「取り外し」アイコンから行ってください。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。



<取り外しアイコン>

eSATAコネクタ(オプション)

本機購入時にオプション選択された場合、本機背面の拡張スロットには eSATA コネクタが搭載されています。eSATA コネクタには、eSATA コネクタに対応した機器(外付けHDDなど)を接続します。



eSATA 機器が認識されないときは

本機の電源が入っている状態で eSATA 機器を接続すると、機器が認識されない場合があります。

この場合は、本機の電源が切れている状態で接続をしてみてください。

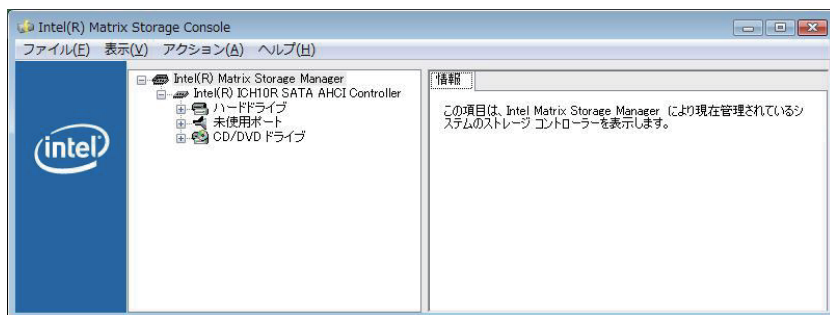
eSATA 機器の状態確認と取り外し

eSATA 機器を接続すると、通知領域に「ストレージ」アイコンが表示されます。



<ストレージアイコン>

「ストレージ」アイコンをダブルクリックすると、「Intel (R) Matrix Storage Console」画面が表示され、eSATA 機器の状態を確認することができます。



<イメージ>

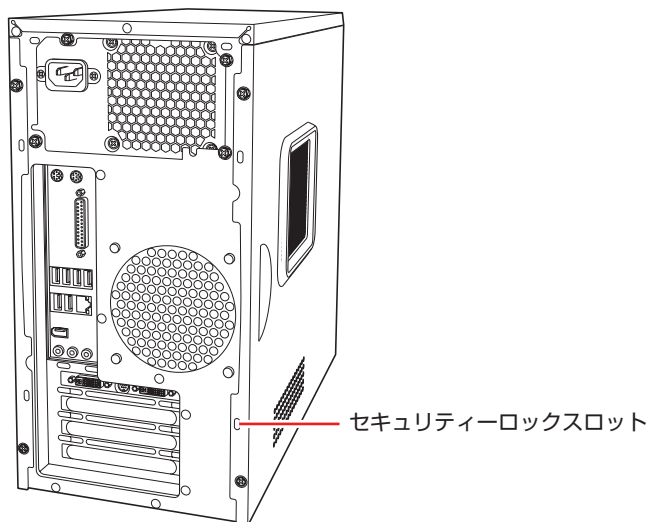
eSATA 機器の取り外しは、通知領域の「取り外し」アイコンから行ってください。



<取り外しアイコン>

セキュリティーロックスロット

本機背面には、セキュリティーロックスロットが搭載されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

ホームページのアドレスは次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

2

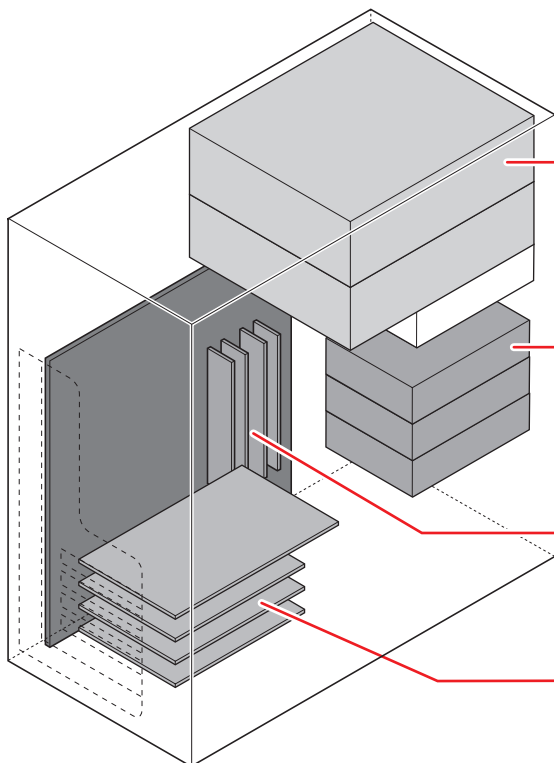
システムの拡張


装置の増設・交換方法について説明します。


拡張できる装置.....	96
作業時の注意	97
拡張時の準備作業.....	98
メモリーの装着.....	104
拡張ボードの装着.....	110
ドライブ装置とコネクタの接続.....	116
5.25 型ドライブの装着	118
HDD の装着.....	122


拡張できる装置


本機では、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。
ただし、購入時にいくつかの装置がすでに装着されているため、実際に拡張できる装置の数は異なります。



●5.25 型ドライブベイ
5.25 型装置（光ディスクドライブなど）
を 2 台装着することができます。
 p.118 「5.25 型ドライブの装着」

●HDD ベイ
3.5 型 HDD を 3 台装着する
ことができます。
 p.122 「HDD の装着」

●メモリスロット
メモリーを 4 枚装着することができます。
 p.104 「メモリーの装着」

●拡張スロット
次の拡張ボードを装着することが
できます。
• PCI Express x16 ボード 1 枚
• PCI ボード 2 枚
• PCI Express x4 ボード 1 枚
 p.110 「拡張ボードの装着」

作業時の注意

本機内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- メモリーの切り欠きとメモリスロット内の仕切りは、確実に合わせてください。メモリーの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリーや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリーや拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 固定プラグが確実に閉じていない場合、メモリーがしっかりと固定されていない可能性があります。再度、メモリーの向きを確認し、固定プラグが確実に閉じるまで、しっかりとメモリーを押し込んでください。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリーや拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

拡張時の準備作業

装置の拡張作業を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の拡張手順に従って、必要に応じて作業を行ってください。



作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。

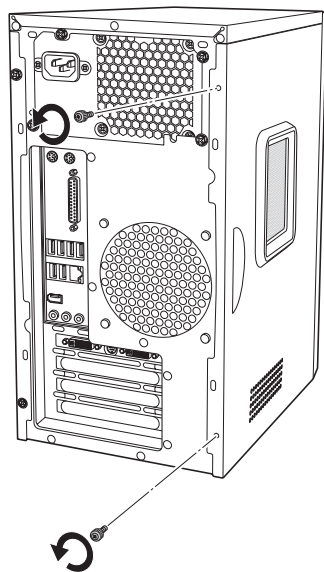
本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外してください。

取り外し

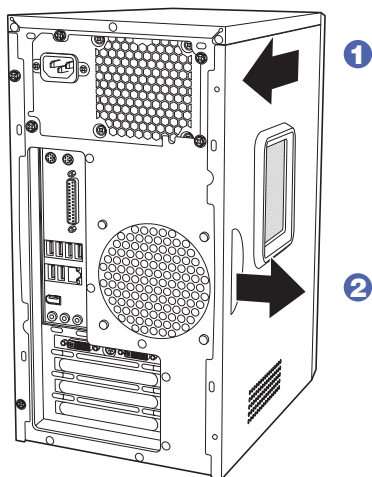
本体カバーの取り外し方法は次のとおりです。

- 1** コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体背面右側のネジ（2 本）を外します。



4 本体カバーを取り外します。

- 1 本体カバーを本体背面側にスライドさせます。
- 2 本体カバーを横へ外します。

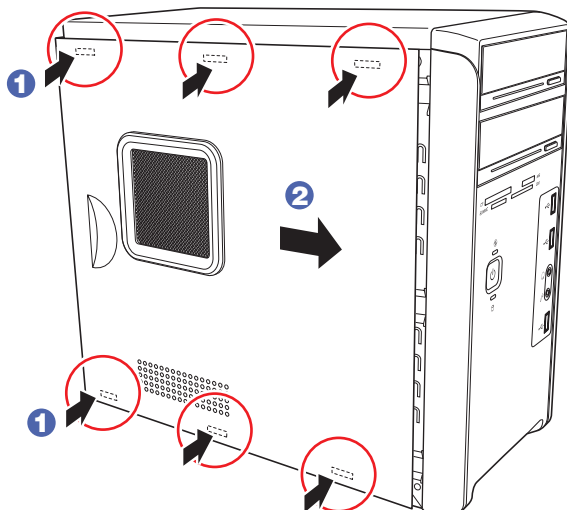


取り付け

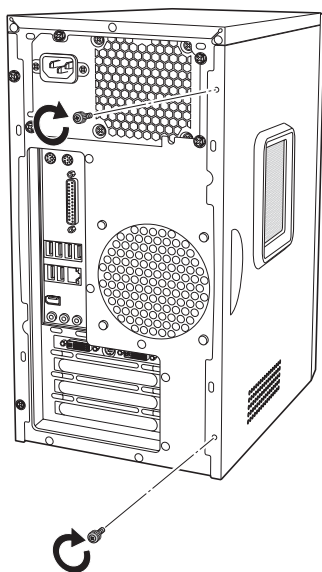
本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

1 本体カバーを取り付けます。

- 1 本体側面の穴（6個）とカバーの突起（6個）の位置を合わせて、本体カバーを横からはめ込みます。
- 2 本体カバーを本体前面側にスライドさせます。



2 ネジ（2本）で本体カバーを固定します。



3 コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。


これで本体カバーの取り付けは完了です。

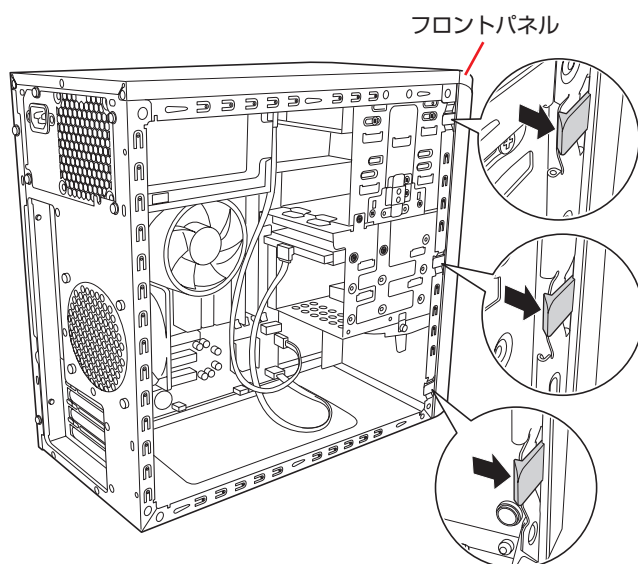
フロントパネルの取り外し・取り付け

本機の内部に装着する装置によっては、フロントパネルを取り外す必要があります。

取り外し

フロントパネルの取り外し方法は次のとおりです。

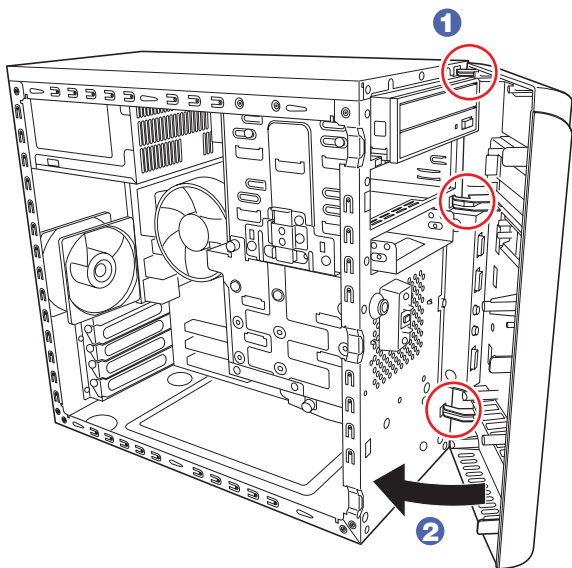
- 1** 本体カバーを取り外します。
 p.98「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 2** フロントパネルを取り外します。
3箇所のフックを上から順に矢印の方向へ押しながら、前面へフロントパネルを押し出します。



取り付け

フロントパネルの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** フロントパネルを取り付けます。
 - 1** フロントパネルのフックを本体前面右側の穴に合わせます。
 - 2** フロントパネルを押し込みます。



5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け

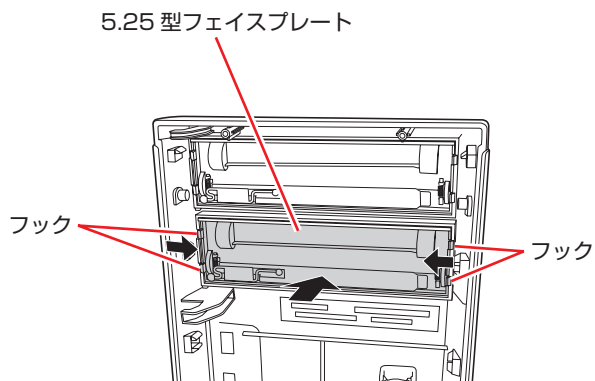
5.25型フェイスプレートは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

取り外し

5.25型フェイスプレートの取り外し方法は次のとおりです。

- 1** フロントパネルの裏側からフェイスプレート両側のフックを外し、フェイスプレートを押し出します。

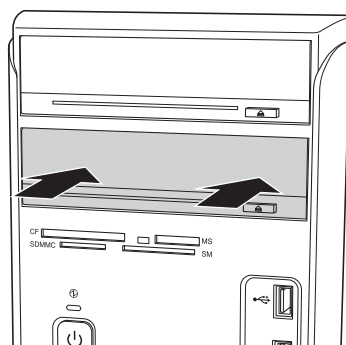
外したフェイスプレートは大切に保管してください。



取り付け

5.25型フェイスプレートの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** フロントパネルの表側から、フェイスプレートを押し込みます。



メモリーの装着

ここでは、本機で使用可能なメモリーの仕様と、メモリーの取り付け・取り外し方法について説明します。

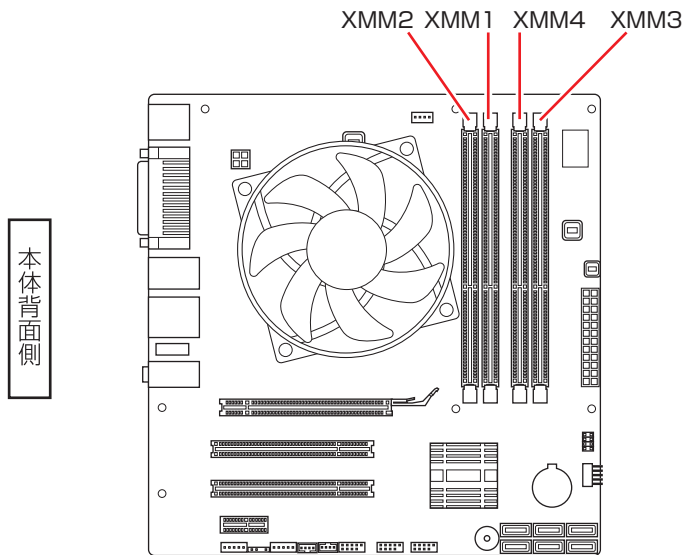
本機にはメモリースロットが4本あり、メモリーを増設・交換することにより最大4GBまで拡張が可能です。



制限

本機に合計3GBを超えるメモリーを搭載しても、システム上利用できるメモリーの最大容量は約3GBまでです。

マザーボード上のメモリースロットの位置は、次のとおりです。



メモリーの仕様

本機で使用可能なメモリーは、次のとおりです。

- PC3-10600 (DDR3-1333 SDRAM 使用)
- メモリー容量 1GB、2GB
- Non ECC
- 240ピン
- CL=9

最新メモリー情報

今後、新しいメモリーを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリーは、当社ホームページでご確認ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

メモリー装着の組み合わせ


本機はデュアルチャンネルに対応しているため、同一容量のメモリーを2枚1組で装着すると、データ転送速度のパフォーマンスが最大になります。
メモリー装着の組み合わせとメモリーの動作は、次のとおりです。

メモリー装着の組み合わせ	メモリーの動作
同一容量のメモリー2枚	デュアルチャンネル*で動作。転送速度最大。
メモリー1枚	通常の転送速度で動作（シングルチャンネル）

*デュアルチャンネルで動作させる場合は、次の組み合わせで装着してください。


- XMM1 スロット+ XMM3 スロット
- XMM2 スロット+ XMM4 スロット

メモリーの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.97 「作業時の注意」を必ずお読みください。
作業は、本機を横置きに行ってください。


取り付け

メモリーの取り付け方法は次のとおりです。


- 1** コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」



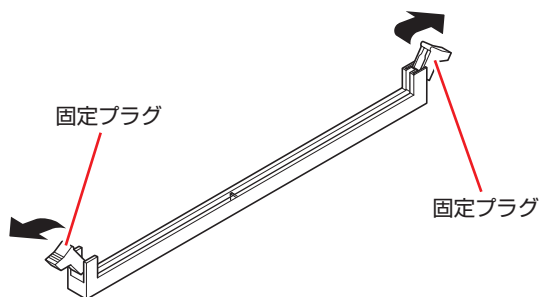
- 4** PCI Express x16 スロットに装着されているビデオボードが作業の妨げになる場合は、ビデオボードを外します。

 p.111 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

- 5** 作業の妨げにならないように、HDD ベイを起こします。

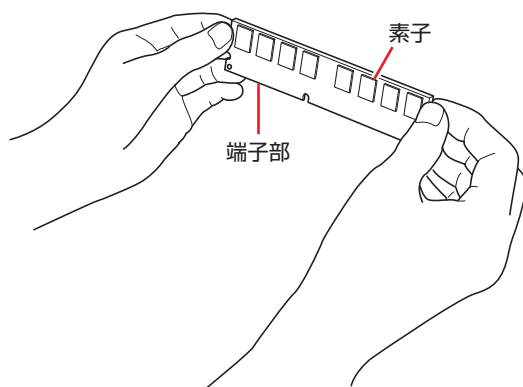
 p.122 「HDD の取り付け・取り外し」 **5** ~ **6**

- 6** メモリスロット両端の固定プラグを開きます。



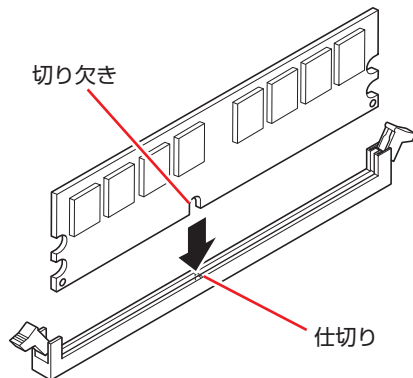
- 7** メモリーを静電防止袋から取り出します。

メモリーの端子部や素子に触れないように注意します。



8 メモリースロットにメモリーを差し込みます。

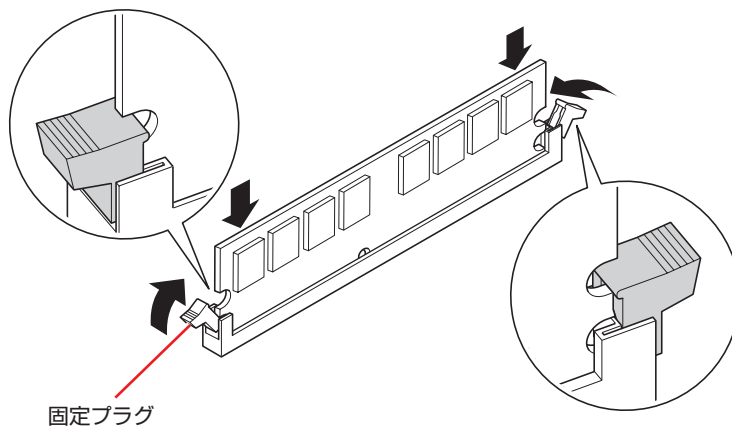
- 1 メモリーの切り欠きをメモリースロット内の仕切りに合わせます。



メモリーの切り欠きとメモリースロット内の仕切りは、確実に合わせてください。メモリーの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。

- 2 メモリーを押し込むと、カチッと音がして自動的に固定プラグが閉じ、メモリーが固定されます。

メモリースロット両端の固定プラグが確実に閉じて、メモリーが固定されたことを必ず確認してください。



制限

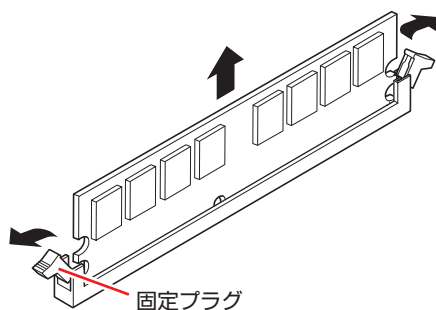
固定プラグが確実に閉じていない場合、メモリーがしっかりと固定されていない可能性があります。
再度、メモリーの向きを確認し、固定プラグが確実に閉じるまで、しっかりとメモリーを押し込んでください。

- 9** HDD ベイを元に戻します。
👉 p.122 「HDD の取り付け・取り外し」 **10** ~ **12**
- 10** **4** でビデオボードを外した場合は、元どおりに装着します。
👉 p.111 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 11** 本体カバーを取り付けます。
👉 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 12** コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
- 13** コンピューターの電源を入れて、メモリーの容量を確認します。
👉 p.109 「メモリーの増設・交換後の作業」

取り外し

メモリーの取り外しは、👉 p.105 「取り付け」の **6** ~ **8** を次の手順に読み替えて行ってください。

- 1** メモリーの両端を固定している固定プラグを開きます。



- 2** メモリーが外れたら静かに取り外します。
静電気防止袋に入れて保管してください。
- 3** 固定プラグを閉じておきます。

メモリーの増設・交換後の作業

メモリーの増設・交換をしたら、メモリーが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリー容量を確認します。

メモリー容量の確認方法は次のとおりです。

- 1** コンピューターの電源を入れて「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **Delete** を「トン、トン、トン…」と連続的に押して「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。

 p.131 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

- 2** 「Main」メニュー画面－「System Information」－「Installed Memory」に表示されているメモリー容量を確認します。

- 3** **F10** を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

 p.135 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

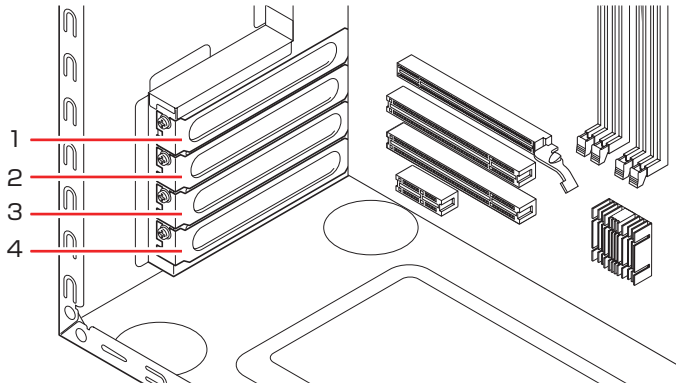
2 でメモリー容量が正しく表示されない場合は、メモリーが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリーを正しく取り付けなおしてください。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と、拡張ボードの取り付け・取り外し方法について説明します。

拡張スロットの仕様

本機には拡張スロットが4つあります。各スロットの仕様は次のとおりです。




スロット番号	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
1	PCI Express x16	ボード長312mm（フルサイズ）まで
2	PCI 2.2	
3		
4	PCI Express x4	

拡張ボードの取り付け・取り外し




拡張スロットには機器の性能を維持するため鋭いエッジがあります。手を傷つけないように作業してください。

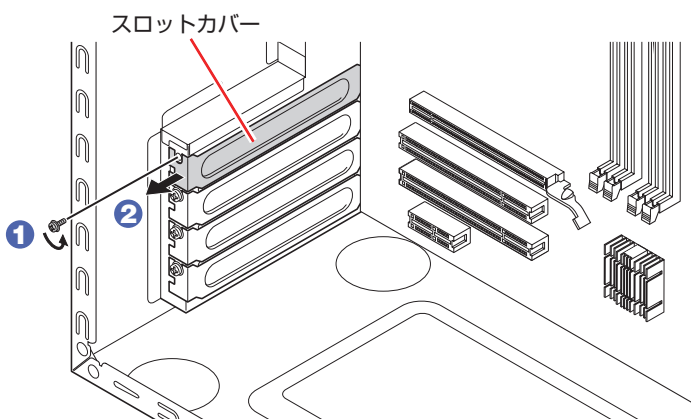
作業を始める前に  p.97 「作業時の注意」と拡張ボードに添付のマニュアルを必ずお読みください。

作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

取り付け

拡張ボードの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 拡張ボードを装着するスロットのスロットカバーを外します。
 - 1** スロットカバーを固定しているネジを外します。
 - 2** スロットカバーを手前に引き抜きます。



外したスロットカバーは、大切に保管してください。別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にホコリなどが入らないように、再びスロットカバーを装着します。

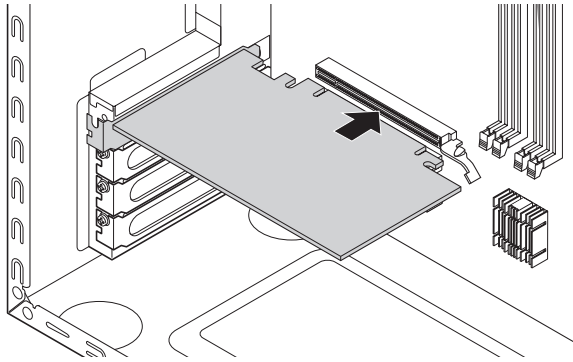


5 拡張ボードを取り付けます。

通常のボードの場合

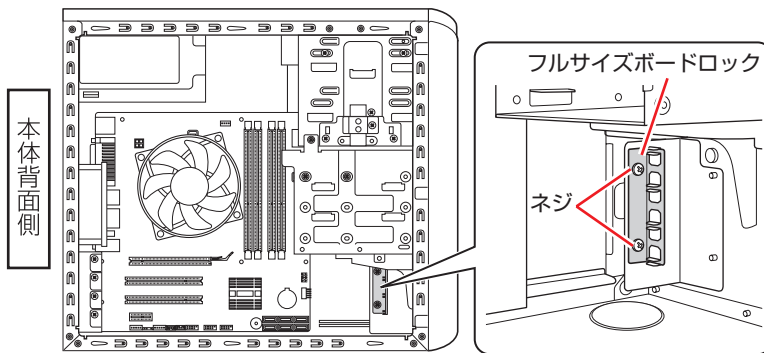
拡張ボードを差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認して、ゆっくり押し込みます。

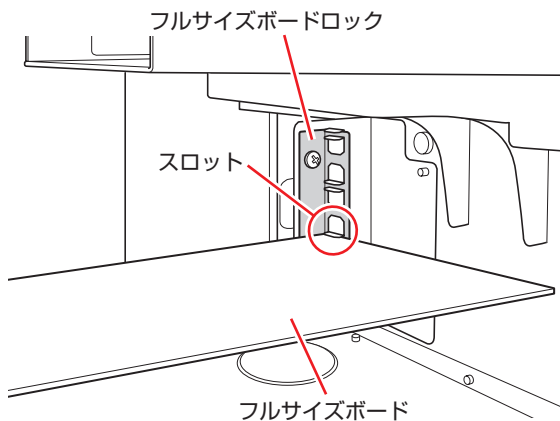


フルサイズ (312mm) のボードの場合

- 1 フルサイズボードロックのネジ (2本) をゆるめます。



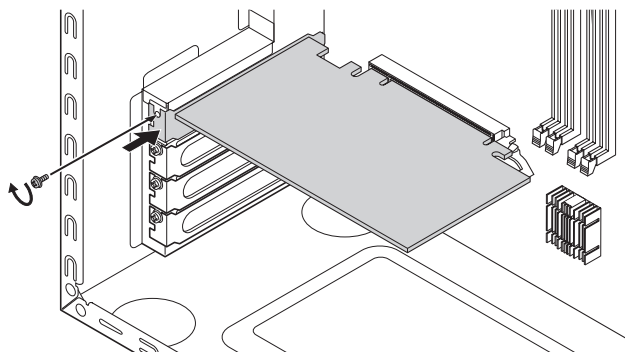
- 2 フルサイズボードロックのスロットにボードを差し込み、<通常のボードの場合>と同様に、端子部をコネクタに差し込みます。




- 3 フルサイズボードロックのネジ (2本) を締めて固定します。

6 拡張ボードをネジで固定します。


拡張ボードによっては、コンピューター内部のコネクターとのケーブル接続が必要な場合があります。拡張ボードに添付のマニュアルで確認してください。



7 本体カバーを取り付けます。

 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」

8 コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

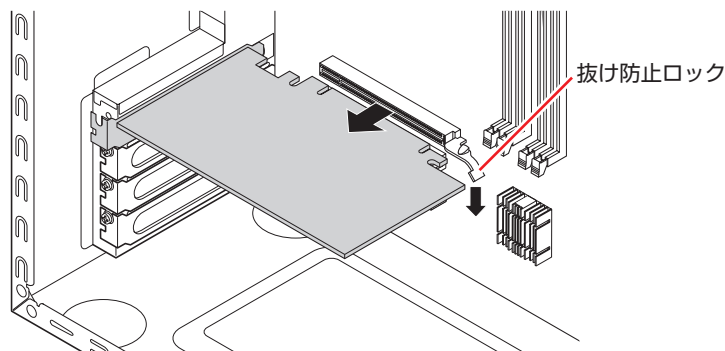
続いて、 p.114 「拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

拡張ボードの取り外しは、[p.111](#)「取り付け」の **4** ~ **6** を次の手順に読み替えて行ってください。

1 拡張ボードを固定しているネジを外します。
フルサイズのボードの場合は、フルサイズボードロックのネジ（2本）をゆるめます。

2 拡張ボードを引き抜きます。
PCI Express x16 の場合は、抜け防止ロックを下に押しながら、拡張ボードを引き抜きます。



3 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

1 でフルサイズボードロックのネジ（2本）をゆるめた場合は、ネジを締めておきます。

拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

ビデオボードの場合

ビデオボードの取り付け・取り外しをした場合、BIOS などの設定は必要ありませんが、ボードによってはドライバーのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

サウンドボードの場合

サウンドボードの取り付け・取り外しを行った場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」の設定値を次のように変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard Audio」

ボード	マザーボード上のサウンド機能
取り付けの場合	Disabled（無効）
取り外した場合	Enabled（有効）

 p.131 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.152 「Advanced メニュー画面」

ボードによってはドライバーのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

ネットワークボードの場合（無線 LAN ボードを除く）

ネットワークボードの取り付け・取り外しを行った場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」の設定値を次のように変更してください。

「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard LAN」

ボード	マザーボード上のネットワーク機能
取り付けの場合	Disabled（無効）
取り外した場合	Enabled（有効）

 p.131 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.152 「Advanced メニュー画面」

ボードによってはドライバーのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

その他のボードの場合

拡張ボードによっては作業が必要な場合があります。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

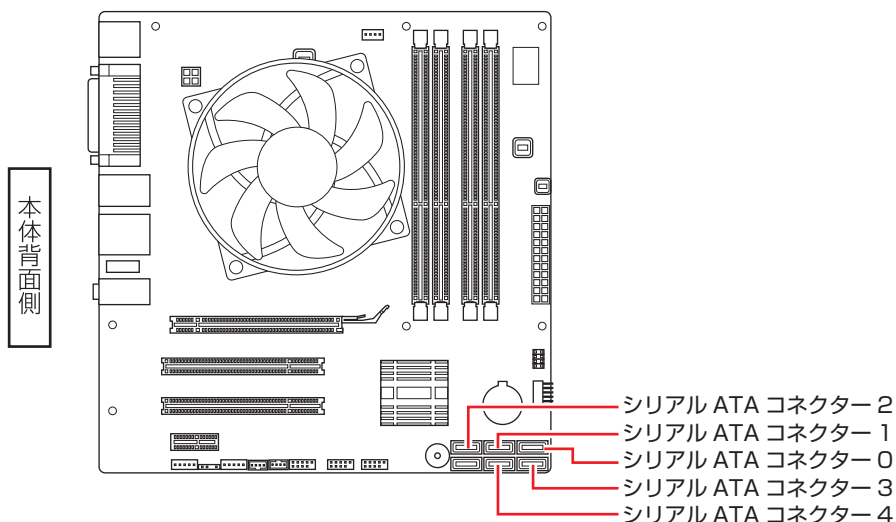
ドライブ装置とコネクタの接続

ここでは、マザーボード上のコネクタの仕様とドライブ装置の接続方法について説明します。

コネクタの仕様とドライブ装置

本機のマザーボード上にあるシリアル ATA コネクタには、3 台の HDD と 2 台の光ディスクドライブを接続することができます。

マザーボード上のシリアル ATA コネクタの位置は、次のとおりです。



各コネクタに接続するドライブ装置は、次のとおりです。

コネクタ	接続するドライブ装置
シリアル ATA コネクタ 0 (Port 0)	HDD (1 台目)
シリアル ATA コネクタ 1 (Port 1)	HDD (2 台目)
シリアル ATA コネクタ 2 (Port 2)	HDD (3 台目)
シリアル ATA コネクタ 3 (Port 3)	光ディスクドライブ (1 台目)
シリアル ATA コネクタ 4 (Port 4)	光ディスクドライブ (2 台目)



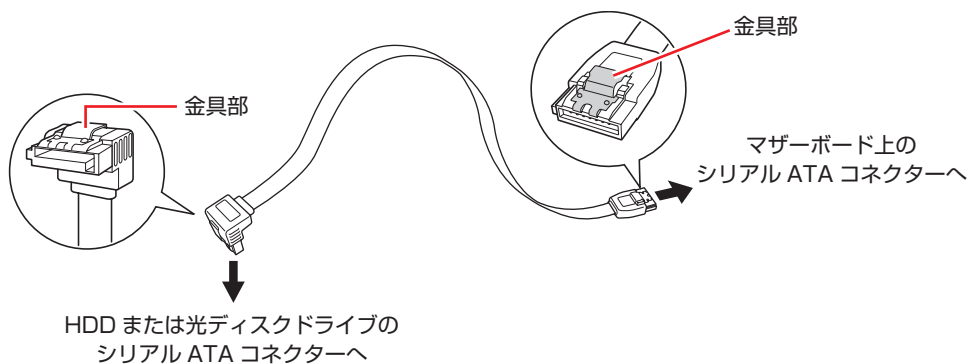
制限

Windows は、シリアル ATA コネクタ 0 に接続された HDD にインストールしてください。

シリアル ATA ケーブル

HDD と光ディスクドライブは、マザーボード上のシリアル ATA コネクタに「シリアル ATA ケーブル」で接続します。シリアル ATA ケーブルは、ケーブル両端の形状と各コネクタの向きを確認して接続してください。


シリアル ATA ケーブルをコネクタから抜く際は、金具部を押しながら引き抜きます。



5.25 型ドライブの装着


5.25 型ドライブ（光ディスクドライブなど）の取り付け・取り外し方法について説明します。

5.25型ドライブの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.97 「作業時の注意」と、「機器に添付のマニュアル」を必ずお読みください。



作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

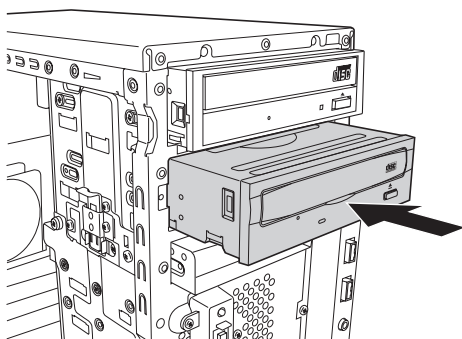
本機には 5.25 型ドライブ増設用のネジとケーブルは添付されていません。

ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。 『別冊』『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

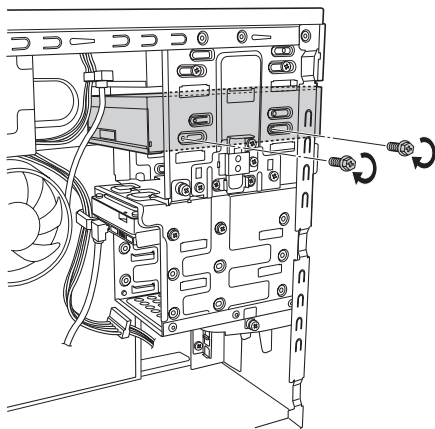
取り付け

5.25 型ドライブの取り付け方法は次のとおりです。ここでは、2 台目の光ディスクドライブを取り付ける方法を説明します。


- 1** コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** フロントパネルを取り外します。
 p.101 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 5** 装置を 5.25 型ドライブベイに押し込みます。

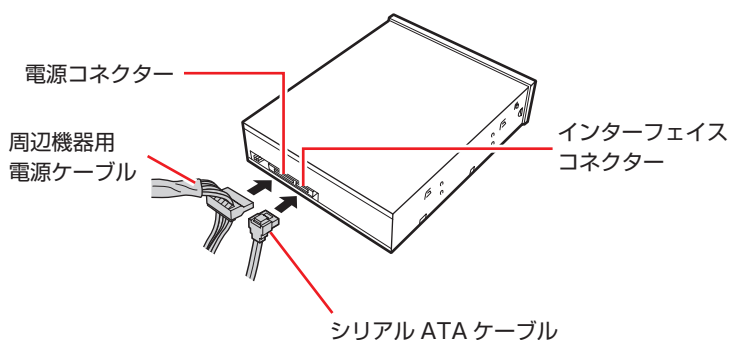


6 装置のネジ穴をドライブキャリアのネジ穴に合わせて、ネジ（2本）で固定します。




7 ケーブル類を接続します。


- 1 周辺機器用電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
- 2 シリアル ATA ケーブルをドライブ装置のインターフェイスコネクタとマザーボード上のシリアル ATA コネクタに接続します。
マザーボード上のコネクタ位置は  p.116 「ドライブ装置とコネクタの接続」で確認してください。




8 光ディスクドライブ以外のドライブを取り付けた場合は、5.25 型フェイスプレートを取り外します。

 p.103 「5.25 型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

9 フロントパネルを取り付けます。

 p.101 「フロントパネルの取り外し・取り付け」


10 本体カバーを取り付けます。

 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」

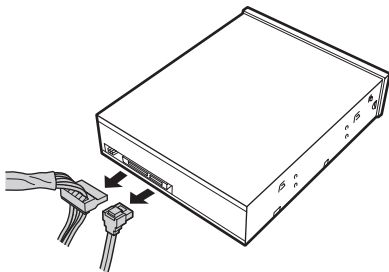
11 コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて  p.121 「5.25 型ドライブの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

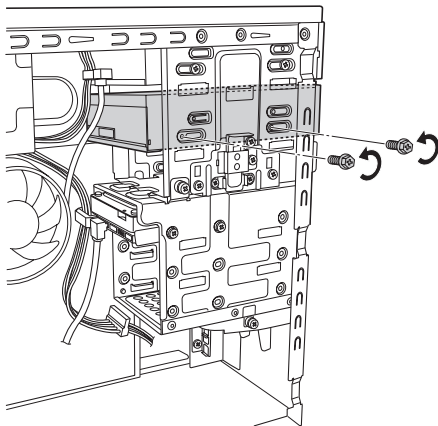
取り外し

5.25 型ドライブの取り外しは、 p.118 「取り付け」の **5** ~ **8** を、次の手順に読み替えて行ってください。

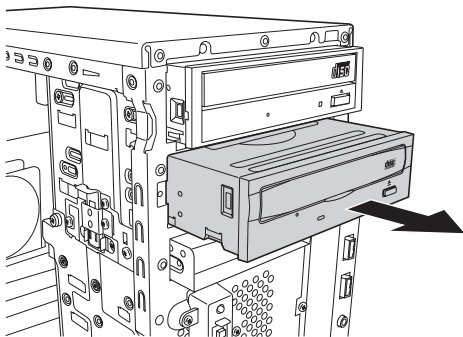
- 1** 装置に接続されているケーブル類とマザーボードに接続されているシリアル ATA ケーブルを取り外します。




- 2** 装置を固定しているネジ (2 本) を外します。



- 3** 装置を引き抜きます。



- 4** 必要に応じて、5.25 型フェイスプレートを取り付けます。
 p.103 「5.25 型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

5.25型ドライブの取り付け・取り外し後の作業

5.25 型ドライブの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

光ディスクドライブを取り付けた場合


光ディスクドライブによっては、ライティングソフトなどのソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、光ディスクドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

このほか、5.25 型ドライブによっては作業が必要な場合があります。詳しくは、ドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

HDD の装着

HDD の取り付け・取り外し方法について説明します。

HDDの取り付け・取り外し


作業を始める前に  p.97 「作業時の注意」と、「機器に添付のマニュアル」を必ずお読みください。





制限

HDD へのアクセス制限を設定している場合は、次の項目でアクセス制限を解除してから HDD の増設を行ってください。

「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」


 p.132 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.150 「Security メニュー画面」

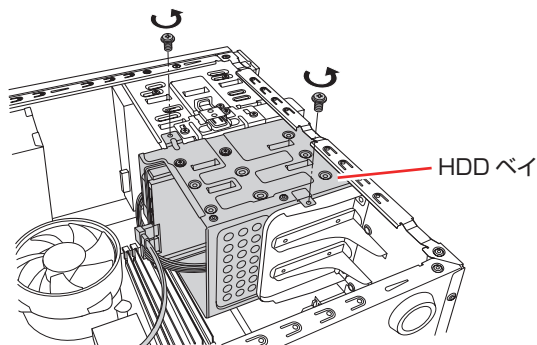
本機には HDD 増設用のネジとケーブルは添付されていません。ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。 『サポート・サービスのご案内』をご覧ください、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

取り付け

HDD の取り付け方法は次のとおりです。ここでは、2 台目の HDD を取り付ける方法を説明します。

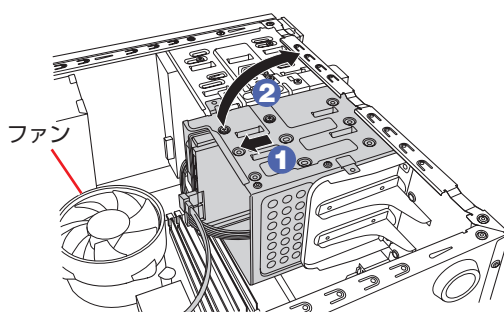
- 1** コンピューター本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 作業を行うために、本機を横置きにします。

5 HDD ベイを固定しているネジ (2 本) を外します。

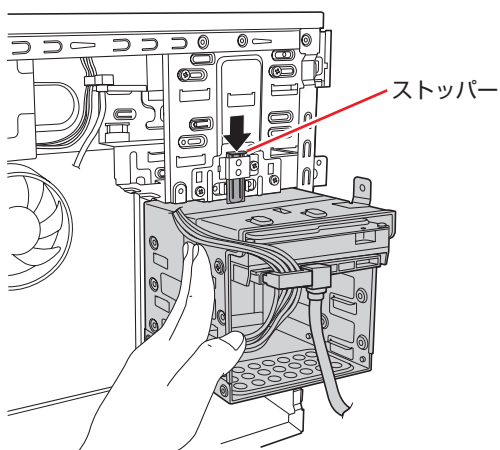


6 HDD ベイを起こします。

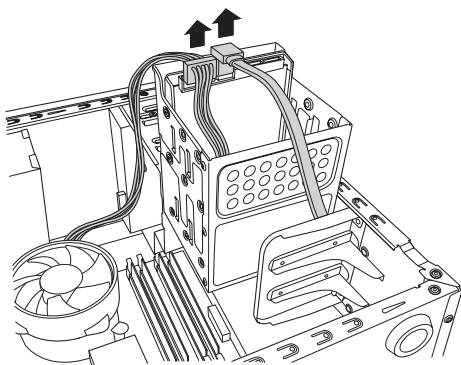
- 1 HDD ベイを本体背面側に引っぱってずらします。
HDD ベイがファンに当たらないよう、少しずつずらしてください。
- 2 HDD ベイを本体背面側から 90 度起こします。



- 3 HDD ベイを押さえながら、ストッパーを矢印の方向に押しして HDD ベイを固定します。
ストッパーが HDD ベイに差し込まれ、HDD ベイが固定されたことを確認して、手を離します。

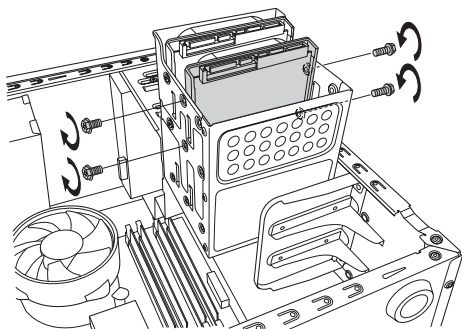


- 7** 作業の妨げにならないように、HDD に接続されているケーブル類を全て外します。
シリアル ATA ケーブルは、金具部を押しながら引き抜いてください。



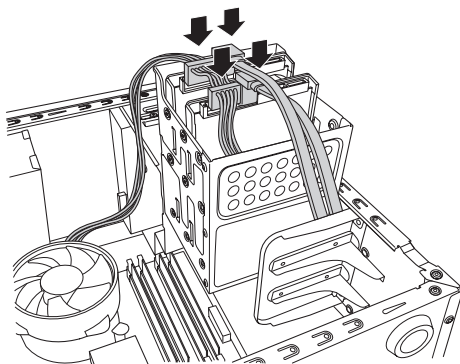
- 8** HDD ベイに HDD を取り付けます。

- 1 取り付ける HDD を、装着されている 1 台目の HDD と同じ向きにし、HDD ベイに差し込みます。
- 2 HDD のネジ穴を HDD ベイのネジ穴に合わせて、ネジ（4 本）で固定します。



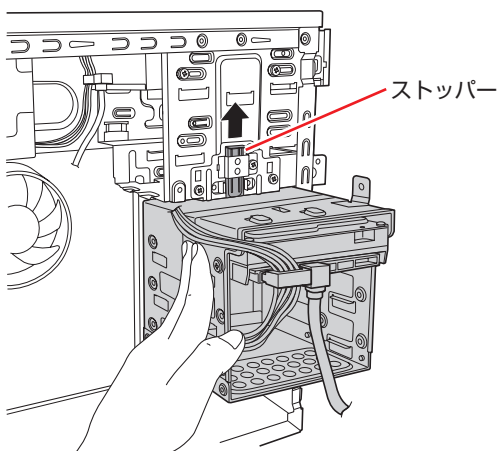
9 7 で外したケーブル類と取り付けした HDD のケーブル類を接続します。

- 1 周辺機器用電源ケーブルを、HDD の電源コネクタに接続します。
- 2 シリアル ATA ケーブルを HDD のコネクタとマザーボード上のシリアル ATA コネクタに接続します。
マザーボード上のコネクタ位置は、[p.116](#)「ドライブ装置とコネクタの接続」で確認してください。

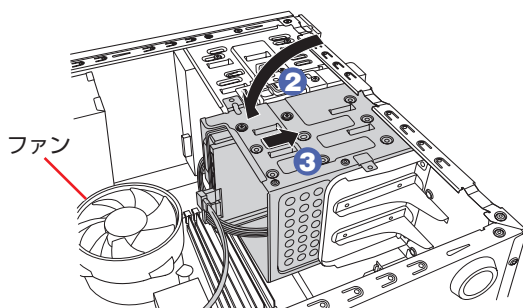


10 HDD ベイを元に戻します。

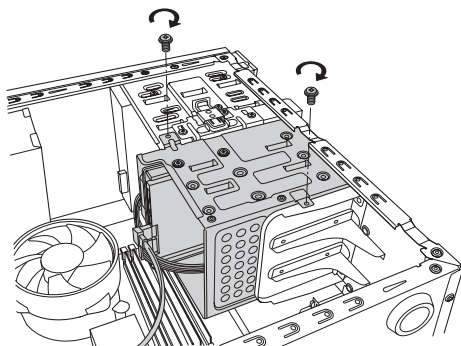
- 1 HDD ベイを押さえながら、ストッパーを矢印の方向に引いて HDD ベイの固定を解除します。





- ② HDD ベイをゆっくりと本体背面側に倒します。
HDD ベイがファンに当たらないよう、気をつけて倒してください。
- ③ HDD ベイを本体前面側に押し込みます。
HDD に接続したケーブル類がファンに触れないよう、ケーブル類の位置を調節してください。



- ⑪ 本体のネジ穴に HDD ベイのネジ穴を合わせて、ネジ（2本）で固定します。





- ⑫ 本体を縦置きにします。
- ⑬ 本体カバーを取り付けます。
 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- ⑭ コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて  p.128 「HDD の取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

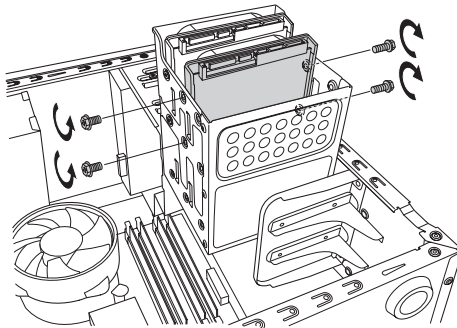
HDD の取り外しは、 p.122 「取り付け」の **8** ~ **9** を次の手順に読み替えて行ってください。

制限

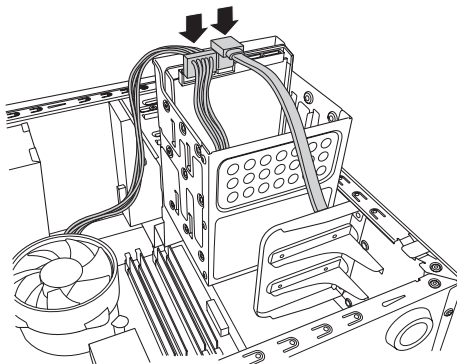
- HDD へのアクセス制限を設定している場合は、アクセス制限を解除した状態で HDD を取り外してください。
 p.150 「Security メニュー画面」 - 「Hard Disk Protection」
- RAID を構成している HDD を取り外す場合は、RAID を削除してから取り外してください。ただし、RAID 構成時に破損した HDD を交換する場合は、RAID の削除は不要です。
 p.49 「RAID を削除する」

1 HDD ベイから HDD を取り外します。

HDD ベイと HDD を固定しているネジ（4 本）を外し、HDD ベイから HDD を取り外します。



2 **7** で外したケーブル類を接続します。



ほかの HDD を取り付けない場合は、シリアル ATA ケーブルをマザーボードから取り外し、大切に保管して下さい。


HDDの取り付け・取り外し後の作業

HDD の取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。


HDD を取り付けた場合

HDD を取り付けた場合は、 p.204 「C ドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください、ドライブの作成を行ってください。

新しく RAID を作成する場合

 p.46 「RAID の構成・削除・修復」をご覧ください、RAID の作成を行ってください。

RAID 構成時に破損した HDD を取り替えた場合

 p.52 「RAID を修復または再構成する」をご覧ください、RAID の再構成または RAID の修復を行ってください。

3

BIOS の設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOS の設定を始める前に.....	130
BIOS Setup ユーティリティの操作.....	131
BIOS Setup ユーティリティの設定項目.....	144

BIOS の設定を始める前に



制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOS は、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上に ROM として搭載されています。

BIOS の設定は「BIOS Setup ユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOS の設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効 / 無効にする場合

BIOS の設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setup ユーティリティで変更した内容は CMOS RAM と呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setup ユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。


 p.209 「リチウム電池の交換」

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。

万が一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.144 「BIOS Setup ユーティリティの設定項目」

- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。

 p.136 「設定値を元に戻す」

BIOS Setup ユーティリティの操作

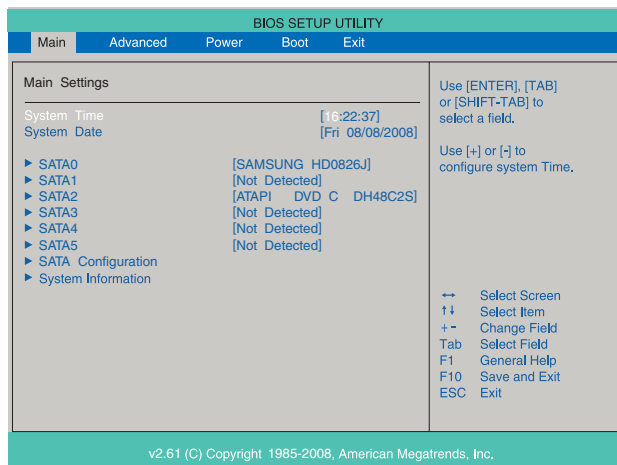
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDD アクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。2 では、すばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1** シャットダウン状態から本機の電源を入れます。
すでに Windows が起動している場合は、再起動します。
- 2** 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
Windows が起動してしまった場合は、再起動して **2** をもう一度実行してください。
- 3** 「BIOS Setup ユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



< BIOS Setup ユーティリティ画面（イメージ） >

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

CMOS Settings Wrong
Press F1 to run SETUP または Press F1 to Resume

このメッセージが表示されたら **[F1]** を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

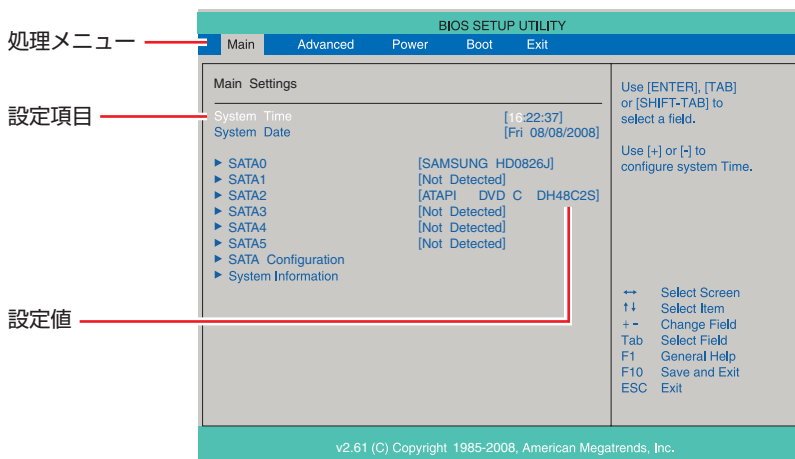
 p.135 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

BIOS Setupユーティリティの操作


「BIOS Setup ユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOS Setup ユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。





<メニュー画面>

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.144 「BIOS Setup ユーティリティの設定項目」をご覧ください。

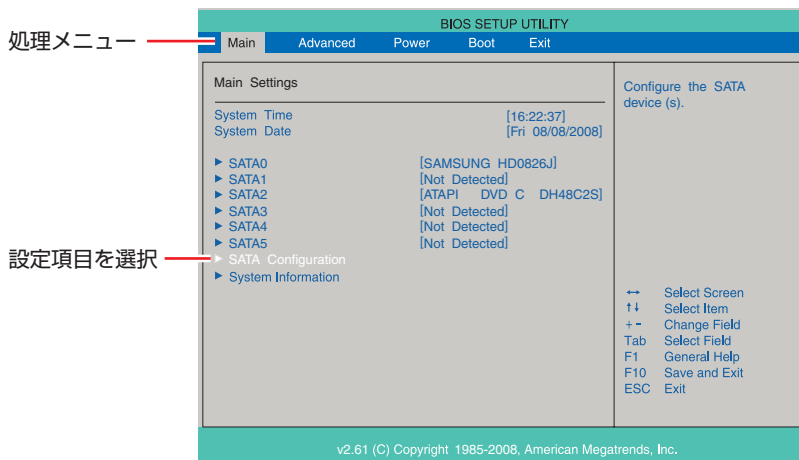
操作方法

BIOS Setup ユーティリティの操作方法是次のとおりです。

- 1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。




  でメニュー間を移動します。

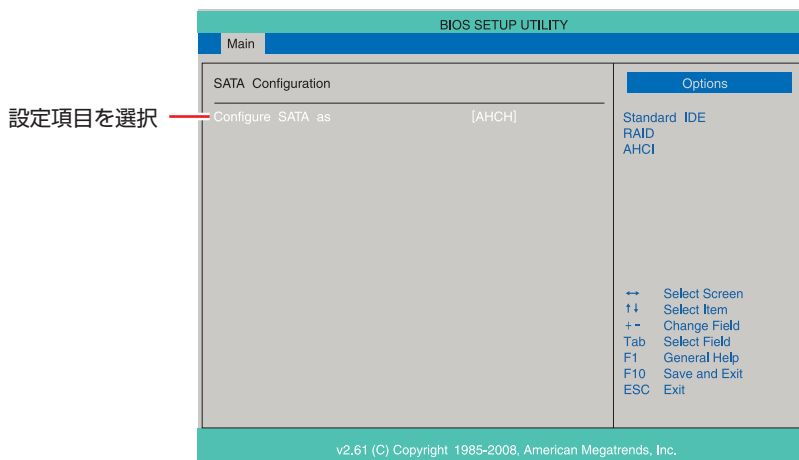
  で設定値を変更したい項目まで移動します。



<メニュー画面>

▶ のある項目の場合

▶ のある項目の場合、 を押すとサブメニュー画面が表示されます。  で設定値を変更したい項目まで移動します。



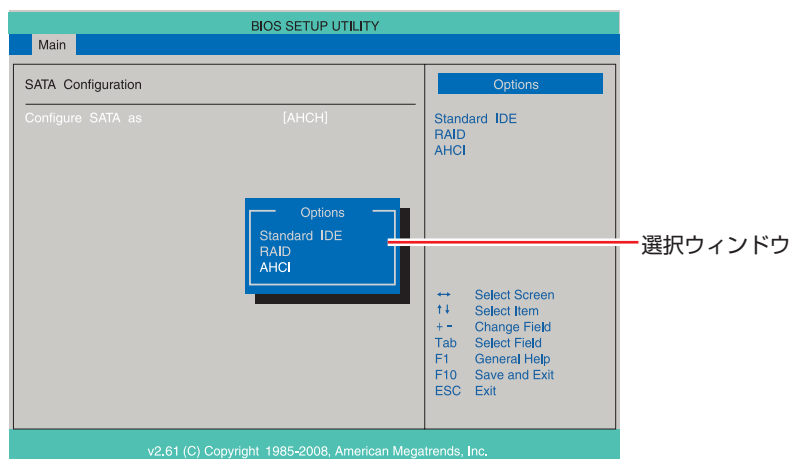
<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには  を押します。



2 設定値を変更します。

◀ を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ◀ で決定します。



キー操作

BIOS の画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none">変更した内容を破棄し、終了します。サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
◀	<ul style="list-style-type: none">メニュー画面中の ▶ のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。選択項目の選択ウィンドウを表示します。設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、BIOS の初期値に変更します。
F7	変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setup ユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup? [OK] [Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

Exit & Discard Changes (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup? [OK] [Cancel]
--

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

設定値を元に戻す

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setup ユーティリティの設定を BIOS の初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults (BIOS の初期値に戻す)

BIOS Setup ユーティリティの設定を BIOS の初期値に戻す方法は、次のとおりです。

※「Boot」メニュー画面の「Security」項目を BIOS の初期値に戻すことはできません。

- 1 **F7** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。

Load Setup Defaults 実行後の作業

次の場合は、Load Setup Defaults を実行したあとに、BIOS の設定値を設定しなおしてください。

サウンドボードを搭載している場合

マザーボード上のサウンド機能を無効にします。

「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard Audio」を「Disabled」に設定してください。

ネットワークボード（無線 LAN ボードは除く）を搭載している場合

マザーボード上のネットワーク機能を無効にします。

「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard LAN」を「Disabled」に設定してください。

RAID 機能を使用している場合

RAID 機能を有効にします。

「Main」メニュー画面－「IDE Configuration」－「Configure SATA as」を「RAID」に設定してください。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

 p.135 「Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)」

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

BIOS Setup ユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

- 1 **F7** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes ?	
[OK]	[Cancel]

- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。

ユーザーの設定値を保存する

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定値を変更した場合、その状態を「ユーザーの初期設定値」として保存しておくことができます。設定値を保存しておく、と、「Load Setup Defaults」や CMOS RAM の初期化を行って、設定値が「BIOS の初期値」になってしまった場合などに、「ユーザーの初期設定値」に戻すことができます。

Save User Define (ユーザーの設定値を保存する)

BIOS Setup ユーティリティで変更した設定値を「ユーザーの初期設定値」として保存する方法は、次のとおりです。

- 1 BIOS Setup ユーティリティの設定値を変更します。
- 2 「Exit」メニュー画面－「Save User Define」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save User Define?	
[OK]	[Cancel]


- 3 **OK** を選択し、**Enter** を押します。
これで設定値が保存されます。

Load Setup User Define (ユーザーの初期設定値に戻す)

※ 「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。
設定値を「ユーザーの初期設定値」に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Load Setup User Define」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 [OK] を選択し、 を押します。
これで設定値が「ユーザーの初期設定値」に戻ります。

パスワードを設定する


「Security」メニュー画面でパスワードを設定すると、BIOS や Windows の起動時にパスワードを要求されるようになります。

パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
(HDD アクセス制限など)

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードで BIOS にログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードで BIOS にログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます (権限は、設定変更することができます)。
 p.139 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法


パスワードの設定方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードが設定できるようになります。



制限

設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOS の設定変更や、設定によっては Windows の起動ができなくなります。


- 1 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password:


- 2 パスワードを入力し、 を押します。


「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは 8 文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。

Confirm New Password:

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match !」というメッセージが表示されます。[Ok] が選択された状態で  を押すと、BIOS のメニュー画面に戻ります。この場合、手順 1 からやりなおしてください。


- 4 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。

ユーザーパスワードの権限設定


ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードで BIOS にログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

 p.150 「Security メニュー画面」 - 「User Access Level」

管理者パスワードが設定されていないと権限変更はできません。権限を変更するときは、あらかじめ管理者パスワードを設定しておいてください。


パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setup ユーティリティ起動時や、Windows 起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

 p.150 「Security メニュー画面」 - 「Password Check」

管理者パスワードの削除方法


管理者パスワードの削除方法は、次のとおりです。
管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードで BIOS にログオンしてください。

- 1 「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

- 2 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.
[OK]


- 3 [OK] が選択された状態で  を押します。
「Supervisor Password」の表示が「Not Installed」に変わります。
これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードの削除方法

ユーザーパスワードの削除方法は、次のとおりです。

- 1 「Clear User Password」を選択して、 を押すと、次の画面が表示されます。

Clear User Password ?
[Ok] [Cancel]

- 2 [Ok] を選択して、 を押します。
「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これでユーザーパスワードが削除されました。

HDDアクセス制限

HDD アクセス制限を設定すると、次の状態になります。

- BIOS や Windows 起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDD をほかのコンピューターに接続した場合、認識されないようになる

HDD への無断アクセスや、万が一 HDD が盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDD アクセス制限を設定します。


HDD アクセス制限の設定方法

HDD アクセス制限の設定方法は次のとおりです。

！ 制限

- パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。
- RAID 構成時、HDD アクセス制限は使用できません。
- HDD を増設・交換する際は、HDD へのアクセス制限を解除した状態で行ってください。

1 管理者パスワードを設定します。

 p.138 「パスワードの設定方法」

2 HDD アクセス制限の設定をします。

「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。

 p.150 「Security メニュー画面」

解除方法

HDD アクセス制限の解除方法は次のとおりです。

1 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Disabled」に設定します。

 p.150 「Security メニュー画面」

起動(Boot)デバイスの順番を変更する

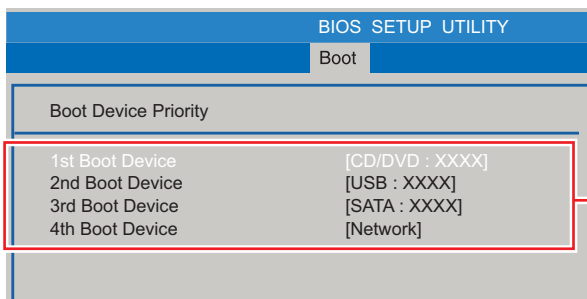
本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク（USB フラッシュメモリーなど）を接続していたり、USB FDD に FD がセットされていると、Windows が起動しないことがあります。

このような場合、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動 (Boot) デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム (Windows や OS) から起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で行います。



この順番に
デバイスを
検出して起
動します。

<イメージ>


「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。表示されるデバイスは、システム構成によって異なります。

- CD/DVD:XXXX (接続されている光ディスクドライブの型番)
- USB:XXXX (USB FDD や USB フラッシュメモリーなどの型番)
- HDD:XXXX (接続されている HDD の型番)
- Network:XXXX (ネットワーク)
- Disabled (検出するデバイスを割り当てないときに設定します)




購入時は、USB 記憶装置の順番が HDD より前に設定されているため、USB 記憶装置を接続していると HDD 内の Windows から起動できません。

起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法

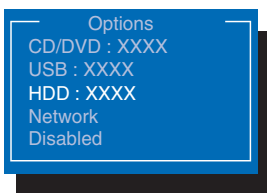
起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動できるように、1 番目に起動するドライブを光ディスクドライブ、2 番目に起動するドライブを HDD に設定する方法を説明します。

- 1** 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択し、 を押します。
- 2** サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。
- 3** HDD の順番を 2 番目に設定します。

1   で「2nd Boot Device」(2 番目) を選択し、 を押します。

- ② 選択ウィンドウが表示されたら、  で「HDD:XXXX」を選択し、 を押します。

HDD の順番が 2 番目になります。



<選択ウィンドウ>

- ④  を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

 p.135 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

これで、起動デバイスの変更は完了です。


BIOS Setup ユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setup ユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

- Main メニュー画面
日付、時間、HDD などの設定を行います。
- Advanced メニュー画面
CPU に関する設定、I/O 関係の動作設定や PCI バス関係の設定などを行います。
- Power メニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Boot メニュー画面
システムを起動するドライブの設定や本機の動作状態の設定などを行います。
- Security メニュー画面
パスワードやセキュリティに関する設定を行います。
- Exit メニュー画面
BIOS Setup ユーティリティを終了したり、BIOS の設定値を初期値に戻したりします。

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDD などの設定を行います。設定項目は、次のとおりです。

 は初期値
*は項目表示のみ

System Time	時刻を設定します。(時間：分：秒) の順で表示されます。
System Date	日付を設定します。(曜日 月 / 日 / 年) の順で表示されます。

SATA 0 / SATA 1 / SATA 2 / SATA 3 / SATA 4 / SATA 5	シリアル ATA 装置の設定をします。 ※表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。
* Device	シリアル ATA 装置の機器の種類を表示します。
* Vender	シリアル ATA 装置の機器の型番を表示します。
* Size	HDD の容量を表示します。
* F/W	シリアル ATA 装置の機器のファームウェアのバージョンを表示します。
* LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) をサポートしているかを表示します。
* PIO Mode	シリアル ATA 装置の機器の PIO 転送モードを表示します。
* DMA Mode	HDD の DMA 転送モードを表示します。
* SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) の状態を表示します。
Type	シリアル ATA 装置の仕様を設定します。 Auto : BIOS が自動的にシリアル ATA 装置の仕様を設定します。 Not Installed : シリアル ATA 装置を使用しない場合に選択します。
LBA / Large LBA	LBA (Logical Block Addressing) を使用するかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
Block Mode	一度に何セクター転送できるかを表示します。 Disabled : 使用しません。 Auto : BIOS が自動的に最適な速度を設定します。
PIO Mode	シリアル ATA 装置の機器の PIO 転送モードを設定します。 初期値 [Auto] のままで使用します。
DMA Mode	シリアル ATA 装置の機器の DMA 転送モードを設定します。 初期値 [Auto] のままで使用します。
SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のままで使用します。
32Bit Data Transfer	32Bit データ転送を使用するかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
IDE Configuration	
Configure SATA as	シリアル ATA HDD の動作モードを設定します。 Standard IDE : IDE 互換モードで動作します。 RAID : RAID モードで動作します。 AHCI : シリアル ATA Native モードで動作します。
System Information	本機の仕様を表示します。
AMI BIOS	BIOS の情報を表示します。
* Version	BIOS のバージョンを表示します。
* Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
System Memory	本機に搭載されているメモリー容量の情報を表示します。
* Installed Memory	本機に搭載されている総メモリー容量を表示します。

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値

*は項目表示のみ





CPU Configuration	本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。
* Manufacturer	メーカーを表示します。
* Brand String	型番を表示します。
* Frequency	周波数を表示します。
* Cache L1	CPUのL1 キャッシュ容量を表示します。
* Cache L2	CPUのL2 キャッシュ容量を表示します。
* Cache L3	CPUのL3 キャッシュ容量を表示します。
* CPUID	CPU IDを表示します。
* Ratio Status	CPUクロックの値を表示します。
* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
Hyper Threading Technology	ハイパースレッディング機能の有効/無効を設定します。ハイパースレッディング機能を持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 Enabled : 有効にします。 Disabled : 無効にします。
Virtualization Technology	Intel Virtualization Technology 機能の有効/無効を設定します。Virtualization Technology 機能を持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Turbo Boost Technology	ターボブースト機能の有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Onboard Devices Configuration	マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。
Onboard Audio	マザーボード上のサウンド機能を使用するかを設定します。サウンドボード使用時は、[Disabled] に設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Onboard 1394 Controller	マザーボード上のIEEE 1394 機能を使用するかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Onboard LAN	マザーボード上のネットワーク機能を使用するかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。 [Enabled] に設定して再起動すると、「Boot」メニュー画面-「Boot Device Priority」に「4th Boot Device」として表示されます。

Parallel Port Address	<p>パラレルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。</p> <p>Disabled : パラレルポートを使用しません。</p> <p>378/IRQ7, 278/IRQ5, 3BC/IRQ7</p>
Parallel Port Mode	<p>パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。</p> <p>Normal : 標準の設定です。</p> <p>Bi-Directional : EPP+ECP モードまたは双方向モードに設定します。</p> <p>ECP : ECP モードに設定します。</p> <p>EPP : EPP モードに設定します。</p>
ECP Mode DMA Channel	<p>「Parallel Port Mode」を [ECP] に設定すると表示されます。</p> <p>初期値 [DMA3] のままで使用します。</p>
EPP Version	<p>「Parallel Port Mode」を [EPP] に設定すると表示されます。</p> <p>初期値 [1.9] のままで使用します。</p>
USB Configuration	<p>USB コントローラーの設定をします。</p>
USB FUNCTION	<p>初期値 [Enabled] のままで使用します。</p>
Legacy USB Support	<p>初期値 [Enabled] のままで使用します。</p>
USB2.0 Controller	<p>USB の転送速度を設定します。</p> <p>Disabled : USB 1.1 の転送速度で使用します。</p> <p>Enabled : USB2.0 の転送速度で使用します。</p>
USB2.0 Controller Mode	<p>初期値 [HiSpeed] のままで使用します。</p>
USB Mass Storage Device Configuration	<p>外付け USB 機器を接続したり、マルチカードリーダーにメモリーカードをセットしたりすると各機器の型番を表示します。初期値のまま使用します。</p>

Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や再起動に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ

Suspend to RAM	スリープの設定をします。 Disabled：ディスプレイなどの電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。 Enabled：メモリー以外の電源が切れます。消費電力はほとんどありません。
ACPI Support	初期値 [ACPI v2.0] のままで使用します。
APM Configuration	起動する方法や条件を設定します。
Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピューターの同時起動を行うと、コンピューターの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off：電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On：電源オフ時に、電源スイッチを押さなくても、電源が供給されるとコンピューターが起動します。 Last State：コンピューターの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。コンピューターを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピューターは起動しません。
※ Power On By RTC Alarm	コンピューターを指定した時間に起動させる設定をします。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
RTC Alarm Date Hour Minute Second	「Power On By RTC Alarm」を「Enabled」に設定すると表示されます。 起動する日時を設定します。
※ Power On By PCI Devices	電源切断時、PCI 接続のネットワークから起動するかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
※ Power On By PCIE Devices	電源切断時、マザーボード上のネットワーク (PCI Express 接続) から起動するかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
Power On By PS/2 Keyboard	PS/2 キーボードを使用している場合に、起動 / 復帰をキーボードで行えるようにするかどうかを設定します。 Enabled：設定します。 Disabled：設定しません。
Wake up Key Select	Power On By PS/2 Keyboard を「Enabled」に設定すると表示されます。 起動 / 復帰に使用する PS/2 キーボードのキーを設定します。 Ctrl + ESC：  +  を使用します。 Power Key：Power キー () が搭載されている場合、Power キー () を使用します。

※ Enabled (有効) に設定しているときに、電源コードを抜き、再び接続すると、コンピューターが一瞬起動する場合がありますが、不具合ではありません。

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。


Bootの順番の変更方法については、[p.141「起動\(Boot\)デバイスの順番を変更する」](#)をご覧ください。

■は初期値

*は項目表示のみ














Boot Device Priority	システムを起動するドライブの順番を設定します。
1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。
2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は搭載しているリムーバブルディスクの型番が表示されます。
3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値は搭載しているHDDの型番が表示されます。
4th Boot Device ※リモートブート機能を有効にすると表示され ず。	ネットワークから起動する場合に使用します。 (リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面-「Onboard Devices Configuration」の「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定し、変更を保存して再起動します。)
Hard Disk Drives	
1st Drive 2nd Drive 3rd Drive	HDDの型番を自動的に検出して表示します。初期値のまま使用します。
Removable Devices	
1st Drive 2nd Drive 3rd Drive 4th Drive	外付けの記憶装置（USB FDD など）を接続すると、型番を自動的に検出して表示します。
Optical Disc Drive	
1st Drive 2nd Drive	光ディスクドライブの型番を自動的に検出して表示します。光ディスクドライブ2台搭載時のみ表示されます。初期値のまま使用します。
Boot Settings Configuration	
Full Screen Logo	コンピューター起動時にロゴを表示するかを設定します。 Disabled：表示しません。 Enabled：表示します。
Bootup Num-Lock	DOS起動時のNumLockの状態を設定します。 Off：NumLockが押されていない状態にします。 On：NumLockが押された状態にします。


Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードやセキュリティーに関する設定を行います。
 パスワードの設定方法は、 p.138 「パスワードを設定する」をご覧ください。
 設定項目は、次のとおりです。

 は初期値

*は項目表示のみ

Security Settings	システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。
Supervisor Password/ User Password	Supervisor Password (管理者パスワード) と User Password (ユーザーパスワード) が設定されているかどうかを表示します。 Installed  : パスワードが設定されています。 Not Installed  : パスワードが設定されていません。
Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setup ユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	「User Password」(ユーザーパスワード) で「BIOS Setup ユーティリティ」にアクセスするときのアクセス制限レベルを4段階で設定します。 No Access  : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティ」を起動することができません。 View Only  : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited  : 「BIOS Setup ユーティリティ」を閲覧できるほかに、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。 Full Access  : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOS セットアップユーティリティ」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
Change User Password ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setup ユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password ※ユーザーパスワードを設定 すると表示されます。	ユーザーパスワードを削除します。  を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
Password Check ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup  : 「BIOS Setup ユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 Always  : 「BIOS Setup ユーティリティ」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。
TPM Function	セキュリティーチップ (TPM) の設定をします。
Trusted Platform Module	セキュリティーチップ (TPM) を使用するかどうかを設定します。 Disabled  : 使用しません。 Enabled  : 使用します。

Clear Trusted Platform Module	<p>「Trusted Platform Module」を「Enabled」に設定すると表示されます。セキュリティチップに保存されている情報を初期化します。</p> <p>※初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。また、Windows Vista の HDD 暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windows が起動できなくなり、暗号化している HDD 内のデータも使用できなくなります。セキュリティチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。</p> <p>初期化する場合は、 を押し、確認画面が表示されたら [OK] を選択します。情報が初期化され、コンピューターが再起動します。再起動後、「Trusted Platform Module」は「Disabled」に設定されます。</p>
Hard Disk Security	
Hard Disk Protection ※管理者パスワードを設定すると設定可能になります。	<p>HDD へのアクセス制限の有効 / 無効を設定します。アクセス制限を有効に設定した HDD は、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。</p> <p>有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS 起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。</p> <p>Disabled : HDD へのアクセスを制限しません。</p> <p>Enabled : HDD へのアクセスを制限します。</p> <p>※ RAID 構成時、HDD アクセス制限は使用できません。</p>

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setup ユーティリティを終了したり、BIOS の設定値を初期値に戻します。

設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setup ユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setup ユーティリティの設定値を、BIOS の初期設定値に戻します。
Save User Define	ユーザーの設定値を保存します。保存された設定値がユーザーの初期設定値になります。
Load Setup User Define	※「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。設定値をユーザーの初期設定値に戻します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくことと便利です。ユーザーの設定値は、保存しておくこともできます。  p.137 「ユーザーの設定値を保存する」

Main メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
SATA0	Type	Auto	Not Installed	Auto	Not Installed
	LBA/Large LBA	Auto	Disabled	Auto	Disabled
SATA1	Block Mode	Auto	Disabled	Auto	Disabled
SATA2					
SATA3	32Bit Date Transfer	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
SATA4					
SATA5					
IDE Configuration	Configure SATA as	Standard IDE	RAID AHCI	Standard IDE	RAID AHCI

Advanced メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容		
CPU Configuration	Ratio Setting					
	Hyper Threading Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled	
	Virtualization Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled	
	Turbo Boost Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled	
Onboard Devices Configuration	Onboard Audio	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled	
	Onboard 1394 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled	
	Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled	
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled	
	Serial Port Adress	Disabled		Disabled		
		3F8/IRQ4	2F8/IRQ3	3E8/IRQ4	2E8/IRQ3	3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3
	Parallel Port Address	Disabled		Disabled		
	378/IRQ7	278/IRQ5	3BC/IRQ7		378/IRQ7 278/IRQ5 3BC/IRQ7	
	Parallel Port Mode	Normal ECP EPP	Bi-Directional ECP & EPP	Normal ECP EPP	Bi-Directional ECP & EPP	
USB Configuration	USB 2.0 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled	

Power メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Suspend to RAM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On Last State	Power Off	Power On Last State
	Power On By RTC Alarm	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCI Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCIe Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PS/2 Keyboard	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Wake up Key Select	Ctrl + ESC	Power Key	Ctrl + ESC	Power Key

Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	4th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On

Security メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Security Settings	Supervisor password	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
	User password	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
	* User Access Level	No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
	* Password Check	Setup	Always	Setup	Always
	Trusted Platform Module	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Hard Disk Security	* Hard Disk Protection	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

* 管理者パスワードを設定すると表示されます。



4

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

ソフトウェアの再インストール 156

ソフトウェアの再インストール

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。
HDD をフォーマットして、Windows や本体ドライバーなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。再インストールは、「リカバリー」とも言います。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因で Windows が起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合
- HDD 領域の構成を変更したい場合

Windows を修復する

なんらかの原因で Windows が起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows 回復環境」で Windows の修復を行ってみてください。再インストールしなくても問題が解決する場合があります。

 p.190 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外の BIOS へのアップデート禁止

当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外の BIOS にアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティーソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティーソフトウェア「Norton Internet Security 90 日版」で、90 日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

 『別冊』『セキュリティーソフトウェアをご使用前に』

Web フィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付の Web フィルタリングソフトウェア「i-フィルター 30 日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windows を再インストールすると利用期限が 30 日に設定されてしまいます。この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアル ID を利用してインストールを行ってください。

詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。


<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

PC お役立ちナビのバックアップ

サポートツール「PC お役立ちナビ」に収録されているコンテンツ類やマニュアルデータ (PDF) は、Windows を再インストールすると消去されます。あらかじめバックアップを行ってください。

 p.197 「PC お役立ちナビのデータをバックアップする」

必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。

- Windows Vista リカバリ DVD

Windows Vista が収録されている DVD-ROM です。

- ドライバー CD

本体ドライバーやソフトウェアが収録されている CD-ROM です。

- ビデオドライバー CD

ビデオボードを使用するためのドライバーが収録されている CD-ROM です。

お使いのビデオボードにより、CD の名称は異なります。

- WinDVD CD-ROM

DVD VIDEO を再生するソフトウェアが収録されている CD-ROM です。

DVD-ROM ドライブ (再生ソフトなし) の場合は添付されていません。

- Nero 8 Essentials CD-ROM (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時)

光ディスクドライブのライティングソフトウェアが収録されている CD-ROM です。

- 106 PS/2 コンパクトキーボードユーティリティ CD

(106 PS/2 コンパクトキーボード使用時のみ)

106 PS/2 コンパクトキーボードのホットキーを使用するためのユーティリティが収録されている CD-ROM です。

- そのほか必要なメディア

お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。👉 p.161 以降の手順に従ってインストールを行ってください。

のソフトウェアは必ずインストールしてください。

購入時のインストール状態は、👉 p.25 「添付されているソフトウェア」で確認してください。

- 1 Windows
- 2 本体ドライバー
- 3 ビデオドライバー
- 4 拡張ボードのドライバー（拡張ボード搭載時のみ）
- 5 Adobe Reader
- 6 セキュリティソフトウェア
- 7 WinDVD（WinDVD 添付時のみ）
- 8 Nero 8 Essentials（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ）
- 9 106 PS/2 コンパクトキーボードユーティリティ
（106 PS/2 コンパクトキーボード使用時のみ）
- 10 Web フィルタリングソフトウェア
- 11 JWord Plugin
- 12 goo スティック
- 13 マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版
- 14 そのほかのインストール
- 15 再インストール後の作業

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、次の点を確認してください。

- **管理者 (Administrator) のアカウントでログオン**

インストール作業は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンして行ってください。

- **システム構成**

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOS の設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

- **ドライブ名**

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
光ディスクドライブのドライブ名は、HDD 領域の数によって異なります。

A ドライブ：USB FDD (オプション)

C ドライブ：HDD

D ドライブ：光ディスクドライブ (オプション)

- **各種設定やデータのバックアップ**

再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

 p.161 「バックアップを取る」


- **初期設定ツール**

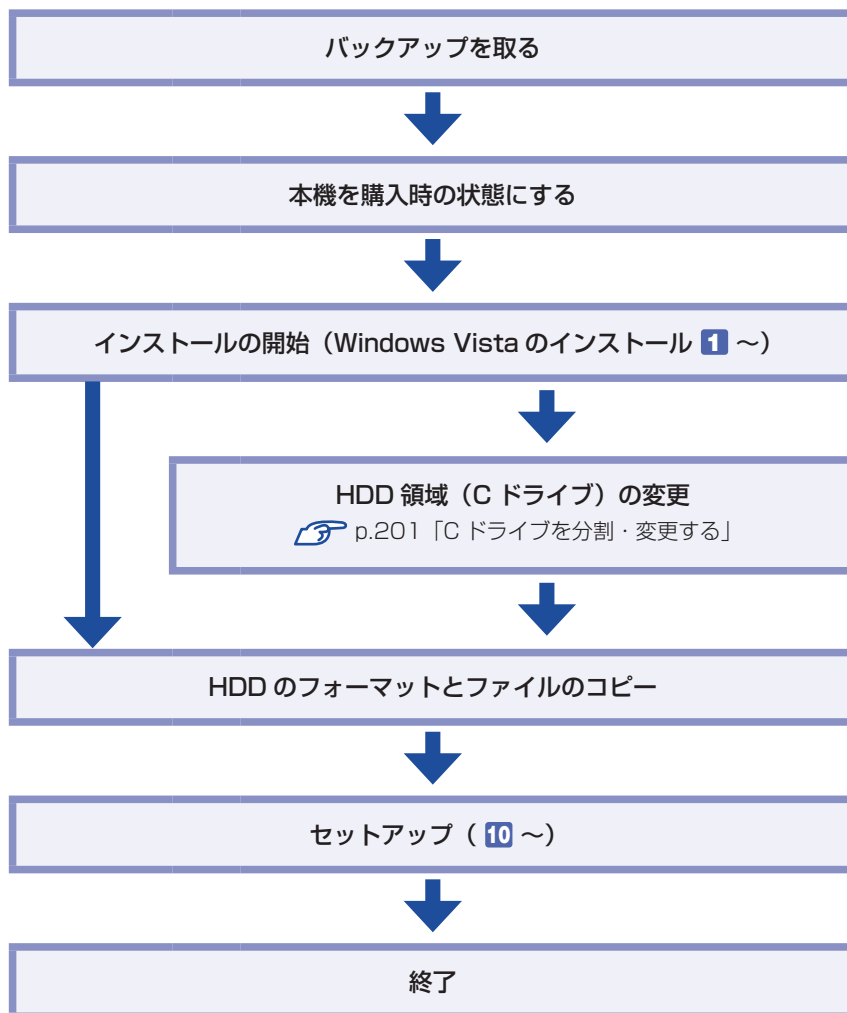
初期設定ツールは、Windows を再インストールすると消去されます。

初期設定ツールでインストールした「セキュリティーソフトウェア」などのソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。


Windowsのインストール

インストールの流れ

Windows のインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、 p.161 以降の手順に従って行ってください。




HDD 領域 (C ドライブ) を変更するには

Windows のインストール中に C ドライブ (Windows がインストールされている領域) のサイズを変更したり、分割したりすることができます。
HDD 領域の変更や、分割の詳細な説明は、 p.200 「HDD 領域 (ドライブ) の分割・変更・作成」をご覧ください。

バックアップを取る

Cドライブの設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。再インストールの前に、バックアップを行ってください。*


- PC お役立ちナビのデータ

 p.197 「PC お役立ちナビのデータをバックアップする」

- ネットワークの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。

- Internet Explorerの「お気に入り」、Windowsメールの「アドレス帳」やメールデータ

 p.198 「データのバックアップ方法」


このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- セキュリティーチップユーティリティの設定

セキュリティーチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。

 『別冊』『セキュリティー機能（TPM）設定ガイド』 - 「Windowsを再インストールする前に」

- その他の重要なデータ

 p.198 「データのバックアップ方法」


- * 再インストール中にHDD領域の変更を行うと、Cドライブ以外のドライブ（DやEなど）のデータも消えてしまいますので、バックアップを行ってください。
HDD領域の変更を行わない場合でも、念のためバックアップすることをおすすめします。

本機を購入時の状態にする

周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows Vistaのインストール

Windows Vistaのインストール方法は、次のとおりです。

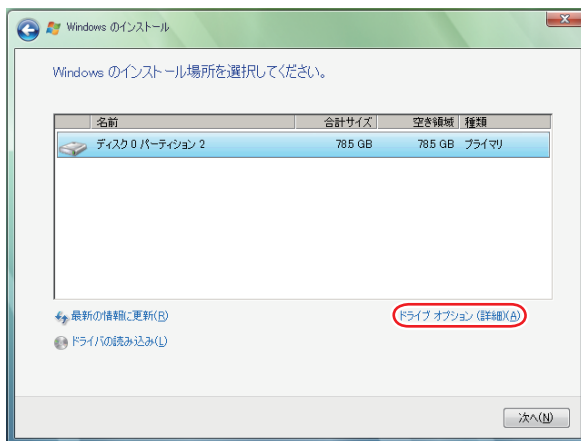
- 1** HDDを2台以上装着している場合（RAID構成時は除く）は、本機の電源を切り、2台目以降のHDDのケーブルをはずします。
 p.122 「HDDの装着」
- 2** 「Windows Vista リカバリ DVD」を光ディスクドライブにセットし、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。



- 4 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
ここでHDD内のWindowsのチェックが行われます。Windowsの修復を促す画面が表示された場合は、画面の指示に従って修復を行ってください。
- 5 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windowsの再インストール」をクリックします。
- 7 「Windowsの再インストールを行います。」と表示されたら、[再インストール] をクリックします。
- 8 「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「条項に同意します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。
- 9 「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

領域変更を行わない場合（通常）

- 1 「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。




- 2 「ディスク0パーティション2」(Cドライブ)が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。
Windows Vista Ultimateの場合は「ディスク0パーティション3」(Cドライブ)を選択します。
- 3 「このパーティションをフォーマットすると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
フォーマットが開始されます。


- 4 フォーマットが終了すると、[次へ] がクリックできる状態になります。
「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で [次へ] をクリックします。

Windows Vista Ultimate の場合は「ディスク 0 パーティション 3」(C ドライブ) が選択された状態で [次へ] をクリックします。

Windows Vista のインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは 20 分～40 分かかります。10 の画面が表示されるまでキーボードやマウスは操作しないでください。

領域変更を行う場合

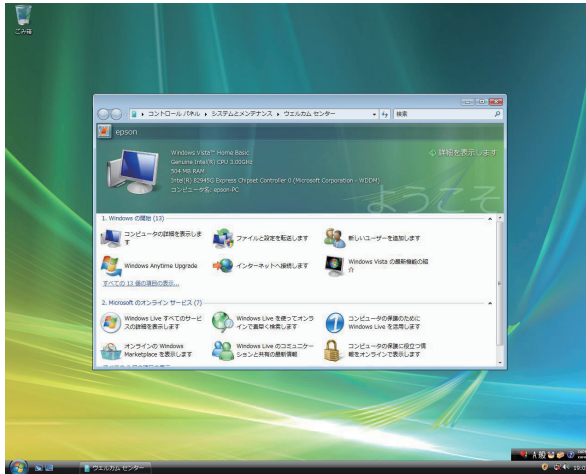
 p.203 「C ドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

- 10 「ユーザー名と画像の選択」と表示されたら、ユーザー名、パスワード(任意)を入力し、画像一覧からお好みの画像をクリックして選択し、[次へ] をクリックします。
- 11 「コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。」と表示されたら、コンピュータ名を入力し、背景一覧からお好みの背景をクリックして選択し、[次へ] をクリックします。
- 12 「Windows を自動的に保護するよう設定してください」と表示されたら、保護の設定をクリックして選択します。
「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。
- 13 「時刻と日付の設定の確認」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、[次へ] をクリックします。
- 14 ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。
- 15 「ありがとうございます」と表示されたら、[開始] をクリックします。
設定が行われます。設定には約 5 分かかります。
- 16 10 でパスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して、 を押します。



- 17** Windows Vista のデスクトップ（下記の画面）が表示されたら、「Windows Vista リカバリ DVD」を取り出します。


デスクトップの背景は、**11** で選択した背景が表示されます。



これで Windows Vista のインストールは完了です。

- 18** **9** で領域変更を行った場合は、「未割り当ての領域」に領域（パーティション）を作成します。

領域（パーティション）の作成は、ドライバーやソフトウェアのインストールが終了してから行ってかまいません。

 p.206 「HDD 領域（パーティション）の作成手順」


- 19** **1** で 2 台目以降の HDD のケーブルをはずした場合は、再度接続します。

 p.122 「HDD の装着」

本体ドライバーのインストール


本機のマザーボード上に搭載されているデバイスのドライバー類を、一括してインストールします。インストール手順は次のとおりです。

- 1** 「ドライバー CD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] をクリックします。
- 4** 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

- 5** 「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり [OK] をクリックします。
各ドライバーが自動的にインストールされます。インストールには約 10 分かかります。
- 6** 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
- 7** 「インストール処理」画面が表示されたら、インストールが正常に完了したかどうかを確認し、[PC 再起動] をクリックします。
RAID 構成時は、Windows が再起動したら本体ドライバーのインストールは完了です。次の手順は必要ありません。
- 8** Windows が再起動した後、「ウェルカムセンター」画面が表示されたら、 をクリックして画面を閉じます。
- 9** 「これらの変更を適用するには・・・」と表示されたら、[今すぐ再起動する] をクリックします。
Windows が再起動したら、本体ドライバーのインストールは完了です。

ビデオドライバーのインストール

ビデオボードのドライバーをインストールします。

 ビデオボードに添付のマニュアル

拡張ボードのドライバーのインストール

拡張ボード搭載時

拡張ボードをお使いの場合は、拡張ボードのドライバーをインストールします。
詳しくは、拡張ボードに添付のマニュアルをご覧ください。

Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF 形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Reader のインストール手順は、次のとおりです。

- 1** 「ドライバー CD」を光ディスクドライブにセットします。




- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] をクリックします。
- 4** 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「Adobe Reader」をクリックします。
- 5** 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6** 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール] をクリックします。
インストールにはしばらく時間がかかります。
- 7** 「セットアップ完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
続いて、Adobe Reader のセットアップを行います。

セットアップ

Adobe Reader のセットアップ手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「使用許諾契約書」が表示されたら、「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。
同意する場合は、[同意する] をクリックします。[同意しない] を選択すると、Adobe Reader は使用できません。
これで、Adobe Reader のセットアップは完了です。

セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90 日版」をインストールします。『セキュリティソフトウェアをご使用前に』をご覧ください。
市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

WinDVDのインストール

WinDVD 添付時

「WinDVD」は、DVD VIDEO を再生するためのソフトウェアです。
DVD-ROM ドライブ（再生ソフトなし）を選択された場合は、添付されていません。
WinDVD のインストール手順は次のとおりです。

- 1** 「WinDVD CD-ROM」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「SETUP.EXE の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「CD-ROM」アイコンをダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 4** 「InstallShield Wizard」画面が表示された場合は、WinDVD のインストールに必要なアプリケーションをインストールします。
- 5** 「WinDVD セットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

Nero 8 Essentialsのインストール

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

「Nero 8 Essentials」は、光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。
Nero 8 Essentials のインストール手順は次のとおりです。


- 1** 「Nero 8 Essentials CD-ROM」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Setupx.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「CD-ROM」アイコンをダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 4** 「Nero マルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 8 Essentials] をクリックします。
- 5** 「Nero 8 Essentials インストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

106 PS/2コンパクトキーボードユーティリティのインストール

106 PS/2 コンパクトキーボード使用時

「106 PS/2 コンパクトキーボードユーティリティ」は、106 PS/2 コンパクトキーボードのホットキーを使用するためのユーティリティです。

本機に添付の「106 PS/2 コンパクトキーボードユーティリティ CD」を光ディスクドライブにセットし、画面の指示に従ってインストールを行ってください。ホットキーの設定は、すべてのインストール作業が完了してから行います。

 p.39 「ホットキーを使用する」

Webフィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「i-フィルター 30日版」をインストールします。i-フィルター 30日版は、有害サイトをブロックするためのWebフィルタリングソフトウェアです。

市販のWebフィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

i-フィルター 30日版のインストール

i-フィルター 30日版のインストール手順は、次のとおりです。

- 1** 「ドライバー CD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] をクリックします。
- 4** 表示された項目から「i-フィルター 30日版」をクリックします。
- 5** 「i-フィルター … インストール」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6** 「使用許諾契約」と表示されたら、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して、[次へ] をクリックします。
- 7** 「セットアップタイプ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 8** 「インストール準備の完了」と表示されたら、[インストール] をクリックします。
デスクトップ上に「i-フィルター」アイコンが表示されたら、i-フィルター 30日版のインストールは完了です。続いて、ユーザー登録を行います。

i-フィルター 30 日版のユーザー登録

i-フィルター 30 日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。
ユーザー登録はインターネット接続後に行います。
ユーザー登録の手順は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。
Windows を再起動した場合は、「i-フィルター…」画面が自動的に表示されます。
- 2** 「i-フィルター …」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、「[i-フィルター] を使ってみる」をクリックします。
- 3** 「[i-フィルター] の開始」と表示されたら、次の作業を行います。

初回ユーザー登録時

- 1** [次へ] をクリックします。
- 2** 「無料お試し版 お申し込み」と表示されたら、「お申し込みの入力」で「E-Mail アドレス」、「お名前」、「管理パスワード」、「管理パスワード [確認入力]」を入力します。
「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。
- 3** 「情報メール配信設定」で情報メールの配信を希望するかしないかを選択します。
- 4** [同意して確認画面へ] をクリックします。
- 5** 「お申し込み内容の確認」と表示されたら、内容を確認し、[登録する] をクリックします。
- 6** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 7** 「お客様情報登録完了」と表示されたら、「登録内容」に記載されている「シリアル ID」と「利用期限」を確認しておきます。
同時に、登録した E-Mail アドレスにも「シリアル ID」と「利用期限」が記載された登録完了メールが配信されます。一度登録を行うと、同じ E-Mail アドレスでの再登録はできません。2 回目以降のユーザー登録は、登録完了メールに記載されている「シリアル ID」を使用して登録を行いますので、「シリアル ID」は必ず控えておいてください。
- 8** [完了] をクリックします。

2 回目以降のユーザー登録時

- 1** [シリアル ID を持っているお客さま] をクリックします。
- 2** 「シリアル ID のご確認」で、初回ユーザー登録時に配信された「シリアル ID」を入力します。
- 3** 「管理パスワードの設定」で「管理パスワード」と「管理パスワード [確認入力]」を入力します。
「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。
- 4** [次へ] をクリックします。



- 5 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 6 「シリアルIDを確認しました」と表示されたら、[完了] をクリックします。

これで、i-フィルター 30 日版のユーザー登録は完了です。

JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorer のアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。

JWord Plugin のインストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバー CD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] をクリックします。
- 4 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「JWord Plugin」をクリックします。
- 5 「JWord プラグイン…へようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

gooスティックのインストール

「goo スティック」は、Internet Explorer のツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。

goo スティックのインストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバー CD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] をクリックします。
- 4 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「goo スティック」をクリックします。
- 5 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これで、goo スティックのインストールは完了です。

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版」は、Web サイトの安全性を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐ Web セーフティーツールです。

インストール

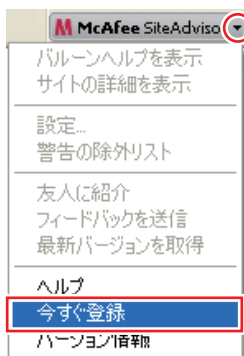
マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版のインストール手順は次のとおりです。

- 1** 「ドライバー CD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[許可] をクリックします。
- 4** 表示された項目から「マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版」をクリックします。
- 5** 「McAfee SecurityCenter」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
インストールが完了したら、続いて、ユーザー登録を行います。

ユーザー登録

マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。
ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

- 1** Internet Explorer を起動します。
- 2** Internet Explorer のツールバーに表示される [McAfee SiteAdvisor] の [▼] をクリックして、表示された一覧から「今すぐ登録」をクリックします。




- 3** 表示された画面に従ってユーザー登録を行います。
ユーザー登録が完了すると、マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版が使用可能になります。

そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

セキュリティーチップユーティリティのインストール

セキュリティーチップのセキュリティー機能（TPM）を使用していた場合は、ユーティリティをインストールします。詳しくは、『別冊』『セキュリティー機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

各種ドライバーのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバーやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用します。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。



参考

インストールが必要なドライバーの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバーやユーティリティが必要になります。

- USB 対応機器を使用する場合：USB 機器に添付のドライバー
- プリンターを使用する場合：プリンターに添付のドライバー

そのほかのソフトウェアのインストール


「Office」など、そのほかにも使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

領域の作成

Windows のインストール中に HDD 領域を変更した場合、「未割り当て領域」はそのままでは使用できません。Windows の「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。


 p.206 「HDD 領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークの設定

再インストールの前に書き写しておいた設定を元に、ネットワークの設定を行います。

バックアップしたデータの復元

再インストールの前にバックアップしたデータを復元します。

 p.198 「データのバックアップ方法」

- PC お役立ちナビのデータ
- Internet Explorer、Windows メールの設定
- 重要なデータ

バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

Windows Update

Windows の再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムが自動的にダウンロード、インストールされ、Windows が最新の状態になります。

 p.80 「Windows Update」



5

困ったときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら.....	176
起動・画面表示できないときは.....	177
トラブル時に効果的な対処方法.....	184

トラブルが発生したら

困ったとき、トラブルが発生したときは、次のように対処方法を探してください。

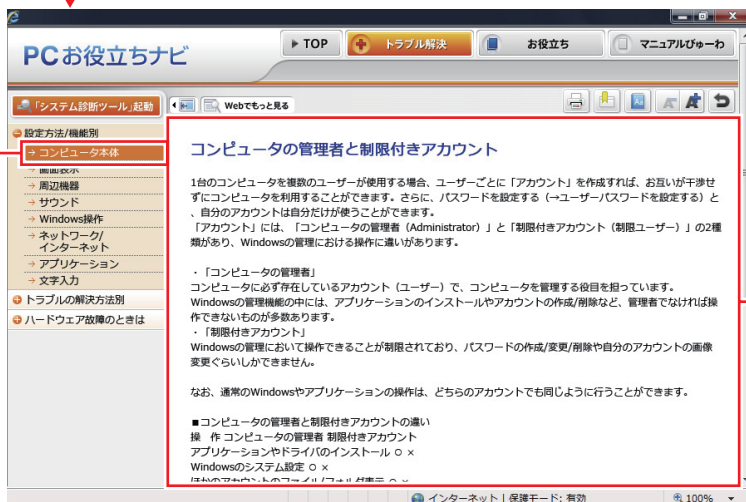
起動・画面表示できる場合…PCお役立ちナビで調べる

コンピューターを起動、画面表示できる場合は、「PC お役立ちナビ」の「トラブル解決」で対処方法を探してください。



<PC お役立ちナビアイコン>

ダブルクリック



トラブルの種類を選択します

候補の中から見たい項目を選択すると、内容が表示されます


起動・画面表示できない場合

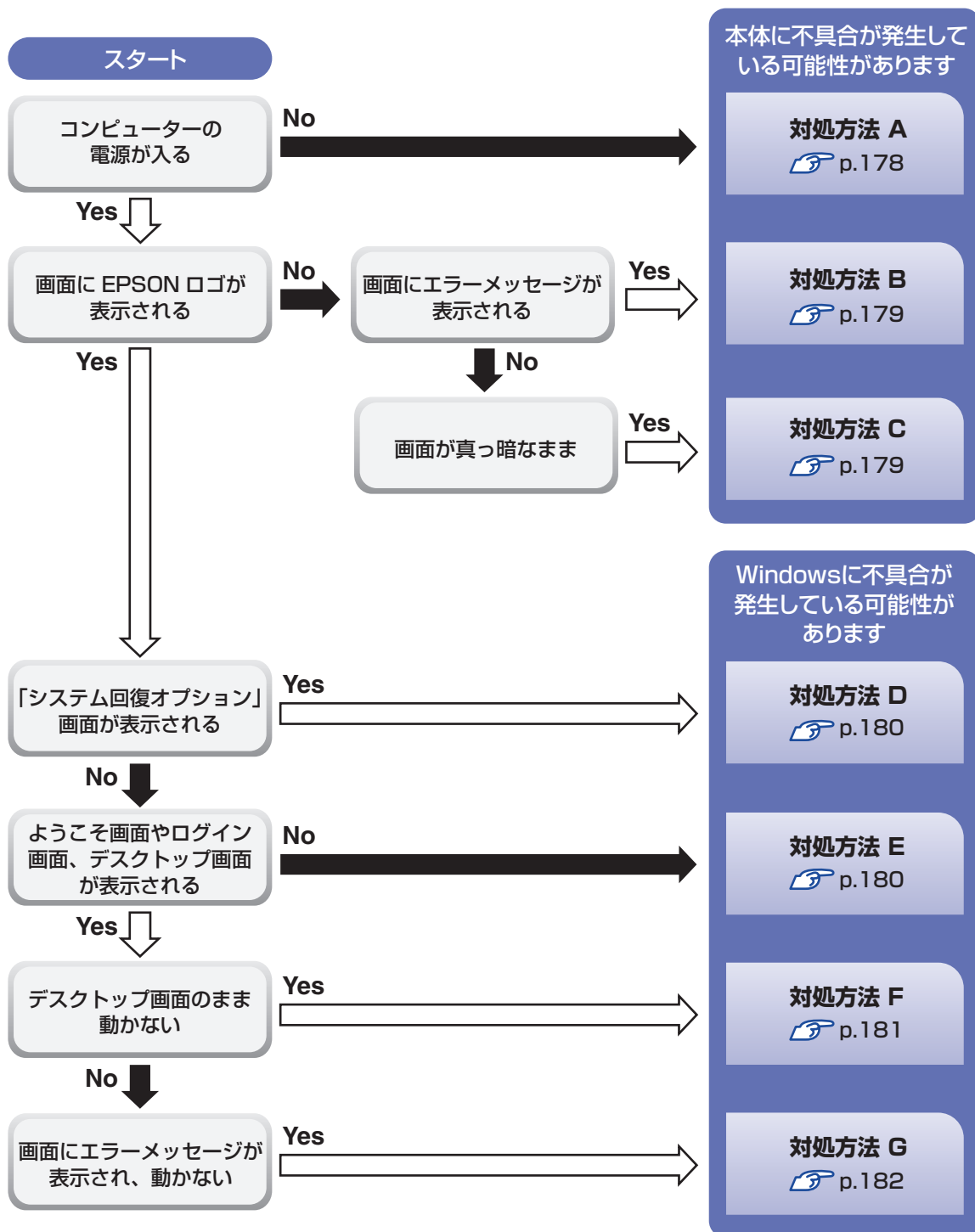
コンピューターを起動、画面表示できない場合は、 p.177 「起動・画面表示できないときは」をご覧ください。

起動・画面表示できないときは

コンピューターを起動、画面表示できない場合は、診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってください。

診断をする

次の診断を行ってください。対処方法が決まったら、 p.178「対処をする」へ進んでください。



対処をする


コンピューターを起動、画面表示できないときの対処方法は、次のとおりです。
対処を行っても不具合が解消しない場合は、[別冊](#)『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、サポート窓口までお問い合わせください。

対処方法 A

次の対処を順番に行ってみてください。

- 1 コンピューター本体の電源を入れなおす**
電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。
- 2 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす**
コンピューターへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 3 壁のコンセントに直接接続する**
電源タップなどにコンピューターの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピューターの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。
- 4 消費電力の大きい機器を停止する**
大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピューターの電源を入れてみてください。
- 5 周辺機器や増設した装置を取り外す**
本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 6 電源保護回路を解除する**
過電流によってコンピューターが不安定になっている可能性があります。周辺機器や増設機器類（キーボード、マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1 分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 7 CMOS RAM の初期化を行う**
CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。
[🔗](#) p.187 「CMOS RAM の初期化」

対処方法 B

まず、 p.183 「エラーメッセージ一覧」をご覧ください、エラーメッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、次の対処を順番に行ってみてください。

1 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

2 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.187 「CMOS RAM の初期化」

対処方法 C

次の対処を順番に行ってみてください。

1 ディスプレーの電源ランプを確認する

ディスプレイの取扱説明書をご覧ください、ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。

2 ディスプレーケーブルを接続しなおす

コンピューター本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決するかどうか確認してください。

3 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす

コンピューターへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

4 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

5 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピューターが不安定になっている可能性があります。周辺機器や増設機器類（キーボード、マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1 分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

6 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.187 「CMOS RAM の初期化」






対処方法 D

次の対処を行ってみてください。

- 1 Windows 回復環境 (Windows RE) で不具合対処をする**
 p.191 「システム回復オプション」画面が表示されたら」

対処方法 E

次の対処を順番に行ってみてください。

- 1 コンピューター本体の電源を入れなおす**
電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。
- 2 周辺機器や増設した装置を取り外す**
本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 3 セーフモードで起動し、システムの復元を行う**
必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。
 p.185 「セーフモードでの起動」
セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってください。
 p.186 「システムの復元」
- 4 前回正常起動時の構成で起動する**
セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。
 p.187 「前回正常起動時の構成で起動する」
- 5 BIOS の設定を初期値に戻す**
BIOS の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOS の設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前に BIOS の設定をメモしておいてください。
 p.136 「設定値を元に戻す」
- 6 CMOS RAM の初期化を行う**
CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。
 p.187 「CMOS RAM の初期化」

7 Windows RE を使う

「Windows 回復環境 (Windows RE)」の回復ツールを使用して、Windows を修復してみてください。

 p.190 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

8 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.156 「ソフトウェアの再インストール」

対処方法 F

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューター本体の電源を入れなおす


電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

3 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.185 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト (システム稼動中、常に稼動しているソフト) を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

 p.185 「常駐ソフトの停止」

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

 p.186 「システムの復元」

4 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

 p.187 「前回正常起動時の構成で起動する」

5 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.187 「CMOS RAM の初期化」



6 Windows RE を使う

「Windows 回復環境 (Windows RE)」の回復ツールを使用して、Windows を修復してみてください。

 p.190 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

7 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.156 「ソフトウェアの再インストール」

対処方法 G


次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューター本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.185 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト (システム稼動中、常に稼動しているソフト) を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

 p.185 「常駐ソフトの停止」

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

 p.186 「システムの復元」

3 Windows RE を使う

「Windows 回復環境 (Windows RE)」の回復ツールを使用して、Windows を修復してみてください。

 p.190 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

4 Windows を再インストールする


HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.156 「ソフトウェアの再インストール」

エラーメッセージ一覧


本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次のメッセージが表示された場合には、対処を行ってください。

対処を行ってもなおらない場合には、 別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	HDD が検出できません。コンピューターの電源を切り、Windows がインストールされている HDD にケーブルが接続されているか確認してください。
CPU Over temperature Error!	CPU が高温になっています。本機の電源を切り、本機内部が冷えるまで 10 分以上待ってから電源を入れてください。
CPU Fan Error!	CPU ファンが正常に動作していません。本機の電源を切り、20 秒以上待ってから電源を入れてください。また、CPU ファンのケーブルが CPU ファンコネクタに接続されているか確認してください。  p.212 「コンピューター内部のケーブル接続」
CPU Over Voltage Error!	CPU の電源電圧が異常です。本機の電源を切り、本機内部が冷えるまで 10 分以上待ってから電源を入れてください。

トラブル時に効果的な対処方法

トラブル時に効果的な対処方法を紹介します。

機能	こんなときに
セーフモードで起動  p.185 必要最低限の状態ですべて Windows を起動します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
常駐ソフトの停止  p.185 不具合のある常駐ソフトを停止します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
システムの復元  p.186 Windows を以前に作成した復元ポイントの状態に戻します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
前回正常起動時の構成で起動  p.187 Windows を前回正常起動できた状態に戻します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードでも起動できないとき）
BIOS の初期化  p.136 BIOS の設定を初期値に戻します。	・ BIOS の設定を誤って本機が起動しなくなったとき、動作が不安定になったとき
CMOS RAM の初期化  p.187	・ BIOS の設定を誤って本機が起動しなくなったとき ・ BIOS のパスワードを忘れてしまったとき
Windows 回復環境 (Windows RE)  p.190 Windows を修復します。	・ 「システム回復オプション」画面が表示されたとき ・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
ソフトウェアの再インストール  p.156 本機を購入時の状態に戻します。	・ Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（上記項目の対処をしても起動できないとき） ・ HDD の領域を分割したいとき
システム診断ツール  p.192 ハードウェアの不具合があるかどうかを診断します。	・ 不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを調べたいとき

セーフモードでの起動

本機を正常に起動できない場合は、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1** コンピューターの電源を切り、20 秒程放置してから電源を入れます。
- 2** EPSON と表示され、消えた直後に **[F8]** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
- 3** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**[↑]** または **[↓]** を押して「セーフモード」を選択し、**[↵]** を押します。
セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

常駐ソフトの停止

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼働中、常に稼働しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。
常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

- 1** [スタート] - [検索ボックス] に「msconfig」と入力して、**[↵]** を押します。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。
- 3** 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
- 4** 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

システムの復元

コンピューターの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行って Windows を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDD のデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

- 1** 「スタート」 – 「すべてのプログラム」 – 「アクセサリ」 – 「システムツール」 – 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。
- 3** 「システムの復元」画面が表示されたら、「推奨される復元」を選択し、[次へ] をクリックします。
復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択して [次へ] をクリックし、ポイントを選択して [次へ] をクリックします。
- 4** 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了] をクリックします。
- 5** 「システムの復元を開始すると…」と表示されたら、[はい] をクリックします。
コンピューターが再起動します。
- 6** 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は、次のとおりです。

- 1** 「スタート」 – 「すべてのプログラム」 – 「アクセサリ」 – 「システムツール」 – 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。
- 3** 「システムの復元」画面が表示されたら、「システムの保護」をクリックします。
- 4** 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、復元ポイントを作るドライブ（ローカルディスク）にチェックを付けて [作成] をクリックします。

- 5 「復元ポイントの作成」と表示されたら、説明を入力し、[作成] をクリックします。
- 6 「復元ポイントは正常に作成されました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
以上で復元ポイントの作成は完了です。

前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

- 1 シャットダウン状態からコンピューターの電源を入れます。
- 2 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F8** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
- 3 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して、「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択し、**↵** を押します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。BIOS Setup ユーティリティで設定したパスワードを忘れていたり、BIOSの設定を誤ったりして本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



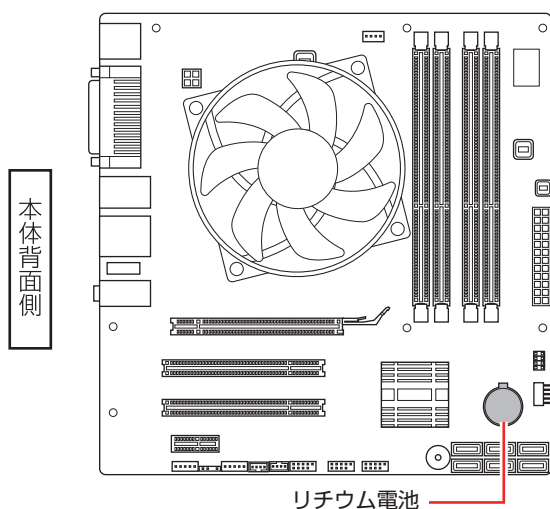
- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

制限

- CMOS RAM を初期化すると、現在の BIOS の設定情報は BIOS の初期値に戻ります。CMOS RAM を初期化する前に、BIOS の設定値を記録しておくことをおすすめします。
👉 p.152 「BIOS の設定値」
ユーザーの設定値は、保存しておくこともできます。
👉 p.137 「ユーザーの設定値を保存する」
- BIOS で管理者パスワードを設定し、HDD のアクセスを制限していた場合、CMOS RAM の初期化を行っても、HDD へのアクセス制限を解除することはできません。HDD へのアクセス制限を設定した HDD は、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。
👉 p.140 「HDD アクセス制限」

CMOS RAM の初期化の手順は、次のとおりです。

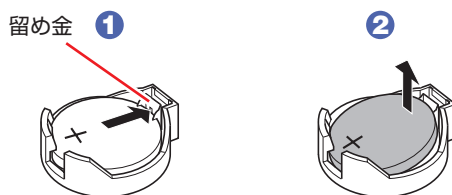
- 1** コンピューター本体および接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** コンピューター本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
👉 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り外し」
- 4** リチウム電池の位置を確認します。
リチウム電池は、マザーボード上の次の位置にあります。



- 5** 拡張の妨げになる拡張ボードがあれば、取り外します。
👉 p.111 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

6 リチウム電池を取り外します。

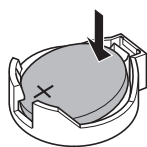
- 1 電池ホルダーの留め金を押します。
- 2 リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。




7 約 1 分間放置します。

8 リチウム電池を取り付けます。


刻印面 (+ 側) が表側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。取り付けると「カチッ」と音が鳴ります。



9 5 で拡張ボードを取り外した場合は、元どおりに取り付けます。

 p.111 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

10 本体カバーを取り付けます。

 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」

11 コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

12 コンピューターの電源を入れます。

13 「EPSON」と表示後、「CMOS Settings Wrong」と表示されたら、**[F1]** を押して、BIOS Setup ユーティリティを起動します。

 p.131 「BIOS Setup ユーティリティの起動」

14 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。

 p.136 「Load Setup Defaults（BIOSの初期値に戻す）」

15 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。

ユーザー設定初期値に戻す場合は、「Load Setup User Define」を実行します。

 p.138 「Load Setup User Define（ユーザーの初期設定値に戻す）」

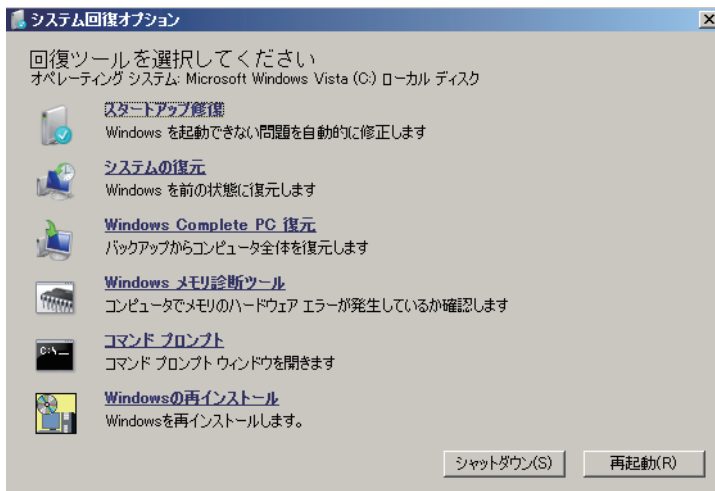


Windows回復環境(Windows RE)を使う

本機のHDD内と「Windows Vista リカバリ DVD」には、「Windows 回復環境 (Windows RE)」が設定されています。Windows RE を使用すると、不具合に対する対処を行うことができます。

Windows RE の項目

Windows RE には、次の項目があります。



<イメージ>

- **スタートアップ修復**

Windows を起動できない問題を自動的に修正します。Windows が起動できないときは、まずスタートアップ修復を行ってみてください。

- **システムの復元**

コンピューターの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。

- **Windows Complete PC 復元**

バックアップしてあったデータを使用してコンピューター全体を復元します。

※ Windows Vista Home Basic、Home Premium にはこの項目はありません。

- **Windows メモリ診断ツール**

メモリーにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。

- **コマンドプロンプト**

コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら

Windows に不具合が起きると、HDD 内の Windows RE が自動的に起動し、「システム回復オプション」画面が表示されます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら、次の手順で Windows RE の項目を表示させ、対処を行います。


- 1 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 2 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には「パスワード」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。
- 3 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

 p.190 「Windows RE の項目」

HDD 内の Windows RE を手動で起動する

HDD 内の Windows RE は、手動で起動することもできます。

手動で起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピューターの電源を切り、20 秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F8** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
- 3 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピューターの修復」を選択し、 を押します。
- 4 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には、「パスワード」にパスワードを入力して、[OK] をクリックします。
- 6 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

 p.190 「Windows RE の項目」

DVD の Windows RE を使用する

Windows RE は本機に添付の「Windows Vista リカバリ DVD」にも収録されています。HDD内に設定されているWindows REを誤って消去してしまった場合などに使用してください。DVDに収録されているWindows REの起動方法は、次のとおりです。

- 1** 「Windows Vista リカバリ DVD」を光ディスクドライブにセットして、コンピューターを再起動します。
- 2** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
- 3** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4** 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

 p.190 「Windows RE の項目」

システム診断ツールを使う

システム診断ツールを使うと、ハードウェアに不具合が発生しているかどうかを診断することができます。

システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2種類があります。

- PC お役立ちナビから起動するシステム診断ツール
PC お役立ちナビからシステム診断を行うことができます。Windows を起動できる場合に使用します。
- CD から起動するシステム診断ツール
Windows が起動できない場合に、「ドライバー CD」からツールを起動してシステム診断を行います。

システム診断を実行する

Windows を起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。


Windows を起動できる場合

PC お役立ちナビからシステム診断を行います。
実行方法は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「PC お役立ちナビ」アイコンをダブルクリックします。




< PC お役立ちナビアイコン >

- 2 PC お役立ちナビが起動したら、[トラブル解決] - [システム診断ツール起動] をクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 4 システム診断ツールが起動したら、診断したい項目をクリックします。
該当項目の診断が開始されます。
- 5 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「Passed」と表示された場合、ハードウェアは正常に動作しています。
「Failed」と表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。
 別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

Windows を起動できない場合

「ドライバー CD」からシステム診断ツールを起動します。
実行方法は、次のとおりです。

- 1 ドライバー CD を光ディスクドライブにセットして、コンピューターを再起動します。
- 2 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 3 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。 別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。
- 4 光ディスクドライブからドライバー CD を取り出し、電源を切ります。
これでシステム診断は完了です。





付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

お手入れ.....	196
データのバックアップ.....	197
セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化...	199
HDD 領域 (ドライブ) の分割・変更・作成.....	200
リチウム電池の交換.....	209
コンピューター内部のケーブル接続.....	212
コンピューターを廃棄するときは.....	213
機能仕様一覧.....	215

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装の汚れ

コンピューター本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。


通風孔メッシュ

コンピューター本体左側面の通風孔（吸気用）にあるメッシュにホコリなどがたまると、空気の通りが悪くなります。

通風孔メッシュのホコリは、定期的に乾いた柔らかい布で取り除いてください。

コンピューター本体内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアースプレーで吹き飛ばしてください。

 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」



- 作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや化学ぞうきんなどは、使わないでください。
水分や化学物質により故障の原因となります。

データのバックアップ

Windows を再インストールすると、Windows がインストールされるドライブ(通常 C ドライブ)に保存しているデータはすべて消去されます。Windows を再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

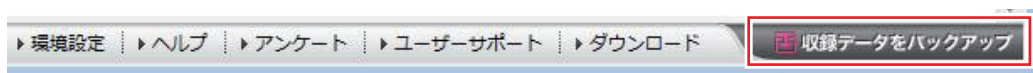
PC お役立ちナビのデータをバックアップする

PC お役立ちナビに収録されている、コンテンツ類やマニュアルデータ (PDF) は、Windows を再インストール (リカバリー) すると、消えてしまいます。

Windows の再インストールをする際は、事前にバックアップを行ってください。

バックアップ方法

光ディスクメディアや USB 記憶装置をセットしてから、PC お役立ちナビ画面右下の [収録データをバックアップ] をクリックし、画面の指示に従ってバックアップを行ってください。



復元方法

バックアップしたデータの入った光ディスクメディアや USB 記憶装置をセットしてから、PC お役立ちナビ画面右下の [バックアップ情報を復元] をクリックし、画面の指示に従って復元を行ってください。



コンテンツやマニュアルデータをダウンロードする

データのバックアップを取らずに再インストールをしてしまった場合は、Web のユーザーサポートページから、コンテンツ類やマニュアルデータ (PDF) をダウンロードします。



制限

ダウンロードしたマニュアル類 (ユーザーズマニュアル以外) は、PC お役立ちナビには復元できません。マニュアルごとにファイル (PDF) を開いてご覧ください。

ダウンロード

PC お役立ちナビで、コンテンツやマニュアルを表示する際、画面に「コンテンツデータが存在しません」と表示されたら、メッセージ内のリンクからユーザーサポートページにアクセスし、コンテンツ類やマニュアルデータ (PDF) をダウンロードします。

復元

ダウンロードしたファイル内に記載されている復元方法に従って、データを復元します。

検索情報の再構築

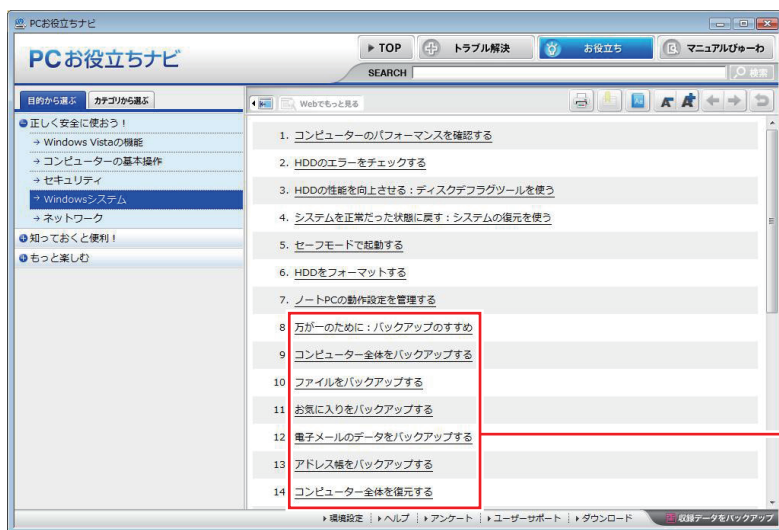
マニュアルとコンテンツ類を復元したら、検索情報の再構築を行います。画面下 [環境設定] 内の [検索情報の再構築] をクリックしてください。

データのバックアップ方法

作成したファイルや Internet Explorer の「お気に入り」など、HDD 内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、次の場所をご覧ください。



「PCお役立ちナビ」 - 「お役立ち」 - 「正しく安全に使おう！」 - 「Windows システム」



見たい情報を
クリック

< 画面は予告なく変更される場合があります >

セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティーチップ (TPM) を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。TPMのセキュリティー機能の使用方法は、[別冊](#)『セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド』をご覧ください。



TPM のセキュリティー機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPM のセキュリティー機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPMのセキュリティー機能使用前の準備

TPM のセキュリティー機能を使用するには、BIOS の設定と「セキュリティーチップユーティリティ」のインストールが必要です。

●BIOS の設定

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定値を次のように変更します。

「Security」メニュー画面－「TPM Function」：Enabled（有効）

購入時は、「Disabled」に設定されています。

 p.132 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.150 「Security メニュー画面」

●セキュリティーチップユーティリティのインストール

購入時、本機に「セキュリティーチップユーティリティ」はインストールされていません。TPM のセキュリティー機能を使用するには、セキュリティーチップユーティリティのインストールを行う必要があります。

インストール方法は、[別冊](#)『セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド』をご覧ください。

HDD 領域 (ドライブ) の分割・変更・作成

ここでは、HDD 領域 (ドライブ) を分割・変更して使用方法について説明します。

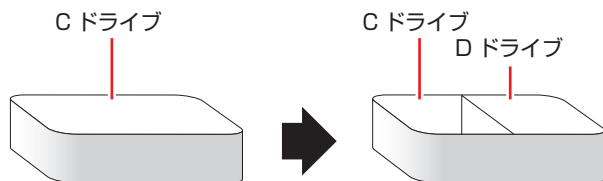
HDD領域を分割して使用する(概要)

HDD 領域 (ドライブ) の分割

HDD 領域は、いくつかに分けて、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。分割したひとつひとつの領域を「HDD 領域」または「パーティション」と言います。また、Windows で使える HDD 領域が、「ドライブ」になります。

1 台の HDD を分割する

例：1 つの HDD 領域 (C ドライブ) を、2 つの HDD 領域 (C ドライブと D ドライブ) に分割します。

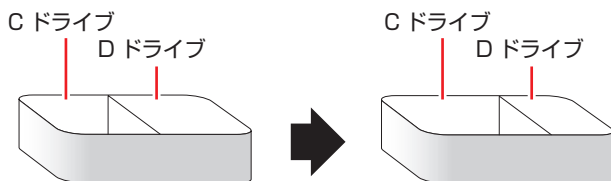


HDD 領域 (ドライブ) のサイズの変更

すでに分割されている HDD 領域のサイズ (容量) は変更することができます。

ドライブのサイズを変更する

例：C ドライブのサイズを大きくします。



サイズを変更する場合は、C ドライブと D ドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

Cドライブを分割・変更する

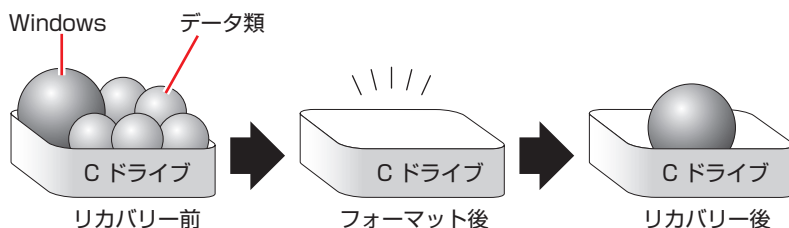
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

●メリット

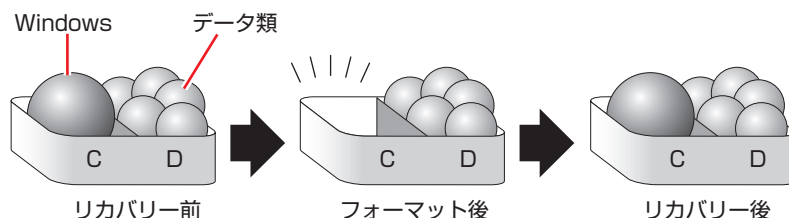
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリー（Windowsの再インストール）時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

HDD領域が1つの場合



リカバリー（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

HDD領域を分割した場合



たとえば、WindowsやソフトウェアはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリー（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリー後、すぐにそのまま使用することができます。



制限

HDDが分割されている状態でリカバリーを行うときは、万一に備えてCドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

●デメリット

- Cドライブ（Windowsが入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリー（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

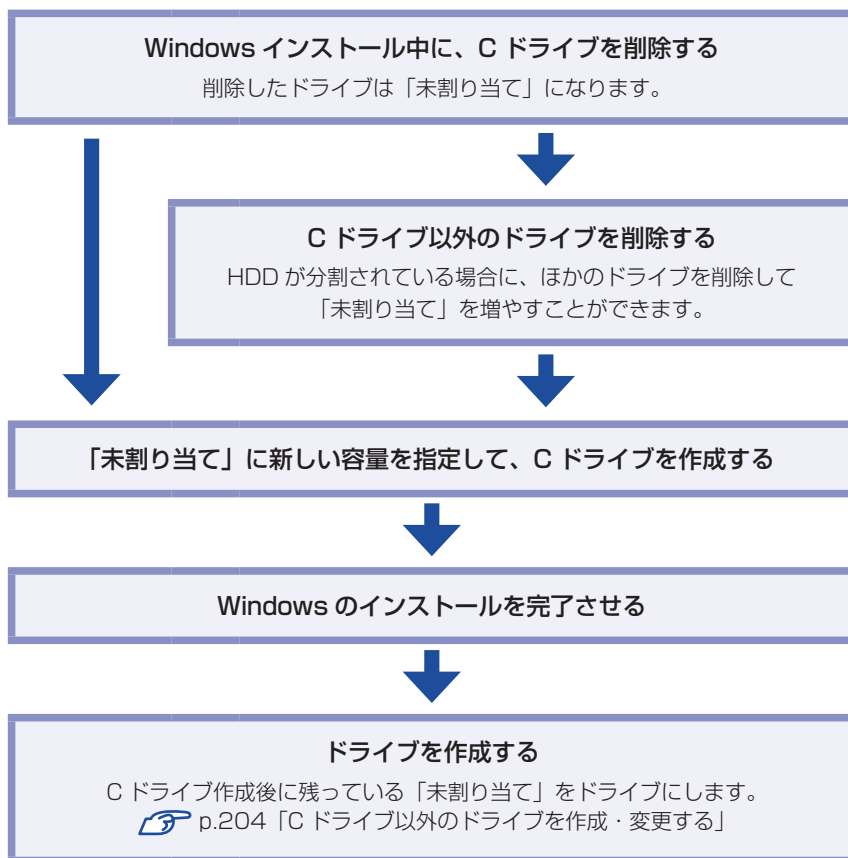
Cドライブの分割・変更は、リカバリー（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。Cドライブ以外のドライブの変更方法は、[👉 p.204 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」](#)をご覧ください。



ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。

[👉 p.197 「データのバックアップ」](#)

Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。
作業は [👉 p.201 「Cドライブを分割・変更する」](#) の手順に従ってください。

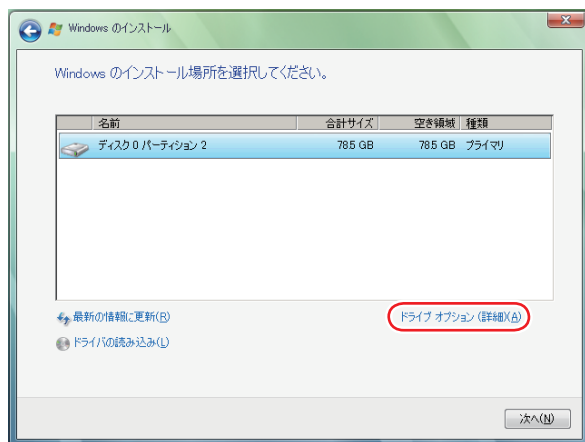


C ドライブを分割・変更する

C ドライブの分割・変更をする場合は、Windows の再インストールが必要です。🔗 p.161 「Windows Vista のインストール」の 9 を次の手順に読み替えて、Windows のインストールを行ってください。

🔗 p.161 「Windows Vista のインストール」の 9 の読み替え

1 「ドライブオプション (詳細)」をクリックします。



2 「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で「削除」をクリックします。

Windows Vista Ultimate の場合は「ディスク 0 パーティション 3」(C ドライブ) を選択します。

3 「このパーティションを削除すると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。削除したパーティション (C ドライブ) が「未割り当て領域」となります。

4 次のとおり作業を続けます。

C ドライブを分割する場合

1 「ディスク 0 未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。

5 に進みます。



Cドライブの容量を増やす場合

すでにHDDが分割されている場合は、Cドライブ以外のドライブを削除して未割り当ての領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

- 1 そのほかのパーティションもCドライブと同様に削除し、「ディスク0未割り当て領域」を増やします。

Windows Vista Ultimateの場合は「ディスク0パーティション2」(BitLocker)を削除しないでください。

- 2 「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。

5に進みます。

- 5 Cドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。

Cドライブには、40GB(40000MB)程度を割り当てることをおすすめします。

- 6 「ディスク0パーティション2」(Cドライブ)が選択された状態で、「次へ」をクリックします。

Windows Vista Ultimateの場合は「ディスク0パーティション3」(Cドライブ)を選択します。

Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分~40分かかります。


続いて  p.161 「Windows Vistaのインストール」 **10**に進みます。

10の画面が表示されるまで、キーボードやマウスは操作しないでください。

Cドライブ以外のドライブを作成・変更する


ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。次のような場合にご覧ください。

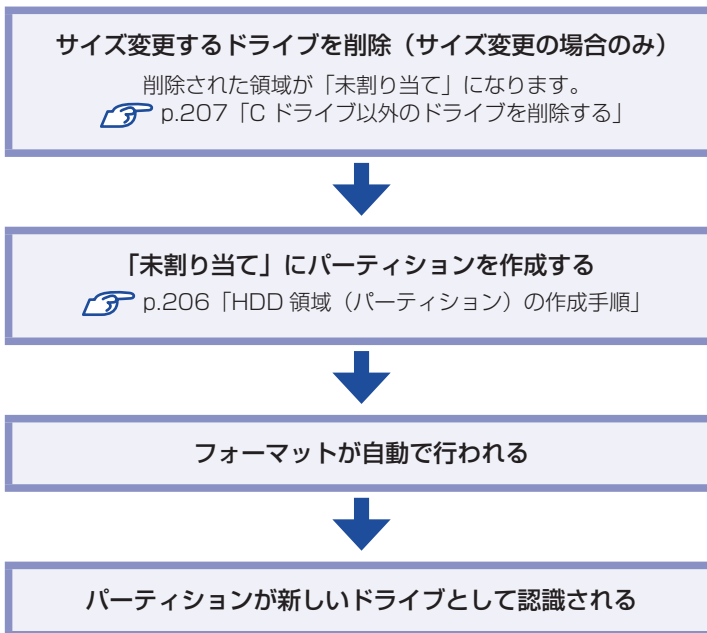
- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合
- HDDを増設・交換した場合

Cドライブ(Windowsの入っているドライブ)の分割・変更を行う場合は、 p.201 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは次のとおりです。

作業は  p.206 「HDD 領域（パーティション）の作成手順」に従ってください。



※HDD 内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows 上でドライブ（D や E など）として利用できるようになります。



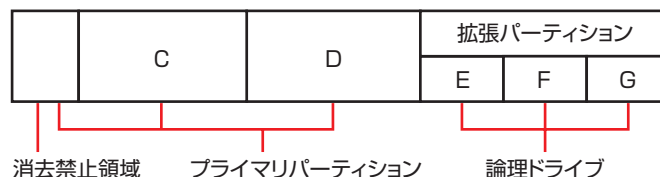
参考

パーティションとは

ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD 領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1 つの HDD に作成できるパーティションは最大で 4 つです。消去禁止領域や BitLocker 領域もパーティションの 1 つです。
- パーティションを作成すると、自動的に 3 つ目まではプライマリパーティションとなり、4 つ目は拡張パーティションとなります。
- Windows Vista Ultimate の場合は、D ドライブに BitLocker 領域が設定されているため、新たに作成できるのは拡張パーティションのみです。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

<パーティションの組み合わせの例>

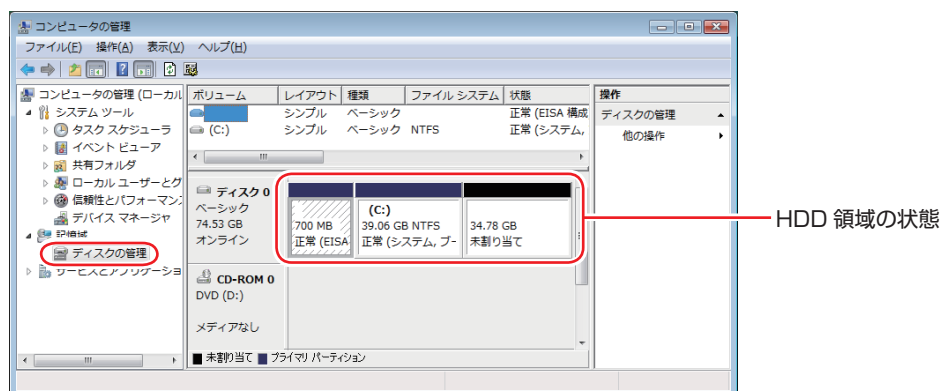


HDD 領域 (パーティション) の作成手順

HDD 領域 (パーティション) を作成する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」 をダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」 画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「コンピュータの管理」 画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」 をクリックします。

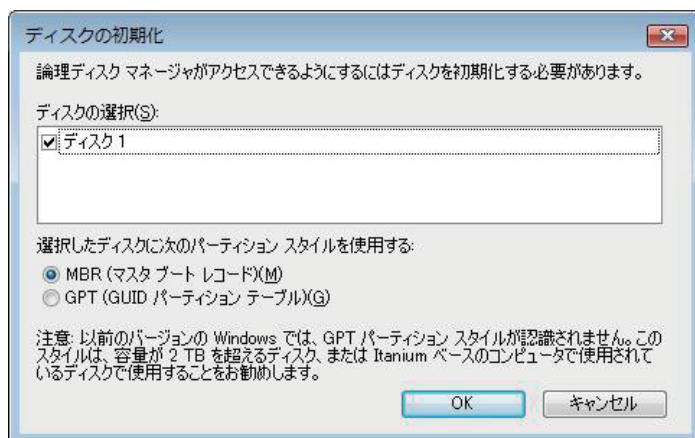
HDD 領域の状態が表示されます。



<イメージ>

新しいHDDを増設した場合

「ディスクの初期化」画面が表示されます。[OK] をクリックして、ディスクの初期化を行ってください。



- 4 パーティションを作成したい「未割り当て」または「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。

- 5 「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 7 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 8 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 9 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。
フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD 領域（パーティション）の作成は完了です。

Cドライブ以外のドライブを削除する

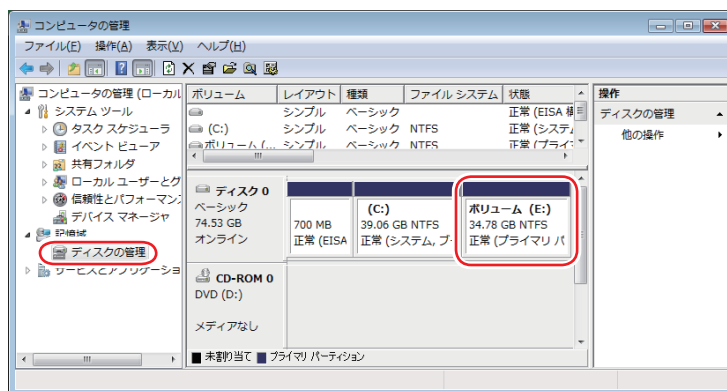
C ドライブ以外のドライブ（D ドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除して、新しいサイズでドライブを作成しなおします。

ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、C ドライブや CD-R メディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。

ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」 をダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。

HDD 領域の状態が表示されます。




<イメージ>



4 削除したいドライブ (パーティション) の領域を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。

5 「・・・続行しますか？」と表示されたら【はい】をクリックします。

パーティションを削除すると、「未割り当て」または「空き領域」になります。「未割り当て」または「空き領域」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

 p.206 「HDD 領域 (パーティション) の作成手順」

リチウム電池の交換

「BIOS Setup ユーティリティ」で設定した情報は、マザーボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

●CR2032（または同等品）

リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況により異なりますが、寿命は約3年です。日時や時間がおかしくなったり、BIOSで設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。





- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- リチウム電池の交換を行うと、現在のBIOSの設定情報はBIOSの初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.152 「BIOSの設定値」
ユーザーの設定値は、保存しておくこともできます。
 p.137 「ユーザーの設定値を保存する」

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

1

コンピューター本体および接続している周辺機器の電源を切ります。

作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。

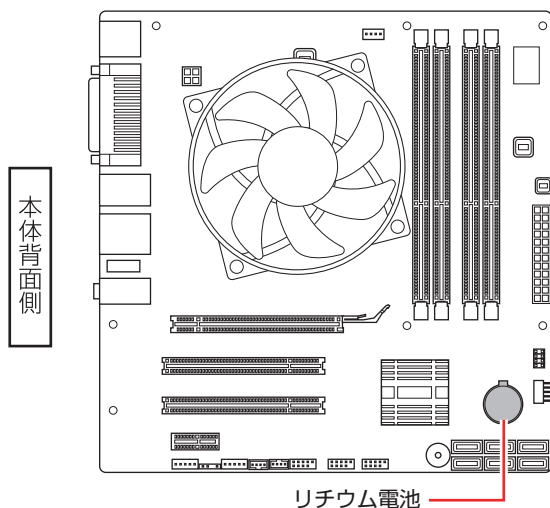
2

コンピューター本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。



3 本体カバーを取り外します。
🔧 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」

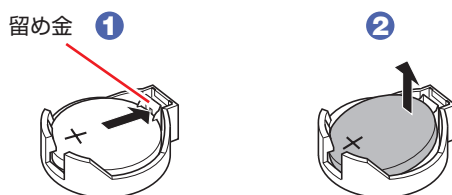
4 リチウム電池の位置を確認します。
リチウム電池は、マザーボード上の次の位置にあります。



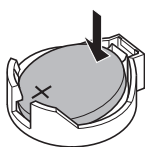
5 作業の妨げになる拡張ボードがあれば、取り外します。
🔧 p.111 「拡張ボードの取り付け・取り外し」









6 リチウム電池を抜きます。

- 1 電池ホルダーの留め金を押します。
- 2 リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。



7 新しいリチウム電池を取り付けます。
刻印面(+側)が表側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。取り付けると「カチッ」と音が鳴ります。



- 8** **5** で拡張ボードを取り外した場合は、元どおりに取り付けます。
 p.111 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 9** 本体カバーを取り付けます。
 p.98 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 10** コンピューターを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
- 11** コンピューターの電源を入れます。
- 12** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS Settings Wrong」と表示されたら、
 を押して、BIOS Setup ユーティリティを起動します。
 p.131 「BIOS Setup ユーティリティの起動」
- 13** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.136 「Load Setup Defaults（BIOSの初期値に戻す）」
- 14** 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
ユーザー設定初期値に戻す場合は、「Load Setup User Define」を実行します。
 p.138 「Load Setup User Define（ユーザーの初期設定値に戻す）」
- 15**  を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。
 p.135「BIOS Setupユーティリティの終了」

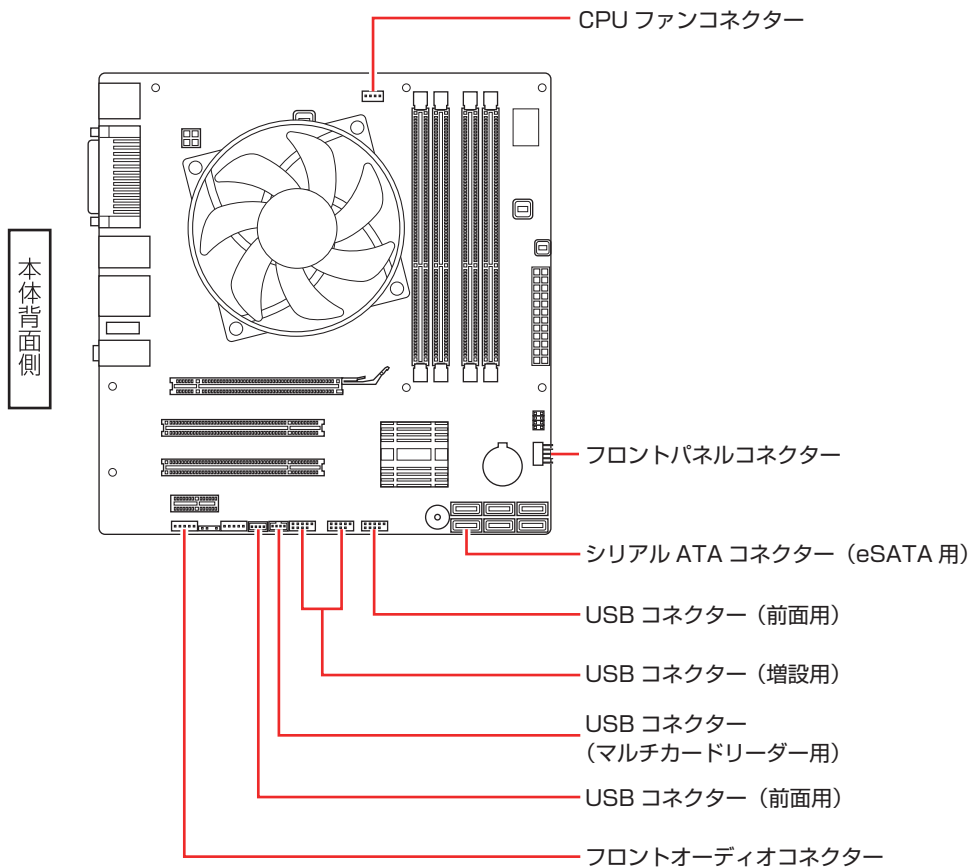
コンピューター内部のケーブル接続

本機の内部には何本かのケーブルがあり、マザーボードに接続されています。通常、これらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って外してしまった場合には、次の図を参照して、正しく接続してください。



各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

コネクタ位置 (マザーボード上)



コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄するときは [別冊](#) 『サポート・サービスのご案内』の「コンピューターの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前に HDD のデータを消去してください。

ドライバー CD に収録されている「システム診断ツール」では、HDD 内のデータをすべて消去することができます。

消去を開始すると、HDD のデータはもとはには戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。



データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

消去されるデータ

複数の HDD を接続している場合






この機能で消去できるデータは、シリアル ATA コネクタ 0 に接続されている HDD のデータのみです。複数の HDD を接続している場合、2 台目以降の HDD のデータを削除したいときは、HDD をシリアル ATA コネクタ 0 に接続してからデータの消去を行ってください。

RAID 機能を使用している場合





RAID を構成しているすべての HDD のデータが消去されます。

データの消去

HDD 内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、ドライバー CD を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▶] - [再起動] をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。



- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して  を押します。
- 7** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して  を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。消去を中止する場合は、 を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。
- 8** キーボードで「Yes」と入力します。
消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分）。
- 9** 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、ドライバーCDを光ディスクドライブから取り出して、コンピューターの電源を切ります。
これでデータの消去は完了です。

機能仕様一覧

型番		MR6500	MR6500E
CPU	プロセッサ	インテル Core i7 プロセッサまたはインテル Core i5 プロセッサ (種類は購入時の選択による)	
	ソケット	LGA1156 Socket	
チップセット		インテル P55 Express	
BIOS		AMI BIOS	
メイン メモリー	メモリー	PC3-10600 (DDR3-1333 SDRAM) を使用して 最大 4GB まで搭載可能 (システム上利用できるのは約 3GB まで)	
	スロット	DIMM スロット (240 ピン) × 4 (同容量 2 枚 1 組で使用の場合、デュアルチャネルで動作)	
ビデオ機能	コントローラー/ メモリー/表示解像度	選択したビデオボードによる	
HDD		シリアル ATA300MB/s 対応 3.5 型 HDD (容量、台数は購入時の選択による)	
光ディスクドライブ		シリアル ATA 対応 5.25 型光ディスクドライブ(種類は購入時の選択による)	
IEEE1394 機能		400Mbps (1394a) 対応	
サウンド機能		インテル ハイ・デフィニション・オーディオ対応 Realtek 製 ALC662 コントローラー	
ネットワーク機能		1000Base-T/100Base-TX/10Base-T 対応 インテル製 82578DC コントローラー	
マウス/キーボード		購入時の選択による	
インタ フェース	USB	9 (前面×3、背面×6) : USB2.0	
	IEEE1394	1 : 6 ピン	
	LAN	1 : RJ-45	
	サウンド	前面 : ヘッドフォン出力×1、マイク入力×1 背面 : ライン入力×1、ライン出力×1、マイク入力×1	
	ディスプレイ	選択したビデオボードによる	
	キーボード	1 : PS/2 互換 ミニ DIN 6 ピン	
	マウス	1 : PS/2 互換 ミニ DIN 6 ピン	
	パラレル	1 : セントロニクス社準拠 D-SUB25 ピン マルチモード双方向 ECP/EPP サポート	
ドライブベイ	5.25 型ドライブベイ	2	
	3.5 型 HDD ベイ	3	
拡張スロット	PCI Express x16	1 : ボード長 312mm (フルサイズ) まで搭載可能	
	PCI Express x4	1 : ボード長 312mm (フルサイズ) まで搭載可能	
	PCI 2.2	2 : ボード長 312mm (フルサイズ) まで搭載可能	
マルチカードリーダー ^{*1}		コンパクトフラッシュ、SD メモリーカード (SDHC 対応)、マルチメディア カード、メモリースティック、スマートメディアに対応	
セキュリティーチップ (TPM)		TPM1.2 対応 Infineon SLB9635TT1.2 コントローラー	
外形寸法 (幅×奥行×高さ)		179 × 396 × 368mm (突起部を除く)	
質量		約 10.4kg (基本構成時)	
電源		AC100V ± 10% (50/60Hz) 容量 : 350W	
消費電力 ^{*2}		427W (最大) / 48.6W (通常時) / 1.9W (スリープ時) / 0.7W (電源 OFF 時)	
動作環境		動作温度 : 10 ~ 35℃、動作湿度 : 20 ~ 80% (ただし、結露しないこと)	

^{*1} メモリースティック PRO には対応していません。

^{*2} 代表的な部品構成での測定値です。値は利用状況 / 部品構成により変化します。

索引

数字

106 PS/2 コンパクトキーボード.....	36
106 PS/2 コンパクトキーボードユーティリティ.....	25
5.25 型ドライブ	
取り付け・取り外し.....	118
取り付け・取り外し後の作業.....	121
5.25 型ドライブベイ.....	96

A

Administrator.....	159
Adobe Reader.....	25
インストール.....	165
セットアップ.....	166

B

BIOS.....	129
BIOS Setup ユーティリティ.....	131
起動.....	131
起動 (Boot) デバイスの順番を変更する.....	141
終了.....	135
設定項目.....	144
設定値.....	152
設定値を元に戻す.....	136
操作.....	132
パスワードの設定.....	138
ユーザーの設定値を保存する.....	137
BitLocker.....	43, 45
Boot メニュー画面.....	149

C

Caps Lock.....	38
CD メディア	
読み込み・再生.....	57
CMOS RAM の初期化.....	187
C ドライブ.....	159
分割・変更する.....	201
C ドライブ以外のドライブ	
削除.....	207
作成・変更する.....	204

D

DVD VIDEO 再生ソフト.....	57
----------------------	----

DVD メディア	
読み込み・再生.....	57

E

eSATA コネクタ (オプション).....	24, 93
-------------------------	--------

F

FD (フロッピーディスク)	
製品保護上の注意.....	16
Fn キー.....	36, 38

G

gOO スティック.....	26, 79
インストール.....	170

H

HDD アクセス制限.....	140
HDD アクセスランプ.....	23
HDD 設定変更サービス.....	44
HDD (ハードディスクドライブ).....	43
購入時の状態.....	43
使う.....	43
データを消去する (廃棄時).....	213
取り付け・取り外し.....	122
取り付け・取り外し後の作業.....	128
HDD ベイ.....	96
HDD 領域	
分割・変更・作成.....	200

I

IEEE1394 コネクタ.....	24, 92
Information キー.....	39
Intel Matrix Storage Manager.....	25
Internet Explorer.....	77
情報バー.....	78
追加機能.....	79
i-フィルター 30 日版.....	26, 85
インストール.....	168
管理パスワード.....	86
ユーザー登録.....	169

J

Java2 Runtime Environment	25
JWord Plugin.....	26, 79
インストール.....	170

L

LAN 機能	73
LAN ケーブル	73
LAN コネクタ.....	24, 73

M

MS-IME.....	37
-------------	----

N

Nero 8 Essentials	25, 58
インストール.....	167
使い方.....	59
Nero 8 Essentials CD-ROM	25, 157
Norton Internet Security 90 日版.....	26, 82
インストール.....	166
ファイアウォール機能.....	83
NTFS ファイルシステム	43
Num Lock.....	38

O

OS	20
----------	----

P

PCI Express スロット.....	110
PCI スロット	110
PC お役立ちナビ.....	4
データのバックアップ.....	197
Power キー.....	39
Power メニュー画面	148

R

RAID 機能.....	46
--------------	----

S

Scroll Lock.....	38
SD カードスロット	23, 62
SD メモリーカード	60

Sleep キー	39, 90
Supervisor Password (管理者パスワード).....	138

T

TPM.....	199
----------	-----

U

USB 機器	65
接続と取り外し	65
使う	65
USB コネクタ	23, 24
User Password (ユーザーパスワード).....	138

W

Wakeup On LAN	74
Web フィルタリングソフトウェア.....	85
インストール.....	168
Windows Defender.....	84
Windows Media Player	71
Windows RE	190
Windows Update	80
Windows Vista	25
インストール.....	161
Windows Vista リカバリ DVD	25, 157
Windows 回復環境	190
Windows メール.....	77
初期設定.....	77
Windows を修復する.....	156
WinDVD	25, 57
インストール.....	167
WinDVD CD-ROM.....	25, 157

あ

アイコン.....	21
アップデート	
Windows	80
暗号化	45, 199

い

色の設定	67
インストール	
106 PS/2 コンパクトキーボードユーティリティ	168
Adobe Reader	165

goo スティック	170
i-フィルター 30 日版	168
JWord Plugin	170
Nero 8 Essentials	167
Norton Internet Security 90 日版	166
Web フィルタリングソフトウェア	168
WinDVD	167
拡張ボードのドライバー	165
セキュリティーソフトウェア	166
セキュリティーチップユーティリティ	172, 199
ビデオドライバー	165
本体ドライバー	164
マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版	171
インターネット	77

え

エラーメッセージ	183
----------------	-----

お

オーディオ機器の接続	69
お手入れ	196
オペレーティングシステム	20
音量の調節	70, 72

か

解像度の設定	67
書き込み	
光ディスクメディア	58
拡張スロット	24, 96, 110
拡張パーティション	205
拡張ボード	
ドライバーインストール	165
取り付け・取り外し	111
取り付け・取り外し後の作業	114
各部の名称	23
カスタマイズ	18
カテゴリの表示	33
かな入力	37
画面表示できないときは	177
管理者	34, 159
管理者パスワード (BIOS)	138
管理パスワード	
i-フィルター 30 日版	86

き

キーボード	36
キーボードコネクタ	24
キーボードユーティリティ	25
インストール	168
キーボードユーティリティアイコン	39
キーロック表示ランプ	36, 38
起動順位の變更	141, 149
起動できないときは	177
機能キー	36
機能仕様一覧	215
休止状態	89
有効にする	89
強制的に電源を切る	31
記録メディア	16

く

クラシック表示	33
クリック	42

こ

コピーコントロール CD	54
困ったときは	175
コントロールパネルの表示	33
コンパクトフラッシュ	60
コンパクトフラッシュスロット	23, 62
コンピューターウイルス	82
コンピューター内部のコネクタ	212
コンピューターの廃棄	213
コンピューターを購入時の状態にする	161

さ

再インストール	156
再起動	31
再生	
CD メディア	57
DVD メディア	57
音声	71
サウンド機能	69
サウンドコネクタ	23, 24, 69, 70
サウンドドライバー	25
サウンドユーティリティ	71
サウンドレコーダー	71

し

システム診断ツール.....	26, 192
HDD のデータ消去.....	213
システムの拡張.....	95
システムの復元.....	33, 186
シャットダウン.....	29
使用可能なメモリーカード.....	60
消去禁止領域.....	44
常駐ソフトの停止.....	185
省電力	
移行する.....	90
時間経過で移行させない.....	90
種類.....	88
復帰方法.....	91
使用・保管時の注意.....	15
初期設定ツール.....	159
初期値に戻す.....	136, 138
シリアル ATA.....	43, 54
シリアル ATA ケーブル.....	117
シリアル ATA コネクタ.....	116
シングルチャンネル.....	105

す

数値キー.....	36
スクロール.....	42
スタートボタン.....	21
スタートメニュー.....	21
スピーカー.....	69
スマートメディア.....	60
スマートメディアスロット.....	23, 62
スリープ.....	30, 88
復帰方法.....	30, 91
スロットカバー.....	111

せ

制御キー.....	36
製品保護上の注意.....	15
セーフモード.....	185
セキュリティーソフトウェア.....	26, 82
インストール.....	166
セキュリティーチップ (TPM).....	199
セキュリティーチップユーティリティ.....	26
インストール.....	172, 199

セキュリティーロックスロット.....	24, 94
接続と取り外し	
eSATA 機器.....	93
IEEE1394 機器.....	93
USB 機器.....	65
設定値を元に戻す.....	136
セットアップ	
Adobe Reader.....	166
セットと取り出し	
メモリーカード.....	61
前回正常起動時の構成で起動する.....	187

そ

増設	
5.25 型ドライブ.....	118
HDD.....	122
拡張ボード.....	110
メモリー.....	104
ソフトウェア.....	25
強制終了.....	31
再インストール.....	156

た

タスクバー.....	21
タブ.....	21
ダブルクリック.....	42

ち

チップセットドライバー.....	25
直接入力モード.....	37

つ

通知領域.....	21
通風孔.....	24

て

ディスクの管理.....	206
ディスプレイの電源を切る.....	88
ディスプレイ	
設定.....	68
データの暗号化.....	199
デスクトップ.....	21
デュアルチャンネル.....	105

電源コネクタ	24
電源スイッチ	23
電源ランプ	23
表示	91
電源を入れる	28
電源を切る	29
電池ホルダー	189, 210
添付されているソフトウェア	25

と

ドライバー CD	25, 157
ドライブの装着	
5.25 型ドライブ	118
HDD	122
ドライブベイ	96
ドライブ名	63, 159
ドラッグアンドドロップ	42
トラブルが発生したら	176
取り付け・取り外し	
5.25 型ドライブ	118
5.25 型フェイスプレート	119
HDD	122
拡張ボード	111
フロントパネル	101
本体カバー	98
メモリー	105
取り付け・取り外し後の作業	
5.25 型ドライブ	121
HDD	128
拡張ボード	114
メモリー	109
「取り外し」アイコン	66, 93, 94

に

日本語入力システム	37
日本語入力モード	37

ね

ネットワーク機能	73
ネットワークドライバー	25

は

パーティション	205
ハードディスクドライブ (HDD)	43

データ消去 (廃棄時)	213
領域の分割・変更・作成	200
廃棄 (コンピューター)	213
ハイブリッドスリープ	89
パスワード (BIOS)	138
バックアップ	43, 161, 197
パラレルコネクタ	24, 92
ハンガアップ	31

ひ

光ディスクドライブ	23
使う	54
光ディスクドライブアクセスランプ	23
光ディスクドライブイジェクトボタン	23
光ディスクメディア	
書き込み	58
製品保護上の注意	16
読み込み	57
ビデオドライバー	25
インストール	165
ビデオボード	24, 67, 114
表示機能	67
表示装置	
設定	68
標準ユーザー	35

ふ

ファイアウォール	83
フィッシング詐欺検出機能	84
フォルダーメニュー	34
復元ポイントの作成	33, 186
復帰方法	
省電力状態	91
プライマリパーティション	205
プロバイダー	77
フロントパネル	
取り外し・取り付け	101

へ

ヘッドフォン出力コネクタ	23, 69
--------------	--------

ほ

ボタン	21
-----	----

ホットキー.....	36, 39
ボリューム.....	70, 72
本体カバー	
取り外し・取り付け.....	98
本体ドライバー.....	25
インストール.....	164

ま

マイク.....	69
マイク使用時の音量調節.....	72
マイク入力コネクタ.....	23, 24, 69, 70
マウス.....	42
製品保護上の注意.....	17
操作.....	42
マウスコネクタ.....	24
マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版.....	26, 79
インストール.....	171
マニュアルびゅうわ.....	5
マルチカードリーダー.....	23, 60
アクセスランプ.....	23
マルチメディアカード.....	60

み

右クリック.....	42
------------	----

め

メモリー	
仕様.....	104
スロット.....	96, 104
増設.....	104
増設・交換後の作業.....	109
取り付け・取り外し.....	105
メモリーカード.....	60
セットと取り出し.....	61
メモリースティック.....	60
メモリースティックスロット.....	23, 62

も

文字キー.....	36
文字を入力するには.....	37

ゆ

ユーザーアカウント.....	34
----------------	----

作成.....	34
ユーザーアカウント制御画面.....	35
ユーザー登録	
i フィルター 30 日版.....	169
マカフィー SiteAdvisor Plus 30 日版.....	171
ユーザーパスワード (BIOS).....	138
削除.....	140

よ

読み込み・再生	
CD メディア.....	57
DVD メディア.....	57

ら

ライティングソフト.....	58
ライン出力コネクタ.....	24, 70
ライン入力コネクタ.....	24, 70

り

リカバリー.....	156
リチウム電池の交換.....	209
リフレッシュレートの設定.....	68
リムーバブルディスク.....	63, 64
リモートブート.....	76
領域の作成.....	172

ろ

ローマ字入力.....	37
録音	
音声.....	71
音量調節.....	72
論理ドライブ.....	205

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

使用限定について

本製品は、OA 機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24 時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピューターには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1 日約 8 時間、1 ヶ月で 25 日間のご使用で約 5 年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

JIS C 61000-3-2 適合品

本製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しております。

電源の入力波形は、正弦波のみをサポートしています。

パソコン回収について

当社では、不要になったパソコンの回収・再資源化を行っています。

PC リサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。

パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。



<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販の CD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡ください。よろしくお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Media、BitLocker、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、Pentium、Celeron、Intel Core、Core Inside は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- PS/2 は International Business Machines の登録商標です。
- Symantec、Symantec ロゴ、Norton Internet Security、Norton Antivirus、LiveUpdate は、Symantec Corporation の登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Memory Stick、マジックゲート、Memory Stick のロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- Multi Media CardTM は、ドイツ Infineon Technologies AG 社の商標です。
- SD ロゴは商標です。
- SmartMediaTM、及びそのロゴは、株式会社 東芝の商標です。

そのほかの社名、製品名は、一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です

